

教育課程（第一部幼稚園教員・保育士養成科）

児童福祉法施行規則による区分		左記に対応する開設科目名	授業形態	必修	選択	備考	1年		2年		合計	
教養科目	外国語、体育以外の科目	哲学	講義		2				2	30	2	30
		倫理学	講義	2					2	30	2	30
		教育学	講義	2			2	30			2	30
		日本国憲法	講義	2			2	30			2	30
		社会学	講義		2				2	30	2	30
		自然科学概論	講義		2				2	30	2	30
		情報機器の操作	演習	2					2	60	2	60
	外国語	英語	演習	2			1	30	1	30	2	60
	体育	体育	講義 実技	1 1			1	15			1 1	15 45
	小計				12	6		6	105	12	255	18
専門	保育の本質・目的に関する科目	保育原理Ⅰ	講義	2			2	30			2	30
		保育原理Ⅱ	講義		2	*			2	30	2	30
		教育原理	講義	2			2	30			2	30
		児童家庭福祉	講義	2			2	30			2	30
		社会福祉	講義	2			2	30			2	30
		相談援助	演習	1					1	30	1	30
		社会的養護Ⅰ	講義	2					2	30	2	30
		社会的養護Ⅱ	講義		2	*			2	30	2	30
		教職概論	講義	2					2	30	2	30
	小計				13	4		8	120	9	150	17
門	保育の対象の理解に関する科目	発達心理学Ⅰ	講義	2			2	30			2	30
		発達心理学Ⅱ	演習		1	*	1	30			1	30
		教育心理学	演習	1			1	30			1	30
		子どもの保健Ⅰ	講義	4					4	60	4	60
		子どもの保健Ⅱ	演習	1					1	30	1	30
		子どもの食と栄養	演習	2			2	60			2	60
		家庭支援論	講義	2					2	30	2	30
		教育行政	講義	2					2	30	2	30
		小計				14	1		6	150	9	150
教育科目	保育の内容・方法に関する科目	教育課程総論	講義	2			2	30			2	30
		保育内容指導法Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		保育内容指導法Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		健康Ⅰ	演習	1					1	30	1	30
		健康Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		人間関係Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		人間関係Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		環境Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		環境Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		言葉Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		言葉Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		表現Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		表現Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		乳児保育Ⅰ	演習	2			2	60			2	60
		乳児保育Ⅱ	演習		1	*			1	30	1	30
		障害児保育	演習	2			2	60			2	60
		社会的養護内容	演習	1					1	30	1	30
		保育相談支援	演習	1					1	30	1	30
		児童文化	演習		1	*	1	30			1	30
		教育相談論	演習	2					2	60	2	60
教育・保育実地研究	演習	2				2	60			2	60	
小計				18	8		14	390	12	360	26	750
目	保育の表現技術	音楽Ⅰ	演習	2			2	60			2	60
		音楽Ⅱ	演習		2	*			2	60	2	60
		音楽Ⅲ	演習		2	*	2	60			2	60
		図画工作Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		図画工作Ⅱ	演習		2	*			2	60	2	60
		体育Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		体育Ⅱ	演習		2	*			2	60	2	60
		国語	講義	2				2	30			2
小計				6	8		8	210	6	180	14	390
保育実習	保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4			4	180			4	180
		保育実習指導Ⅰ	演習	2			2	60			2	60
		保育実習Ⅱ	実習		2	*			2	90	2	90
		保育実習指導Ⅱ	演習		1	*			1	30	1	30
		保育実習Ⅲ	実習		2				2	90	2	90
		保育実習指導Ⅲ	演習		1				1	30	1	30
		教育実習Ⅰ	実習	4					4	180	4	180
		教育実習Ⅱ	実習		2				2	90	2	90
		実習指導(事前・事後)	演習	1					1	30	1	30
小計				11	8		6	240	13	540	19	780
総合演習	総合演習	保育実践演習	演習	2					2	60	2	60
		教職実践演習(幼稚園)	演習	2					2	60	2	60
小計				4				4	120	4	120	
合計				78	35		48	1,215	65	1,755	113	2,970
卒業に必要な総授業時間				78	12		47	1,185	43	1,155	90	2,340

* 印 保育士選択必修科目18単位以上開設中9単位(保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱを含む)以上履修のこと。

教 育 課 程（第一部保育士養成科）

児童福祉法施行規則 による区分		左記に対応する 解説科目名	授業 形態	必修	選択	備考	1年		2年		合計	
教 養 科 目	外国語、体育以外の 科目	哲学	講義		2				2	30	2	30
		倫理学	講義	2					2	30	2	30
		教育学	講義	2			2	30			2	30
		日本国憲法	講義	2			2	30			2	30
		社会学	講義		2				2	30	2	30
		自然科学概論	講義		2				2	30	2	30
	外 国 語	英語	演習	2			1	30	1	30	2	60
体 育	体育	講義	1			1	15			1	15	
		実技	1					1	45	1	45	
小 計				10	6		6	105	10	195	16	300
専 門	保育の本質・目的 に関する科目	保育原理Ⅰ	講義	2			2	30			2	30
		保育原理Ⅱ	講義		2	*			2	30	2	30
		教育原理	講義	2			2	30			2	30
		児童家庭福祉	講義	2			2	30			2	30
		社会福祉	講義	2			2	30			2	30
		相談援助	演習	1					1	30	1	30
		社会的養護Ⅰ	講義	2					2	30	2	30
		社会的養護Ⅱ	講義		2	*			2	30	2	30
	教職概論	講義	2					2	30	2	30	
	小 計				13	4		8	120	9	150	17
門	保育の対象の理解に 関する科目	発達心理学Ⅰ	講義	2			2	30			2	30
		発達心理学Ⅱ	演習		1	*	1	30			1	30
		教育心理学	演習	1			1	30			1	30
		子どもの保健Ⅰ	講義	4					4	60	4	60
		子どもの保健Ⅱ	演習	1					1	30	1	30
		子どもの食と栄養	演習	2					2	60	2	60
		家庭支援論	講義	2					2	30	2	30
		小 計				12	1		4	90	9	180
教 育 科 目	保育の内容・方法 に関する科目	教育課程総論	講義	2			2	30			2	30
		保育内容指導法Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		保育内容指導法Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		健康Ⅰ	演習	1					1	30	1	30
		健康Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		人間関係Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		人間関係Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		環境Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		環境Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		言葉Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		言葉Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		表現Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		表現Ⅱ	演習		1				1	30	1	30
		乳児保育Ⅰ	演習	2			2	60			2	60
		乳児保育Ⅱ	演習		1	*			1	30	1	30
		障害児保育	演習	2			2	60			2	60
		社会的養護内容	演習	1					1	30	1	30
		保育相談支援	演習	1					1	30	1	30
児童文化	演習		1	*	1	30			1	30		
保育実地研究	演習	2			2	60			2	60		
小 計				16	8		14	390	10	300	24	690
目	保育の表現技術	音楽Ⅰ	演習	2			2	60			2	60
		音楽Ⅱ	演習		2	*			2	60	2	60
		音楽Ⅲ	演習		2	*	2	60			2	60
		図画工作Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		図画工作Ⅱ	演習		2	*			2	60	2	60
		体育Ⅰ	演習	1			1	30			1	30
		体育Ⅱ	演習		2	*			2	60	2	60
小 計				4	8		6	180	6	180	12	360
保 育 実 習	保育実習Ⅰ	実習	4			4	180			4	180	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2			2	60			2	60	
	保育実習Ⅱ	実習		2	*			2	90	2	90	
	保育実習指導Ⅱ	演習		1	*			1	30	1	30	
	保育実習Ⅲ	実習		2				2	90	2	90	
	保育実習指導Ⅲ	演習		1				1	30	1	30	
小 計				6	6		6	240	6	240	12	480
総 合 演 習	保育実践演習	演習	2					2	60	2	60	
小 計				2				2	60	2	60	
保 育 士 資 格 以 外 の 特 別 科 目	保育士科講座Ⅰ	演習		1		1	30			1	30	
	保育士科講座Ⅱ	演習		1				1	30	1	30	
	情報機器の操作	演習		2				2	60	2	60	
	国語	講義		2		2	30			2	30	
	教職実践演習（幼稚園）	演習		2				2	60	2	60	
	小 計					8		3	60	5	150	8
合 計				63	41		47	1,185	57	1,455	104	2,640
卒業に必要な総授業時間				63	14		44	1,125	33	825	77	1,950

* 印 保育士選択必修科目18単位以上開設中9単位(保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱを含む)以上履修のこと。

教育課程（第二部幼稚園教員・保育士養成科）

児童福祉法施行規則による区分		左記に対応する開設科目名	授業形態	必修	選択	備考	1年	2年	3年	合計				
教養科目	外国語、体育以外の科目	哲学	講義		2			2	30		2	30		
		倫理学	講義	2			2	30			2	30		
		教育学	講義	2				2	30		2	30		
		日本国憲法	講義	2			2	30			2	30		
		社会学	講義		2				2	30		2	30	
		自然科学概論	講義		2				2	30		2	30	
		情報機器の操作	演習	2						2	60	2	60	
	外国語	英語	演習	2			1	30	1	30		2	60	
	体育	体育	講義 実技	1 1			1 1	15			1 1	15 45		
	小計				12	6		6	105	10	195	2	60	18
専門	保育の本質・目的に関する科目	保育原理Ⅰ	講義	2			2	30			2	30		
		保育原理Ⅱ	講義		2	*			2	30		2	30	
		教育原理	講義	2			2	30			2	30		
		児童家庭福祉	講義	2						2	30	2	30	
		社会福祉	講義	2					2	30		2	30	
		相談援助	演習	1						1	30	1	30	
		社会的養護Ⅰ	講義	2						2	30	2	30	
		社会的養護Ⅱ	講義		2	*				2	30	2	30	
		教職概論	講義	2					2	30		2	30	
小計				13	4		4	60	6	90	7	120	17	270
門	保育の対象の理解に関する科目	発達心理学Ⅰ	講義	2			2	30			2	30		
		発達心理学Ⅱ	演習		1	*	1	30			1	30		
		教育心理学	演習	1			1	30			1	30		
		子どもの保健Ⅰ	講義	4						4	60	4	60	
		子どもの保健Ⅱ	演習	1						1	30	1	30	
		子どもの食と栄養	演習	2						2	60	2	60	
		家庭支援論	講義	2						2	30	2	30	
		教育行政	講義	2					2	30		2	30	
小計				14	1		4	90	2	30	9	180	15	300
教科	保育の内容・方法に関する科目	教育課程総論	講義	2			2	30			2	30		
		保育内容指導法Ⅰ	演習	1						1	30	1	30	
		保育内容指導法Ⅱ	演習		1	*				1	30	1	30	
		健康Ⅰ	演習	1				1	30			1	30	
		健康Ⅱ	演習		1				1	30		1	30	
		人間関係Ⅰ	演習	1			1	30				1	30	
		人間関係Ⅱ	演習		1				1	30		1	30	
		環境Ⅰ	演習	1			1	30				1	30	
		環境Ⅱ	演習		1				1	30		1	30	
		言葉Ⅰ	演習	1			1	30				1	30	
		言葉Ⅱ	演習		1				1	30		1	30	
		表現Ⅰ	演習	1					1	30		1	30	
		表現Ⅱ	演習		1	*			1	30		1	30	
		乳児保育Ⅰ	演習	2					2	60		2	60	
		乳児保育Ⅱ	演習		1	*					1	30	1	30
		障害児保育	演習	2			1	30	1	30		2	60	
		社会的養護内容	演習	1					1	30		1	30	
		保育相談支援	演習	1							1	30	1	30
		児童文化	演習		1	*			1	30		1	30	
		教育相談論	演習	2					2	60		2	60	
小計				16	8		6	150	14	420	4	120	24	690
目	保育の表現技術	音楽Ⅰ	演習	2			2	60			2	60		
		音楽Ⅱ	演習		2	*			2	60		2	60	
		音楽Ⅲ	演習		1	*	1	30				1	30	
		図画工作Ⅰ	演習	1			1	30				1	30	
		図画工作Ⅱ	演習		1	*	1	30				1	30	
		体育Ⅰ	演習	1					1	30		1	30	
		体育Ⅱ	演習		2	*			2	60		2	60	
		国語	講義	2			2	30				2	30	
小計				6	6		7	180	5	150			12	330
保育実習	保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4					2	90	2	90	4	180
		保育実習指導Ⅰ	演習	2					2	60		2	60	
		保育実習Ⅱ	実習		2	*					2	90	2	90
		保育実習指導Ⅱ	演習		1	*				1	30	1	30	
		保育実習Ⅲ	実習	2						2	90	2	90	
		保育実習指導Ⅲ	演習		1					1	30	1	30	
		教育実習Ⅰ	実習	4					4	180		4	180	
		教育実習Ⅱ	実習		2				2	90		2	90	
		実習指導(事前・事後)	演習	1					1	30		1	30	
小計				11	8			11	450	8	330	19	780	
総合演習	総合演習	保育実践演習	演習	2						2	60	2	60	
		教職実践演習(幼稚園)	演習	2						2	60	2	60	
小計				4					4	120	4	120		
合計				76	33		27	585	48	1,335	34	930	109	2,850
卒業に必要な総授業時間				76	10		27	585	32	915	27	720	86	2,220

* 印 保育士選択必修科目18単位以上開設中9単位(保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱを含む)以上履修のこと。

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 哲学		授業の種類 講義	授業担当者 小林 根
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部2年・二部2年	必修・選択 選択
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>西洋哲学の代表論者の言葉に耳を傾けることで、現代に至る思想の変遷を味わう。また、古典的哲学が我々の行動様式にどのような影響を与えてきたかを概観する。</p> <p>将来、子供に関わる仕事につく皆さんにとっては、「善」「悪」や「かくあるべし」といった規範意識や道徳性、あるいは道徳哲学についても様々な論者の考えを知り、そしてそれらを多角的に考えることは大変有用だと考える。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>西洋哲学における代表論者の基本的知識を提供する。さらに、それらを体系的概括的に理解し、西洋哲学であつかわれてきた諸問題（哲学思想）に対し自分の考えをもち、それらを表現する。</p>			
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション…講義の概要、目的、意義、評価についてなど 2 哲学とは…哲学とは、「哲学する」とはどのようなことか 3 古代ギリシャ哲学①…古代ギリシャ哲学における人間論 4 古代ギリシャ哲学②…古代ギリシャ哲学の特徴 5 近代哲学・デカルト①…形而上学とは 6 近代哲学・デカルト②…「近代哲学の父」と称される所以を紐解く 7 近代哲学・スピノザ…合理主義哲学と汎神論 8 ふりかえり…古代ギリシャ哲学、近代哲学・デカルト、スピノザの復習 9 カントの哲学…倫理学(道徳哲学)を中心に 10 ニーチェの哲学…「神は死んだ」、ニヒリズム 11 キルケゴールの哲学…実存主義を考える 12 フッサールの哲学① …現象学とは 13 フッサールの哲学② …超越論的還元、エポケー 14 マルクスの哲学…マルクス主義、資本論 15 試験および全体のまとめ…哲学で学んだことの復習 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>テキストは特に使用しない。 必要に応じて講義中に資料を配付する。</p> <p>参考文献 『哲学入門』三木清、岩波書店</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>15回目の講義中に実施する試験において、合格点（100点満点中、60点以上）を満たせば、単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 倫理学		授業の種類 講 義		授業担当者 大岡 紀理子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年 一部2年・二部1年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>倫理学とは、人間の生き方を探究する学問である。現代は、様々なことが加速度的に変化する時代であり、物事を考えるときには、それぞれの状況や場面に応じて、多角的に捉えて判断する必要性が増している。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>この授業では、重要なテーマでありながら、これまで真剣に向き合う機会の少なかったと考えられる課題や問題を取り上げ、その理解を深める。また、学生が主体になって熟考し、議論する場も持つ。この授業で学び得たことや経験が生かされ、今後、社会において個々人が様々な問題に直面した際に、自ら考え、責任を持った言動をし、しっかりと乗り越えていくことを切望する。</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 倫理学とは 2 世界の現状について 3 社会と倫理について 4 認知・理解・誤解・先入観・データについて 5 命と食について 6 子どもの権利条約について 7 赤ちゃんポストについて 8 代理母について 9 児童虐待について 10 死刑制度について 11 動物実験について 12 臓器移植について 13 出生前診断について 14 安楽死について 15 まとめとテスト 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>【参考文献】 『倫理とは何か：猫のインジヒトの挑戦』永井均、筑摩書房</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>授業態度・ディベート・テストから総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育学		授業の種類 講義	授業担当者 大岡 紀理子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 一部1年・二部2年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>教育の基礎的概念・理論・歴史・思想等について学び、教育の意義・目的を理解する。そして、現在の教育の諸課題に関する基礎的な内容について、理解することを目標とする。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>「教育とは何か」、「教育は何をめざすか」という教育の意義や目的、人間の成長・発達について、基本的な内容を理解する。また、西欧及び日本における教育の理念や思想の歴史的変遷を踏まえるとともに、現在の日本の教育について多様な観点から考察する。</p>			
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 教育の意義と目的</p> <p>第3回 教育の歴史(1)（「子どもの誕生」）</p> <p>第4回 教育の歴史(2)（家庭教育・学校教育）</p> <p>第5回 諸外国の教育理論</p> <p>第6回 日本の教育理論</p> <p>第7回 教育の制度</p> <p>第8回 教育の方法とカリキュラム</p> <p>第9回 教育に関する思想(1)（コメニウス、ロック、ルソー）</p> <p>第10回 教育に関する思想(2)（ペスタロッチ、フレーベル）</p> <p>第11回 教育に関する思想(3)（ヘルバルト、デューイ、モンテッソリー）</p> <p>第12回 教育の諸課題(1)（求められる教員像と教員評価）</p> <p>第13回 教育の諸課題(2)（学級課題とその背景）</p> <p>第14回 教育の諸課題(3)（日本・諸外国の教育改革動向）</p> <p>第15回 まとめ・テスト</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>講義資料は適時紹介する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>『ヒューマニティーズ教育学』広田照幸、岩波書店</p> <p>『教育学がわかる辞典』田中智志、日本実業出版社</p> <p>『教育学21の問い』沼田裕之・増淵幸男、福村出版</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験・提出物・授業態度等を総合的に評価す</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育学		授業の種類 講義		授業担当者 亀田 良克	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 二部2年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 教育とは、教育の基礎的概念・理論・歴史・思想等について学び、教育の意義・目的を理解する。そして、現在の教育の諸課題に関する基礎的な内容について、理解することを目標とする。</p>					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕 「教育とは何か」、「教育は何をめざすか」という教育の意義や目的、人間の成長・発達について、基本的な内容を理解する。また、西欧及び日本における教育の理念や思想の歴史の変遷を踏まえるとともに、現在の日本の教育について多様な観点から考察する。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数 第1回 オリエンテーション 第2回 教育の意義と目的 第3回 教育の歴史(1)(世界)(学校の誕生～子どもの発見～新教育運動) 第4回 教育の歴史(2)(日本)(幕末維新期～近代～戦後) 第5回 教育に関する思想(1)(コメニウス、ロック、ルソー) 第6回 教育に関する思想(2)(ペスタロッチ、フレーベル) 第7回 教育に関する思想(3)(ヘルバルト、デューイ、モンテッソリー) 第8回 教育の制度 第9回 教育の方法とカリキュラム 第10回 教育評価について 第11回 人権と教育 第12回 教育の諸課題(1)(いじめ問題) 第13回 教育の諸課題(2)(学力問題) 第14回 教育の諸課題(3)(望ましい保育者像) 第15回 まとめ・テスト</p>					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 講義資料は適時紹介する。 【参考文献】 『ヒューマニティーズ教育学』広田照幸、岩波書店 『教育学がわかる辞典』田中智志、日本実業出版社 『教育学21の問い』沼田裕之・増淵幸男、福村出版</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験・提出物・授業態度から総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 日本国憲法		授業の種類 講義		授業担当者 山下 恵市	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年 一部1年・二部1年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 日常の生活で認識していない日本国憲法は私たちの生活の基盤であることを改めて見直し、論理だっ て考えることで、将来の仕事にも応用する。</p>					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕 どのように現在の憲法が成立したかの歴史的把握から始め、各条文を追いながら、条文の趣旨を学習 する。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <p>1 憲法の歴史概説（17条の憲法、権利章典、アメリカ合衆国憲法、人権宣言、明治憲法、現在の日本 国憲法）</p> <p>2 本教科書の学び方の概説</p> <p>3 大日本帝国憲法と現在の日本国憲法</p> <p>4 園児に憲法を易しく理解されるように憲法を説明する。</p> <p>5 憲法の3大原則 憲法を遵守することが求められているのは誰かを考察</p> <p>6 世界に誇れる憲法前文を学習する。</p> <p>7 憲法前文から民主主義、主権在民及び国際平和主義を学習する。</p> <p>8 憲法の第1章：天皇</p> <p>9 憲法の第2章：戦争の放棄</p> <p>10 憲法の第3章：国民の権利及び義務</p> <p>11 日本国民たる要件</p> <p>12 基本的人権（憲法による保障と法律による保障の相違）</p> <p>13 自由・権利の保持と責任と公共の福祉との相関及び個人の尊重・幸福追求権</p> <p>14 憲法のまとめ（基本的人権の確立、憲法は国民を国家権力から守り、法律は国民の権利を制限する ことの差異を確認）</p> <p>15 試験とその目的（憲法前文、道徳・法律・憲法の相違、基本的人権、憲法による経済的弱者の救済</p>					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 「憲法入門」伊藤 真著</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 期末筆記試験</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会学	授業の種類 講義	授業担当者 亀田 良克	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 一部1年・二部1年	必修・選択 選択
〔 授業の目的・ねらい 〕 1 社会学の基本的枠組みを理解する 2 社会学的視点を養うために、さまざまな世の中の事象に触れる 3 社会学と事象との関連性を追求し、解決の技法の一つとしての社会学を学ぶ			
〔 授業全体の内容の概要 〕 ・身の回りで起こるさまざまな事象に関しての社会学的視点を養い、解明する手立ての一つとしての社会学を学ぶ			
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 1 さまざまな福祉、保育技術を実践するにあたり、社会学的知見に基づいたものを考察できるようになる 2 社会調査活動の重要性を理解し、社会学の活用場面を吟味できる考えを身につける			
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数 1 社会学とは、どのような学問か。社会学の歴史的展開と課題 2 行為論① 行為と行動、作為の四類型、マズローの欲求階層 3 行為論② 社会規範、資源、準拠集団、社会化 4 相互作用論 地位と役割、自我の構造、ラベリング 5 集団論 集団と相互作用、集団のメカニズム、集団の類型等 6 社会的存在としての人間 社会集団と文化、自我の社会性、自己と他者 7 家族 社会学における家族の定義、制度・集団としての家族、家族の機能・役割、家族変容等 8 地域社会 日本社会の性格、都市化、コミュニティー福祉の理念と方法、ボランティア等 9 『QOL』とライフスタイル 生活に関する諸概念、現代社会の問題、豊かさと生活の質、生活の質とその指標 10 ジェンダー ジェンダーの考え、性別分業と性差別等 11 情報化 情報化と情報社会、コミュニケーションと情報化、福祉と情報化等 12 国際化 外国人労働者、福祉の国際化、福祉の国際比較等 13 社会問題 構造、新しい社会問題、転換期の社会問題、人権・生存権・社会権 14 社会学と社会福祉 社会政策と福祉政策、社会計画と社会指標等 15 まとめとテスト			
〔使用テキスト・参考文献〕 社会福祉士養成講座「社会学」中央法規		〔単位認定の方法及び基準〕 筆記テスト(100点満点)60～69点を「可」 70～79点を「良」・80点以上を「優」とし、 授業に臨む姿勢を加味し単位を認定する。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 自然科学概論		授業の種類 講義	授業担当者 亀田 良克
授業の回数 15	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 一部2年・二部2年	必修・選択 選択
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 科学の進歩は、「不思議だな」「どうしてだろう」と考えるところから始まる。本講義では、空・海・山・光など自然現象を解明し、人類は自然の恩恵に生かされていることから、地球問題に目を向け、自分たちには今何が出来るのかを探っていく。そして、日常生活を送る中で、感じることや疑問から、自分たちで発明品を作る試みを通して、発想力や工夫する力、表現力につなげていく。その実践力こそ、保育者にとって必要な力となっていくのである。物事を結果のみで判断するのではなく、何事も結果に行き着くまでのプロセスが大切である。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕 人類・科学の進歩は、人間一人ひとりが自分の意見を持ち、他人と意見を交換しながら、共感、譲り合いをしていくプロセスの中で深まっていく。そのため、どのように自分自身の意見や疑問、発想などを他人に伝えていけばよいのか考えていくことも大切なプロセスのため、講義授業の形式ではあるが演習もたくさん行っていく。そして、人類の原点を学びながら、保育者として大切なコミュニケーション力やプレゼンテーション力を育む授業とする。</p>			
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要説明。自然とは(人類は大自然の中で生かされている)。人類が生み出した科学の力。 2 私達が生きている地球は今・・・温暖化やオゾン層破壊、異常気象や森林伐採 3 新聞記事から、地球環境問題について考えてみよう。(グループごとにディスカッション、改善策) (1) 4 新聞記事から、地球環境問題について考えてみよう。(グループごとにポスター発表) (1) 5 校外散策(地域の環境に目を向ける) 6 校外散策から地域環境の中で気づいたことや疑問に感じたことを出し合う。 7 校外散策から地域環境の中で気づいたこと、その環境の意味についてグループごとに発表する。 8 人類が作った科学に目を向けてみよう。(科学の進歩で利便性や効率化) 9 身近な科学・・・家庭電化製品について考えてみよう 10 科学の始まりは、発想と工夫。既成のものから発明してみよう(デザイン画) 11 発明品発表会 12 身近な廃材魅力や発明品(新聞紙や紙コップ、ペットボトルや牛乳パックなど) 13 身近な廃材で発明品を作ろう(災害時お助けグッズ) 14 身近な廃材で作った発明品発表会 15 レポートまとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 『環境倫理学 環境哲学入門』ジョゼフ・R.デ・ジャルダン著、新田功・生方卓・藏本忍・大森正之(訳) 『エコロジカル・フットプリント-地球環境維持のための実践プランニングツール-』Wackernagel, Mathis・Rees, William E. 著/和田善彦【監訳】/池田真里【訳】</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 授業意欲点・意識点・社会人としての意識点 授業態度や提出物 グループでの協調性・まとめる力 プレゼンテーション力</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 情報機器の操作		授業の種類 演習	授業担当者 宮原 裕美
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部2年・二部3年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>ワープロや表計算、画像処理ソフトやインターネットなどを通してパソコンリテラシーやOSなど、情報機器の基本操作を身につけます。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>文書作成、編集。 表計算データ処理、グラフ作成、データ処理。 画像データの処理と編集。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、USBメモリの操作とフォルダの作成、タイピング練習、保存 2 ワードの基本操作、文書入力、ページ設定（用紙サイズ、余白、文字数） 3 書式設定（フォント、フォントサイズ、文字色、太字、斜体、下線）、文字の配置 4 文書編集、ワードアート、クリップアート、インデント、簡条書き、段落番号 5 図形の挿入と編集、図形の塗りつぶし、線の種類 6 表の挿入と編集、罫線の利用、ページ罫線 7 ルビ、ドロップギャップ、組み文字、割注 8 透かし、改ページ、スタイルの設定と変更 9 ページ番号、ヘッダーとフッター、改ページ 10 段組み、段区切り、スマートアート 11 総合練習問題 前半 12 総合練習問題 後半 13 パワーポイントの操作 前半 14 パワーポイントの操作 後半 15 前期課題の提出・まとめ 16 エクセルの基本操作、画面構成、データ入力と保存 17 書式設定、配置、フォント、列幅 18 表の作成、オートフィル 19 数式の入力 20 関数の入力（合計、平均、最大値、最小値） 21 絶対参照、関数の入力（個数、少数切り捨て） 22 関数（IF,COUNTIF,TODAY,PHONETIC） 23 オートフォーマット、条件付き書式、入力規則 24 ワークシートの連携、3-D参照、統合 25 グラフの作成（折れ線、レーダーチャート、散布図、円 他） 26 図形描画機能の利用、グラフの応用、スマートアート 27 データベース機能（並べ替え、抽出、データ集計） 28 総合練習問題 前半 29 総合練習問題 後半 30 後期課題の提出・まとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>配布プリント よくわかるMicrosoftWord2013演習問題集（FOM出版） よくわかるMicrosoftExcel2013演習問題集（FOM出版）</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>参加態度・課題の提出。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 英 語	授業の種類 演 習	授業担当者 野田 卿子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部2年	必修・選択 必 修
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 幼稚園・保育園に増えてきている外国人の子供たちとその保護者とのコミュニケーションが図れる様、必要な英会話を学習する。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕 文法、読み書き中心の英語学習から、聞く、話す、会話中心の学習によって、実際にコミュニケーションのできる英語学習を目指します。</p>			
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 First Step to Childcare English 保育英会話の基礎 “What’s your name?” 2 Welcome to Minato Nursery School！ 幼稚園への歓迎の言葉 “It’s nice to meet you.” 3 Time and Numbers 時間と数 “Please come to school at 8:00” 4 Directions 地図と道案内 “Is there a shoe store nearby?” 5 Davy Meets His Classmate Takeshi クラスメイトとの出会い “Let’s play with blocks.” 6 Dopping Davy Off and Picking Him Up 登校と降園 “It’s sunnyday today.” 7 Jobs at Nursery School 保育者の仕事 “Mari-sensei’s daily schedule.” 8 Lunchtime 昼食 “Wash your hands,please” 9 Toilet Dialog 排泄に関する会話 “Does anyone need to go potty?” 10 Fighting けんか “Takeshi hit my head.” 11 Injuries and illnesses けがと病気 “What’s the matter?” 12 Telephone calls 電話での対応 “Hello.This is Minato Nursery School” 13 Field Trips 遠足 “We’re going to the zoo next Friday.” 14 Baby care 赤ちゃんのケア “This must be Davy’s baby sister.” 15 Graduation Day 卒園 “Dave, congratuararions!” “まとめと質問&終講試験” 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 赤松直子 九富陽子著 保育の英語（childcare English） 萌文書林</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ペーパーテスト・レポート（クラスでの学習態度も考慮に入れます。）</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 英 語		授業の種類 演 習		授業担当者 山下 恵市	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 二部1年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グローバルにより益々国際語としての英語の必要性が大きくなってきています。 2 日本語に不慣れな新入児にとり、母国語か英語が通じたらどんなに力強いことでしょう。 3 基礎から積み上げることで、英語の苦手意識を払拭します。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英文法の概略を理解する。 2 英文の基礎文型を把握する。 3 少し複雑な長文にも触れる。 4 一行、一行各英文の文法的理解と日本語訳出しをする。 <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英文法を中心に、英文の構造を理解する。 2 第1章「NEW BOOK SAYS PEOPLE MORE POWERFUL THAN DRUGS」の前半を学習。 3 第1章「NEW BOOK SAYS PEOPLE MORE POWERFUL THAN DRUGS」の後半を学習。 4 第2章「YOUNGER GENERATION IN JAPAN LIVING AT HOME LONGER」の前半を学習。 5 第2章「YOUNGER GENERATION IN JAPAN LIVING AT HOME LONGER」の後半を学習。 6 第3章「GOVERNMENT LEADER CALLS ENGLISH VIOLENT AND NATIONALISTIC」の前半を学習。 7 第3章「GOVERNMENT LEADER CALLS ENGLISH VIOLENT AND NATIONALISTIC」の後半を学習。 8 第4章「PEOPLE TO LIVE ON MARS WITHIN THIS CENTURY」の前半を学習する。 9 第4章「PEOPLE TO LIVE ON MARS WITHIN THIS CENTURY」の後半を学習する。 10 第5章「LEARNING: A SERIOUS LIFE—LONG BUSINESS」の前半を学習する。 11 第5章「LEARNING: A SERIOUS LIFE—LONG BUSINESS」の後半を学習する。 12 第6章「FASHION MODELS SELL EGGS ON WEB FOR HIGH PRICE」の前半を学習する。 13 第6章「FASHION MODELS SELL EGGS ON WEB FOR HIGH PRICE」の後半を学習する。 14 講義全般の総復習・期末試験対策 15 試験とその目的 <p>①動詞と活用及び時制の理解②進行形、完了形の理解③修飾語としての副詞の理解④名詞を役割の理解⑤複文の理解</p>					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 「REALLY READING」南雲堂</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 学期末筆記試験</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 体育	授業の種類 講義・実技	授業担当者 中山 恭一																														
授業の回数 15回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部1年・二部1年																														
		必修・選択 必修																														
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>今日のスポーツは多様化を見せている。競技スポーツとして肉体を駆使する人もいれば、余暇として楽しむ人、ゲームを使い体験している人、健康のために運動をしている人など、スポーツはたくさんの人に楽しまれている。また、体育は生涯に渡って運動と健康との関わりについて関心を持ち続けるための基本的学習の場となる。この授業を通して、幼児と関わる保育者は子どもの運動欲求や意欲などを引き出し、興味や喜びを感じながら体力向上に繋げるにはどうすればよいか、指導法について学習する。そして、スポーツを通して自身の状況を把握し、自らが(保育者としても)健康の保持増進を図ることと、良好な人間関係を作るためのコミュニケーションスキルの向上を目的とする。さらに保育の現場において子どもたちの健康を守り支える力の一部分を養うことも目的とする。</p>																																
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>身近にある様々な用具を使い、他者との関わりの中でスポーツを楽しみ、自らが基礎体力と心身ともにより豊かな生活を過ごせる力を養えるよう援助をおこなう。また、生涯スポーツのきっかけとなるような様々なスポーツに自分自身で意欲的に目的を持って取り組む。</p>																																
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 オリエンテーション</td> <td>授業概要、現代の健康観について</td> </tr> <tr> <td>2 バレーボール①</td> <td>基本技術の確認と習得:2人対2人のパスゲーム、3人対3人のローテーション</td> </tr> <tr> <td>3 バレーボール②</td> <td>基本技術・戦術の習得と発展:4人対4人・5人対5人のミニゲーム</td> </tr> <tr> <td>4 バレーボール③</td> <td>6人対6人のゲーム戦術</td> </tr> <tr> <td>5 バレーボール④</td> <td>6人対6人のゲーム(リーグ戦)</td> </tr> <tr> <td>6 性教育・健康教育の視点から“命の尊さ”を学ぶ① (テーマ:臓器移植)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 性教育・健康教育の視点から“命の尊さ”を学ぶ② (テーマ:人工妊娠中絶)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 心肺蘇生法の基礎知識と技術を学ぶ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 心肺蘇生法の実践トレーニング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 バスケットボール①</td> <td>基本技術・個人戦術の習得と発展</td> </tr> <tr> <td>11 バスケットボール②</td> <td>チーム戦術(ミニゲーム)</td> </tr> <tr> <td>12 バスケットボール③</td> <td>実際のルールに則したゲーム</td> </tr> <tr> <td>13 フットサル①</td> <td>基本技術・チーム戦術の習得と発展</td> </tr> <tr> <td>14 フットサル②</td> <td>ゲーム(予選リーグ)</td> </tr> <tr> <td>15 フットサル③</td> <td>ゲーム(決勝リーグ)</td> </tr> </table>			1 オリエンテーション	授業概要、現代の健康観について	2 バレーボール①	基本技術の確認と習得:2人対2人のパスゲーム、3人対3人のローテーション	3 バレーボール②	基本技術・戦術の習得と発展:4人対4人・5人対5人のミニゲーム	4 バレーボール③	6人対6人のゲーム戦術	5 バレーボール④	6人対6人のゲーム(リーグ戦)	6 性教育・健康教育の視点から“命の尊さ”を学ぶ① (テーマ:臓器移植)		7 性教育・健康教育の視点から“命の尊さ”を学ぶ② (テーマ:人工妊娠中絶)		8 心肺蘇生法の基礎知識と技術を学ぶ		9 心肺蘇生法の実践トレーニング		10 バスケットボール①	基本技術・個人戦術の習得と発展	11 バスケットボール②	チーム戦術(ミニゲーム)	12 バスケットボール③	実際のルールに則したゲーム	13 フットサル①	基本技術・チーム戦術の習得と発展	14 フットサル②	ゲーム(予選リーグ)	15 フットサル③	ゲーム(決勝リーグ)
1 オリエンテーション	授業概要、現代の健康観について																															
2 バレーボール①	基本技術の確認と習得:2人対2人のパスゲーム、3人対3人のローテーション																															
3 バレーボール②	基本技術・戦術の習得と発展:4人対4人・5人対5人のミニゲーム																															
4 バレーボール③	6人対6人のゲーム戦術																															
5 バレーボール④	6人対6人のゲーム(リーグ戦)																															
6 性教育・健康教育の視点から“命の尊さ”を学ぶ① (テーマ:臓器移植)																																
7 性教育・健康教育の視点から“命の尊さ”を学ぶ② (テーマ:人工妊娠中絶)																																
8 心肺蘇生法の基礎知識と技術を学ぶ																																
9 心肺蘇生法の実践トレーニング																																
10 バスケットボール①	基本技術・個人戦術の習得と発展																															
11 バスケットボール②	チーム戦術(ミニゲーム)																															
12 バスケットボール③	実際のルールに則したゲーム																															
13 フットサル①	基本技術・チーム戦術の習得と発展																															
14 フットサル②	ゲーム(予選リーグ)																															
15 フットサル③	ゲーム(決勝リーグ)																															
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 「アクティブスポーツ女子版」(大修館書店)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>①授業態度および取り組み ②授業理解・課題達成 ③実技試験</p>																														

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 体育		授業の種類 講義・実技		授業担当者 橋都 和泉	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部2年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>今日のスポーツは多様化を見せている。競技スポーツとして肉体を駆使する人もいれば、余暇として楽しむ人、ゲームを使い体験している人、健康のために運動をしている人など、スポーツはたくさんの人を楽しんでいる。また、体育は生涯に渡って運動と健康との関わりについて関心を持ち続けるための基本的学習の場となる。この授業を通して、幼児と関わる保育者は子どもの運動欲求や意欲などを引き出し、興味や喜びを感じながら体力向上に繋げるにはどうすればよいか、指導法について学習する。そして、スポーツを通して自身の状況を把握し、自らが（保育者としても）健康の保持増進を図ることと、良好な人間関係を作るためのコミュニケーションスキルの向上を目的とする。さらに保育の現場において子どもたちの健康を守り支える力の一部分を養うことも目的とする。</p>					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>身近にある様々な用具を使い、他者との関わりの中でスポーツを楽しみ、自らが基礎体力と心身ともにより豊かな生活を過ごせる力を養えるよう援助をおこなう。また、生涯スポーツのきっかけとなるような様々なスポーツに自分自身で意欲的に目的を持って取り組む。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業について、ムーブメント遊び) 2 ゲーム(ムーブメント遊び) 3 バレーボール ムーブメント遊び 4 ビーチバレーボール ボールゲーム 5 バスケットボール 6 バスビー 7 筋トレ 体力ゲーム 8 サッカー ボールゲーム 9 バドミントン、卓球 10 マット運動、跳び箱、鉄棒、安全面や指導法 11 縄跳び運動(縄遊び、縄ゲーム) 12 リズム体操 エクササイズ 13 トレーニング リズム運動 14 ドッチビー 15 実技試験及びまとめ 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「アクティブスポーツ女子版」(大修館書店)</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業態度および取り組み ②授業理解・課題達成 ③実技試験 		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 体育	授業の種類 講義・実技	授業担当者 渡辺 潤一
授業の回数 15回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部1年・二部1年
必修・選択 必 修		
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>今日のスポーツは多様化を見せている。競技スポーツとして肉体を駆使する人もいれば、余暇として楽しむ人、ゲームを使い体験している人、健康のために運動をしている人など、スポーツはたくさんの人に楽しまれている。また、体育は生涯に渡って運動と健康との関わりについて関心を持ち続けるための基本的学習の場となる。この授業を通して、幼児と関わる保育者は子どもの運動欲求や意欲などを引き出し、興味や喜びを感じながら体力向上に繋げるにはどうすればよいか、指導法について学習する。そして、スポーツを通して自身の状況を把握し、自らが（保育者としても）健康の保持増進を図ることと、良好な人間関係を作るためのコミュニケーションスキルの向上を目的とする。さらに保育の現場において子どもたちの健康を守り支える力の一部分を養うことも目的とする。</p>		
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>身近にある様々な用具を使い、他者との関わりの中でスポーツを楽しみ、自らが基礎体力と心身ともにより豊かな生活を過ごせる力を養えるよう援助をおこなう。また、生涯スポーツのきっかけとなるような様々なスポーツに自分自身で意欲的に目的を持って取り組む。</p>		
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <p>1レクリエーション体験学習 2レクリエーションプログラム計画・実施・評価 3スポーツ大会への参加 4スポーツ大会への参加 5軽スポーツ 6バスケットボール①(ドリブル練習・ゲーム) 7バスケットボール②(ランニングパス練習・ゲーム) 8バスケットボール③(レイアップシュート練習・ゲーム) 9バスケットボール実技試験 10バレーボール①(オーバーハンドパス練習・ゲーム) 11バレーボール②(アンダーハンドパス練習・ゲーム) 12バレーボール③(3段攻撃練習・ゲーム) 13バレーボール実技試験 14乳幼児の応急手当について 15授業のまとめ</p>		
<p>[使用テキスト・参考文献] 「アクティブスポーツ女子版」(大修館書店) 必要に応じてプリント配布。</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①授業態度および取り組み ②授業理解・課題達成 ③実技試験</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 音楽 I（ピアノ）		授業の種類 演 習	授業担当者 渡邊 誠／他16名
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部1年・二部1年	必修・選択 必 修
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>1 保育の場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。 2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をバイエル終了程度とする。 2 年間10回程度のグレード検定試験を行ない、個々のペースにあわせて試験を受けられる。</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数 第1回: ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え グレード設定。 第2回: バイエルNo.1～No.9。正しい姿勢 椅子の高さ 指の位置。 第3回: バイエルNo.10～No.20。指使い 正確な音の長さの理解について。 第4回: バイエルNo.11～No.20。指使い 正確な音の長さの理解スラーについての確認。 第5回: バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置。 第6回: バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置の確認。 第7回: バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価。 第8回: バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価の確認。 第9回: バイエルNo.51～No.79。スタカート アウフタクト ヘ音記号。童謡任意弾き歌い。 第10回: バイエルNo.51～No.79。分散形伴奏 ト長調。童謡任意弾き歌いの確認。 第11回: バイエルNo.80.83.85。前打音 手の交差奏法 ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。童謡任意弾き歌い。 第12回: バイエルNo.88.89.90。16分音符の早い動き 16分休符の意識。童謡任意弾き歌い。 第13回: バイエルNo.91.93.95。イ短調 6度の奏法。童謡任意弾き歌い。 第14回: バイエルNo.96.97.98。前打音装飾音符 3度の動き。童謡任意弾き歌い。 第15回: バイエルNo.80～No.98。の中より任意の2曲 童謡の中より任意の2曲（7グレード）。 第16回: バイエルNo.99.100.101.102。複付点音符 ポジションの跳躍。童謡任意弾き歌い マーチ。 第17回: バイエルNo.99.100.101.102。童謡任意弾き歌い マーチ。 第18回: バイエルNo.103.104.105。半音階奏法。童謡・マーチの奏法。 第19回: バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌い マーチ。 第20回: バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌いマーチの確認。 第21回: バイエルNo.100.102.104.105。の中より任意の2曲 童謡マーチの中より任意の2曲。（6グレード） 第22回: ブルグミュラー 25の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から任意で曲を選出し、実力の向上をはかる。 第23回: ブルグミュラー 25の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から任意で曲を選出し、実力の向上をはかる。 第24回: ブルグミュラー 25の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から任意で曲を選出し、実力の向上をはかる。</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>ドレミ出版社「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」 全音出版社「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社「ブルグミュラー 25の練習曲」 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>実技試験 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 音楽Ⅱ（ピアノ）		授業の種類 演 習		授業担当者 渡邊 誠／他16名	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部2年・二部2年		必修・選択 選 択	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>1 保育の現場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。 2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をブルグミュラー終了程度とする。 2 年間10回程度のグレード検定試験を行ない、個々のペースにあわせて試験を受けられる。 3 個々の能力に合わせてソナチネ・ソナタその他使用、能力の向上をはかる。</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数 第1回: ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え ピアノ担当教員紹介 グレード設定の確認。 第2回: ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の説明。 第3回: ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の確認。 第4回: ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3度奏法の説明。 第5回: ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3度奏法の確認。 第6回: ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する16分音符や左右の手での10度並進行の奏法と説明。 第7回: ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する16分音符や左右の手で10度の並進行をバランスよく弾く。 第8回: ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 右第1指で弾く保持音奏法についての説明。 第9回: ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 装飾音符についてと第8回の振り返り。 第10回: ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 長い曲になれる。 第11回: ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 第10回の振り返りと確認。 第12回: ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・音の確認 童謡弾き歌い。 第13回: ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い。 第14回: ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い。 第15回: ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・暗譜 童謡弾き歌い。（5グレード） 第16回: ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い 上行・下行の動きや両手同時のスタッカート、3連符。 第17回: ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い、確認。 第18回: ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い トリル 装飾音符について説明。 第19回: ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い、確認。 第20回: ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い 和音のバランスや左右のバランス。 第21回: ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い、確認。 第22回: ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い 連打や16分音符の意識。 第23回: ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い、確認。 第24回: ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い ペダルでの和音のレガート奏法 音価。 第25回: ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い、確認。 第26回: ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・音の確認 童謡弾き歌い 第27回: ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い 第28回: ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い 第29回: ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・全体の纏まりと速度 童謡弾き歌い</p>					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>ドレミ出版社「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」「マーチ曲集」全音出版社「ブルグミュラー 25の練習曲」「ソナチネアルバム」「ソナタアルバム」他 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>実技試験 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし、単位を認定する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 音楽Ⅲ（音楽理論・演習）		授業の種類 演習	授業担当者 今村 雅彦／渡邊 誠
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部1年	必修・選択 選 択
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 保育者にとって音楽は基礎科目の必修である。音楽表現を高めると共に、音楽理論を含めた様々な音楽を体験し、保育楽器を使って学生みずから体感できるように指導する。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕 ソルフェージュ（楽譜の基礎・楽典） 器楽演奏（保育楽器アンサンブル） 歌唱（童謡他）</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数 第1回：ガイダンス 音楽理論の意味と楽典の内容及び授業方針の概要の説明。 第2回：楽典（譜表・大譜表・五線と加線・ト音記号とヘ音記号） 校歌、附属幼稚園園歌、あいさつのうたの歌唱。 第3回：楽典（音符の部分名称・符幹の上下の位置・連桁の種類・音名と階名・音符と鍵盤の位置）童謡集から歌と器楽演奏。 第4回：楽典（素読み・拍と拍子、複合拍子を含む・オクターブの意味）童謡集から歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第5回：楽典（一拍分のリズム・連桁を写譜する際の注意点、譜幹の向き・＃♭ダブル含）童謡集から行事のうたの器楽演奏。 第6回：楽典（音符と休符の名称と拍数、付点を含む）童謡集から動物のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第7回：楽典（四分音符、四分休符を一拍とした足算引算の練習問題）校歌・童謡集から行事のうたの歌唱と器楽演奏。 第8回：楽典（一拍分のリズムを使ったリズム聴音①）童謡集から植物・自然のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第9回：楽典（速度記号及び強弱記号等の楽語の理解・リズム聴音②）童謡集からあそびのうたの歌唱と器楽演奏。 第10回：楽典（調と調子記号・長音階と短音階）童謡集から生活のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第11回：楽典（移調・メロディー聴音①）童謡集からたべものうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第12回：楽典（和音①・よく使われるコードネーム・メロディー聴音②）校歌・童謡集からたべものうたの歌唱と器楽演奏。 第13回：楽典（和音②・伴奏法・メロディー聴音③）童謡集からのりものうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第14回：試験対策（音符と休符の名称と拍数・四分音符、四分休符を一拍とした足算引算・リズム聴音・楽語） 第15回：まとめと試験</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 テキスト・参考文献 「こどもの歌 名曲アルバム」ドレミ楽譜出版社 「手あそび指あそび」＜改訂版＞吉野幸男他 ドレミ楽譜出版社幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 前期、後期の筆記試験及び後期の実技試験と作品提出実技（器楽演奏アンサンブル） 作品（自作の作詞・作曲） 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位認定する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 音楽Ⅲ（音楽理論・演習）		授業の種類 演習		授業担当者 今村 雅彦／渡邊 誠	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 二部1年		必修・選択 選 択	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 保育者にとって音楽は基礎科目の必修である。音楽表現を高めると共に、音楽理論を含めた様々な音楽を体験し、保育楽器を使って学生みずから体感できるように指導する。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕 ソルフェージュ（楽譜の基礎・楽典） 器楽演奏（保育楽器アンサンブル） 歌唱（童謡他）</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数 第1回: ガイダンス 音楽理論の意味と楽典の内容及び授業方針の概要の説明。 第2回: 楽典（譜表・大譜表・五線と加線・ト音記号とヘ音記号）校歌、附属幼稚園園歌、あいさつのうたの歌唱。 第3回: 楽典（音符の部分名称・符幹の上下の位置・連桁の種類・音名と階名・音符と鍵盤の位置）童謡集から歌と器楽演奏。 第4回: 楽典（素読み・拍と拍子、複合拍子を含む・オクターブの意味）童謡集から歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第5回: 楽典（一拍分のリズム・連桁を写譜する際の注意点、譜幹の向き・＃♭ダブル含）童謡集から行事のうたの器楽演奏。 第6回: 楽典（音符と休符の名称と拍数、付点を含む）童謡集から動物のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第7回: 楽典（四分音符、四分休符を一拍とした足算引算の練習問題）校歌・童謡集から行事のうたの歌唱と器楽演奏。 第8回: 楽典（一拍分のリズムを使ったリズム聴音①）童謡集から植物・自然のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第9回: 楽典（速度記号及び強弱記号等の楽語の理解・リズム聴音②）童謡集からあそびのうたの歌唱と器楽演奏。 第10回: 楽典（調と調子記号・長音階と短音階）童謡集から生活のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第11回: 楽典（移調・メロディー聴音①）童謡集からたべものうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第12回: 楽典（和音①・よく使われるコードネーム・メロディー聴音②）校歌・童謡集からたべものうたの歌唱と器楽演奏。 第13回: 楽典（和音②・伴奏法・メロディー聴音③）童謡集からのりものうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第14回: 試験対策（音符と休符の名称と拍数・四分音符、四分休符を一拍とした足算引算・リズム聴音・楽語） 第15回: まとめと試験</p>					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 テキスト・参考文献 「こどもの歌 名曲アルバム」ドレミ楽譜出版社 「手あそび指あそび」＜改訂版＞吉野幸男他 ドレミ楽譜出版社幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験及び実技試験と作品提出により評価する （器楽演奏アンサンブル） 作品（自作の作詞・作曲） 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし単位認定する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 図画工作 I		授業の種類 演 習		授業担当者 羽田 顕佑	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部1年・二部1年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>保育における造形活動の主たる意義は、活動過程で生じる主体の変容(子どもの発達)を見取り、状況に適した支援を行う点にある。本授業では、①素材との触れ合いを通して想像力を触発するさまや造形活動の楽しさ・喜びを体験的に学び、また②素材・用具の扱いに関わる幼児の発達段階を理解することで、造形活動における構想上の留意点や支援の在り方について考察する能力を習得することを目指す。</p>					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>一般的に用いられる素材や用具の特性を理解するための作品制作活動および実践的な造形遊びを演習として行う。基本的な扱い方を理解しながら自分なりの表し・工夫を行い、また他者との協働や相互の表現を認め合うことで、個々の世界の広がりを獲得してほしい。いずれの活動においても、素材との触れ合いによって得られる感情や身体感覚への気付きが学びの第一歩である。毎回のリフレクション記述および最終試験を通じて体験を振り返り、自身なりの考察を得る学習プロセスを築いてゆく。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 【講義】ガイダンス…授業の趣旨、求める姿勢・評価について／小演習…新聞紙で遊ぶ 2 【演習】生活素材の活用…新聞紙の造花づくり 3 【演習】画用紙と用具の扱いについて…画用紙パペット作り①画用紙の質感変化を感じる 4 【演習】画用紙と用具の扱いについて…画用紙パペット作り②用具と描画材の工夫 5 【演習】描画材と支持体の特性理解①クレヨン、クレパス、マーカーペン、絵の具 6 【演習】描画材と支持体の特性理解②モダンテクニック 7 【演習】生活素材の活用…緩衝材で遊ぶ 8 【演習】生活素材の活用…ダンボール版画①切る、並べる、貼る 9 【演習】生活素材の活用…ダンボール版画②塗る、刷る 10 【演習】造形の直感的作用を感じる…ドローイング、フィンガーペイント 11 【演習】自然素材との対話…石磨き①下磨き前半(不織布シート) 12 【演習】自然素材との対話…石磨き②下磨き後半(不織布シート)、仕上げ(研磨剤) 13 【演習】素材の呼応性を感じる…粘土遊び 14 【講義】まとめ①造形活動における主体と素材とのかかわり 15 【講義】まとめ②子どもの心身発達にかかわる造形活動のあり方について／試験 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>毎回の授業内容に応じたプリントを使用する。 参考テキスト： 『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013 『保育をひらく造形表現』槇英子、萌文出版、2008 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>以下の観点で総合的に評価します。 ①授業への取り組み(20%) ②リフレクションカード記述(30%) ③最終試験(50%)</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 図画工作Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 中野小代子	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部2年	必修・選択 選択		
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心体発達と造形活動との関連、及び、造形の発達段階について学習する。 ・造形活動で使用する教材や素材・用具についての知識を体験を通して習得する。 ・年齢や発達に合わせた教育課題が考えられるようになることを目指す。 ・表現領域のひとつとしての、造形教育がもつ目的や意味について理解する。 					
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>造形活動の主体となる子どもの心情や体性感覚を追体験的に学ぶことで、「描く」「作る」活動を通して何を育むのかという教育的目的を明確に考える実践的姿勢を培ってゆく。</p> <p>表現活動を通して育まれる心身の発達が子どもの人格・概念形成に関わる大きな要素であることを理解し、また年齢や発達を考慮してどのように課題設定を行えばよいのかなど、実技体験により具体的な方法を学習する。</p>					
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:授業内容と方法について 2 人間と造形:人どものつくり(講義) 3 子どもの体の発達と造形:「手」の発達と造形(講義) 4 子どもの心の発達と造形:「ことば」・「イメージ」と造形(講義) 5 造形あそび:応答的環境と応答的素材(講義) 6 描画材の種類と特質:クレヨン・クレパス 7 クレパスによる造形あそび:素材への興味・関心 8 描画材の種類と特質:マーカーペンによる造形あそび 9 紙素材の種類と特質:新聞紙であそぶ・イメージ見つけ・見立てあそび 10 紙素材と用具・接着・接合:はさみ・のり・テープ類の扱い方や造形あそび 11 えのぐ素材の種類と特質:偶然のいろ・形への関心 12 えのぐによる技法:デカルコマニー・STRINGデザイン・スタンプ・見立てあそび 13 染料による技法:マーブリング・染紙 14 粘土の種類と特質:粘土づくり・粘土遊びの方法 15 授業のまとめ:子どもの発達と造形の発達段階・応答的素材と環境の重要性(講義) 16 造形教育の目的・ねらいと造形発達の段階(0歳から18歳に至る段階)(講義) 17 描画:「スクリブル」 18 描画:「円」 19 描画:「イメージをもって描く」 20 描画:「イメージから描く」 21 作る:「つくる～あそぶ」 22 作る:「つくったものであそぶ」 23 作る:「つくる～あそぶ～楽しむ」 24 作る:「つくる～見立てを楽しむ～加筆を楽しむ」 25 作る:「つくる～イメージを共有してごっこあそびを楽しむ」 26 造形教育の基本的視点＝演習による作品と理論の関係を確認(講義) 27 造形教育は子どもの「何を」育むのか(講義) 28 保育者に求められる「援助」(講義) 29 授業のまとめ:子どもの発達と教育課題(講義) 30 授業の振り返り・試験(講義) 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>随時、授業内で資料を配布する。 (ファイリングすることをお勧めします)</p> <p>参考テキスト: 『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験 授業への取り組み レポート提出 以上を総合評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 図画工作Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 羽田 顕佑
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 二部1年	必修・選択 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心体発達と造形活動との関連、及び、造形の発達段階について学習する。 ・造形活動で使用する教材や素材・用具についての知識を体験を通して習得する。 ・年齢や発達に合わせた教育課題が考えられるようになることを目指す。 ・表現領域のひとつとしての、造形教育がもつ目的や意味について理解する。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>造形活動の主体となる子どもの心情や体性感覚を追体験的に学ぶことで、「描く」「作る」活動を通して何を育むのかという教育的目的を明確に考える実践的姿勢を培ってゆく。 表現活動を通して育まれる心身の発達が子どもの人格・概念形成に関わる大きな要素であることを理解し、また年齢や発達を考慮した課題設定などについて、実技体験により具体的な方法を学習する。</p>			
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 【講義】ガイダンス…授業の趣旨、内容／描画の発達段階(0歳から18歳に至る段階) 2 【演習】描画段階の追体験:「スクリブル」～「円」 3 【演習】描画段階の追体験:「イメージをもって描く」 4 【演習】描画段階の追体験:「イメージから描く」 5 【講義】描画発達の支援の在り方について 6 【演習】紙素材を扱った造形あそび①手の発達と造形 7 【演習】紙素材を扱った造形あそび②「ことば」・「イメージ」と造形 8 【演習】影絵造形あそび…「作る」活動から「遊ぶ活動」への展開 9 【演習】壁画制作①偶然性からイメージを広げる(見立てを楽しむ) 10 【演習】壁画制作②素材との出会いから造形活動への展開 11 【演習】壁画制作③協働によるイメージの広がりと共有 12 【演習】壁画制作④仕上げ(加筆を楽しむ) 13 【講義】造形教育の基本的視点…演習作品と理論との関係を確認 14 【講義】造形活動が担う人間形成的意義について 15 【講義】子どもの発達と教育課題／試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>毎回の授業内容に応じたプリントを使用する。 参考テキスト: 『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013 『保育をひらく造形表現』槇英子、萌文出版、2008 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>以下の観点で総合的に評価します。 ①授業への取り組み(20%) ②リフレクションカード記述(30%) ③最終試験(50%)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 体育 I	授業の種類 演 習	授業担当者 黒澤 博	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年 二部2年	必修・選択 必 修
〔授業の目的・ねらい〕 保育の指導者は、子供達の相手をする体力、運動が子供達の成長に及ぼす影響力を見極める力、さらに各行事における企画力等が必要になります。そこで、それらの事柄について授業を通して考えます。			
〔授業全体の内容の概要〕 健康や安全に留意しつつ運動に親しむ能力と態度を養う。また常に課題を持ち、その解決のために工夫をし、努力していくこと。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数			
1 オリエンテーション・・・・・・・・・・授業計画、授業概要（内容、諸注意等）の説明 体づくり運動（体ほぐしの運動）・・・・遊び（手遊び、昔遊び、ジャンケン遊び等）			
2 器械運動①（マット、鉄棒、跳び箱）・・・・各種目の演技構成の検討と指導（特に安全面）			
3 器械運動②（マット、鉄棒、跳び箱）・・・・各種目、自由練習（各種目の演技構成の決定と技術の指導）			
4 器械運動③（マット、鉄棒、跳び箱）・・・・各種目、自由練習（技術の指導や補助の方法について学習する）			
5 器械運動④（マット、鉄棒、跳び箱）・・・・各種目、自由練習（演技の構成と内容のチェック、発表演技完成）			
6 器械運動⑤（発表）・・・・・・・・・・評価の観点（演技の構成・技の正確性・完成度等）			
7 ダンス①（グループ作り、選曲、構成）・・・・運動会や発表会を企画するための企画力を養う			
8 ダンス②（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（オリジナルダンスの構成・内容等の検討）			
9 ダンス③（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（踊りの構成チェック）			
10 ダンス④（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（踊りの内容チェック）			
11 ダンス⑤（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（発表演技完成）			
12 ダンス⑥（発表）・・・・・・・・・・評価の観点（演技の構成・表現力・完成度・創意工夫等）			
13 講義①（恒常性①）・・・・・・・・・・体温の恒常性（体温）			
14 講義②（恒常性②）・・・・・・・・・・体液の恒常性（体液の水分量、血液の浸透圧）			
15 講義③（恒常性③）・・・・・・・・・・体液の恒常性（血液の水素イオン濃度、血液中のカルシウム量、血糖、血液中の酸素濃度）			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
佐野豪著「子どものための楽しい運動遊び」大修館書店、1978 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』		1 授業態度 2 運動技能又は提出物	

|

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 体育 I		授業の種類 演 習		授業担当者 細谷 美碧	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部1年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 身体で音楽を表現するダンスを通して、緊張感や自信を感じながら表現技術を体得し、保育現場において子ども達にも楽しく伝えて行くことが出来るよう指導する。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕 心と体の柔軟性を身に付け、ストレス等の発散もしながら順次、工夫し表現段階を進めて行く。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎柔軟体操 説明 2 基礎柔軟体操 実践 3 応用柔軟体操 実践 4 基本ステップ 5 応用ステップ 6 手・腕の動作（ポーズ） 7 足・脚の動作（ポーズ） 8 手・足組み合わせ動作（ポーズ） 9 ステップを組ませた動作 10 曲に合わせた振り付けの説明 11 振り付けに対しての細やかな指導 12 振り付けを体得する 13 発表までの振り付けの完成を目指す 14 試験を受ける為の基礎・応用の確認指導 15 試験・授業 					
[使用テキスト・参考文献] 「幼児のリズム体操集(保育実用書シリーズ)」松本民子、チャイルド社			[単位認定の方法及び基準] 実技試験		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 体育Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 渡辺 潤一	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部2年・二部2年		必修・選択 選 択	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生たちが、生涯にわたった運動に親しむ能力と態度を養う。 ・レクリエーション指導法に関する専門的知識・技術を習得する。 					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>将来現場に出た際、子どもたちと様々な動きを伴うあそび(レクリエーション活動援助)ができる能力を身につけると共に様々な用具、遊具を使用したり自然にあるものを利用した運動やあそび(レクリエーション)が実践できるようになることを目指す。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(目標・受講方法) 2 アイスブレイキング実習 3 1対クラス(集団)におけるレクリエーション財の紹介 4 1対クラス(集団)におけるレクリエーション指導法 5 2人組でのレクリエーション財の紹介 6 2人組でのレクリエーション指導法 7 3人組でのレクリエーション財の紹介 8 3人組でのレクリエーション指導法 9 小集団でのレクリエーション財の紹介 10 小集団でのレクリエーション指導法 11 ニュースポーツ体験 12 レクリエーションダンス体験 13 レクリエーションプログラムの立案 14 レクリエーションプログラムの実施 15 レクリエーションプログラムの評価及びまとめ 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「楽しいをつくる:やさしいレクリエーション実践」 (日本レクリエーション協会)</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業態度 2 レポート課題 		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 国語		授業の種類 講義	授業担当者 大野要子／蠣崎尚美
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間(2単位)	配当学年 一部1年・二部1年	必修・選択 必修
〔 授業の目的・ねらい 〕 この授業は「領域及び保育内容の指導法に関する科目」にあたる。そのため小学校低学年の国語の授業をめやすとし、それに必要な基礎的な技能が身につくようにする。小学校の国語は、「読む」「書く」「聞く・話す」に分かれ、これらの指導を通して「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を指導するようになっている。この授業でも「読む」「書く」「聞く・話す」活動を通して、適切な表現力、正確に読み取る力、豊かな言語感覚を養う。			
〔 授業全体の内容の概要 〕 はじめに、話し方・聞き方の基本を学ぶ。次に詩や言葉遊びを読み味わい、詩や言葉遊びを創作することを通し、豊かな言語感覚を身につけていく。次に、文章の構成方法と表現方法を学び、主述や段落を明確にして文章を綴り、効果的に文章を組み立てられるようにする。さらに代表的な児童文学や論理的な文章を読んで、正確な読み取り方ができるようにする。また、たくさんの絵本や児童文学に触れ、童話の創作に挑戦する。そして、自分が創作した童話をみんなの前で、情感を込めて読み聞かせを行う。			
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数			
1. ガイダンス 話し方の基本について学び、時と場、条件に応じた話し方を理解する 2. 言葉遊びを読み、その特徴や表現技法をふまえて、言葉遊びを創作する 3. 詩を読みながら、それぞれの主題や表現技法をつかんで、詩を創作する 4. 漢字、平仮名、カタカナの正しい表記を理解する。敬語の種類を知り、正しい使い方を知る 5. 伏見憲明著『きみが生きられる場所』を読み、主題や文の構成について考える 6. 主題や構成を明確にして文章を書く 7. あまんきみこの作品を読む ー作品の主題を読み取るー 8. あまんきみこの作品を読む ーあまんきみこの作品について論じ合うー 9. 昔話を読む ー昔話を語り継ぐ意味とは何かー 10. レオ・レオニの作品を読む ー作品の主題を読み取りながら、レオ・レオニの作品について論じ合うー 11. 説明文の読み取り 12. 童話の種類、テーマ、構成の仕方、表現方法を理解し、自分の童話のテーマと構成を考える 13. テーマと構成をもとに、表現方法を工夫して童話を創る 14. 読み聞かせの効果的な方法を知り、創った童話の主題を意識し、情景や情感が表れるように読み聞かせをする 15. 総まとめ、試験			
〔使用テキスト・参考文献〕 毎回プリントを用意するので、二穴のファイルを準備しておくこと。課題提出の期日を守ること。 参考文献「小学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		〔単位認定の方法及び基準〕 優80%以上 良79～70% 可69～60% 定期試験(60%)、課題(30%)、授業に臨む態度(10%)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育原理 I		授業の種類 講 義		授業担当者 鈴木敦・和泉禎子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 二部1年・一部1年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>保育の基本は人間理解である。保育者は倫理観や感性、豊かな人間性などの素養を身につけ、子どもの生活と遊びを尊重し、子どもの主体性に立脚した保育を行うことを中心にして、保護者の不安や悩みにも支援できる力を培うことをねらいとする。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>保育とは何か、保育という仕事はどのようなものか具体的に学びながら、保育者としてあるべき姿を追求して自己課題を見出し、それに向けて努力していけるような内容とする。</p>					
<p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション、「保育」とは何か？ 2 「子ども理解」から出発する保育 3 幼児期の発達と子どもの生活 4 幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領から学ぶ 5 子どもが育つ環境を考える 6 子どもの生活や遊びの中での育ち方、事例から学ぶ 7 諸外国の保育思想と歴史 8 日本の保育思想と歴史 9 幼稚園の歩み、認定こども園の背景 10 幼稚園・認定こども園における教育課程の意義および編成の方法 11 子育て支援・保護者への対応 12 保育者の専門性 13 保育者に求められるもの—子ども、保護者との関わりの中で 14 保育の現状と課題 15 授業のまとめ・試験 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」 「認定こども園教育・保育要領解説」 「保育原理」 咲間まり子</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験、参加態度、課題</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育原理II		授業の種類 演習形式	授業担当者 加藤あゆみ
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 二部2年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の思想的実践的原理の観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高める。 ・保育を支える基礎理論(保育の原理)に関する継続的学習を通して人間性を育む。 ・教育課程の意義を理解し専門的知識や判断力を習得する ・保育を支える基礎理論の習得により豊かな保育実践の基礎を培う。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>本授業では、「保育原理I」で学習した基礎的事項を基盤として、保育の現場で教育課程の意義を理解し、その編成のために必要な基礎的な事項を学習することを目標とする。具体的には、1教育課程の意義を理解し、その基礎的な理論に関する知識を習得する、2幼稚園における教育課程の編成に関する基本的な知識を習得する、3保育実践に即して指導計画の作成の方法を理解する、4教育課程の評価と改善に関する基本的な知識を習得する。</p>			
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション、保育原理IIとは 第2回 保育原理1の振り返り 第3回 諸外国の保育 第4回 子どもの発達と幼児教育 第5回 教育課程の意義と保育原理 第6回 教育課程と指導計画 第7回 保育環境の構成 第8回 長期の指導計画、短期の指導計画 第9回 保育記録の意義と実際 第10回 エピソード記録の分析 第11回 教育課程の評価と改善 第12回 専門職としての省察的实践家 第13回 日本の保育の現状と課題 第14回 保育者の在り方を考える 第15回 まとめと試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>使用テキスト</p> <p>『幼児理解と評価』文部科学省(株)ぎょうせい 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>参考文献</p> <p>適宜、資料プリントを配布する。</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習課題の取り組み・成果 ・レポート・提出物 ・受講態度 ・リフレクションシートの提出 	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育原理		授業の種類 講義	授業担当者 大野 要子
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間(2単位)	配当学年 一部1年	必修・選択 必修
〔 授業の目的・ねらい 〕 教育原理は、教育の目的、内容、方法、経営、制度等について学ぶ授業である。「教育」の意味、子ども観と教育観などについて知り、「教育とは何か、どのように子どもを支援したらよいか」ということを探究することをねらいとしている。その過程で、現在の日本の教育に要請されている課題についても考えを深めていく。講義を通して学んだことをもとに、受講者自身が自分なりの教育観を構築していくことを目的としている。			
〔 授業全体の内容の概要 〕 人間は社会的存在であり、その発達は環境、特に文化の影響を大きく受ける。狼に育てられた子どもがどんな人間として成長したかを基点に、教育と発達について考え、次に日本の教育法規をとらえ、学校の成り立ちを追いながら、教育制度を概観する。西洋と日本の子ども観の違いと教育について歴史的にたどりながら、教育について理解を深め、子どもの教育をどう行ったらよいかについて、福祉、家庭教育、生涯教育、学校教育、特に幼児教育の目標、教育内容と教育課程、支援方法等さまざまな視点から追究していく。最後に教育の在り方について、問題点、課題をふまえ、まとめていく。			
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数			
1. ガイダンス 教育とは何かー環境と教育、発達と教育を視点にー 2. 教育法規と教育制度ー学校の成り立ちをふまえてー 3. 西洋の古代、中世の子ども観と教育 4. 西洋の近世、近代の子ども観と教育 5. 日本の古代、中世の子ども観と教育 6. 日本の近世、近代の子ども観と教育 7. 児童福祉と教育の関連ーそれぞれの概念から考えるー 8. 家庭教育、幼児教育、生涯学習についてー家庭・地域の教育力の低下と幼児教育のあり方を中心にー 9. 教育内容と教育課程、指導計画のあり方 10. 教育方法の変遷と教育方法の原理、評価の意義とPDCAプラン、評価方法 11. 学級経営の基本と幼児教育の方法 12. 生徒指導と支援方法ー行動療法における“学び”の視点からー 13. 教育における問題を探求し、課題を設定する 14. 課題をもとに教育のあり方、教師のあり方について考えをまとめる 15. 総まとめ、試験			
〔使用テキスト・参考文献〕 毎回プリントを用意するので、二穴のファイルを準備しておくこと。課題提出の期日を守ること。 参考文献 「新 保育士養成講座 第2巻 教育原理」 新 保育士養成講座編纂委員会編		〔単位認定の方法及び基準〕 レポートなどの提出物の内容と試験から平均して判断する。 60～69点「可」 70～79点「良」 80点以上「優」	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育原理		授業の種類 講義		授業担当者 武藤 篤訓	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 二部1年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 教育とは何か その本質に歴史や思想を通して迫る</p>					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕 教育の本質や意義 目的 教育を成立させる諸要因を押さえた上で 西洋と日本の教育の歴史と思想をふりかえる。その上で現状の教育と課題について考える。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 教育の場 2. 教育の意義① 3. 教育の意義② 4. 教育の目的 5. 西洋の教育制度 6. 日本の教育制度 7. 西洋の教育思想と歴史① 8. 西洋の教育思想と歴史② 9. 西洋の教育思想と歴史③ 10. 日本の教育思想と歴史① 11. 日本の教育思想と歴史② 12. 日本の教育思想と歴史③ 13. 教育実践の多様な取り組み 14. 現代の教育課題 15. 試験／まとめ 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 プリントを使用する。</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 提出物80%、 小テスト20% ※提出物の期限は厳守のこと。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 児童家庭福祉		授業の種類 講 義		授業担当者 蠣崎 尚美	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年 一部1年・二部3年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの福祉についての基本的理念について学ぶ。 2 子どもの福祉施策及びとりまく諸状況の変化について学ぶ。 3 子どもの福祉に関わる社会の仕組みや法律・制度について体系的に学ぶ。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>子どもの福祉とは何かから始まり、その歴史や子どもの人権などについての理解を深める。また、子どもをめぐるさまざまな問題を取り上げ、保育者として必要な児童福祉の知識を探究する。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭福祉の基礎概念 2 子どもの権利保障 3 児童福祉の歴史 4 子ども家庭福祉の展開 5 児童福祉法の成立と改正 6 子ども家庭福祉等機関・地域活動 7 子ども家庭福祉サービス・養護 8 子ども家庭福祉サービス・障害 9 子ども家庭福祉行政の仕組み 10 子ども福祉サービスの実際／保育 11 子ども福祉サービスの実際／養護 12 子ども福祉サービスの実際／障害 13 子ども福祉サービスの実際／ひとり親 14 子ども福祉サービスの実際／里親 ビデオ「赤ちゃん置き去り事件の背景」 15 試験とふりかえり 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>保育と児童家庭福祉 櫻井奈津子 編 株式会社みらい</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>ペーパー試験、講義中に行う小テスト及び授業態度</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会福祉		授業の種類 講義	授業担当者 亀田 良克／小林 根
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 一部1年・二部2年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の基礎的理解と諸サービスの体系的理解。 ・法制度を理解。 ・福祉理念や倫理から、技術だけでない専門職として必要なことを学ぶ。 ・専門職者として自己を客観視し、あるべき姿を考える。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>社会福祉を考えていく上でベースとなる、ノーマライゼーションやナショナルミニマムを始めとする福祉の理念・世界とわが国における福祉の歴史的発展・さまざまな理論の展開・福祉六法や福祉関係八法などの法制度などを中心に講義していく。また、それぞれの分野における諸問題を社会福祉の観点から考察していく。社会福祉の援助に関しても簡単に触れ、進級後の履修科目になる「相談援助」「保育相談支援」へと繋げていくことができるように考えている。</p>			
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉とは。社会福祉と私たち（「社会福祉」の言葉のイメージ、目的、社会福祉の大まかな体系） 2. 広義の社会福祉と狭義の社会福祉。社会福祉の理念（ナショナル・ミニマム、ノーマライゼーション等） 3. 社会福祉の基本的な視点。社会福祉理論の展開について（制度政策論、技術論、運動論、福祉改革論等） 4. 世界の社会福祉の歴史的展開（エリザベス救貧法～20世紀の福祉の展開【英】） 5. 世界の社会福祉の歴史的展開（ソーシャルワークの確立まで【米】）、我が国の社会福祉の歴史的発展【日】 6. 社会福祉の権利（人権としての社会福祉、社会福祉の権利と権利の体系的研究）。『生存権』について 7. 社会福祉の権利と社会福祉行政（法規裁量と自由裁量、申請主義と職権主義、不服申し立て制度等） 8. 社会福祉の対象（救貧時代の対象者、社会事業の対象者、社会保険の対象者等） 9. 社会福祉の対象の把握（ニーズ・アプローチ、生活問題からの対象把握、援助技術によるアプローチ等） 10. 社会福祉の主体（主体とは何か、政策主体・経営主体・実践主体、福祉多元主義、社会福祉の行政） 11. 社会福祉の法制度（社会福祉法、福祉六法、介護保険制度、ゴールドプラン関係、障害者プラン関係等） 12. 社会福祉の援助（ソーシャルワークと関連技術の種類、専門職成立の条件）。自己覚知に関して 13. 社会福祉の援助（援助の原則）。社会福祉の分野（家族問題と社会福祉、高齢者問題と社会福祉） 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>松原康雄／坏洋一／金子充編 『社会福祉』（基本保育シリーズ④）、中央法規、2006</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、小課題（100点満点） ・授業に臨む姿勢を加味し単位を認定する。 	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 相談援助		授業の種類 演習		授業担当者 亀田 良克／小林 根	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部2年・二部3年		必修・選択 必修	
〔 授業の目的・ねらい 〕 保育現場における、相談援助の重要性を理解し専門職としてその技術を身につける。 保護者理解、保護者支援の知識をソーシャルワークの視点から身につけ、その対応を事例を基にして演習 をすることで、実践できる力を身につけていく。					
〔 授業全体の内容の概要 〕 社会福祉の視点を中心に保育現場における課題を理解する。 相談援助が必要とされる社会的背景、保護者の置かれた現状を理解し、保護者支援の視点を理解する。 具体的事例から、支援の方法を科学的に理解し、対象への理解を深める。					
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数 1 相談援助とは 概要 2 社会福祉の理念を踏まえた相談援助 3 相談援助の機能 4 相談援助の理論 5 相談援助とソーシャルワーク 6 相談援助に必要な社会資源の活用 7 相談援助 援助の原則 8 相談援助の技術 対象理解 9 相談援助の技術 傾聴と共感 10 事例を用いて 傾聴演習 11 相談援助の技術 アプローチ 12 援助の進め方 事例を使って(前半) 13 援助の進め方 事例を使って(後半、まとめ) 14 ソーシャルワーク理論 記録の方法、自己覚知 15 振り返り及び試験					
〔使用テキスト・参考文献〕 小林育子、小館静枝、日高洋子著『保育者のための の相談援助』、萌文書林、2011			〔単位認定の方法及び基準〕 演習による課題採点、期末試験、授業態度を 合算して単位認定される。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会的養護 I		授業の種類 講 義		授業担当者 亀田良克／蠣崎尚美	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 一部1年・二部2年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護が必要になる養護問題について理解する。 2 社会的養護の体系、歴史的展開、地域の役割を理解する。 3 児童福祉の理念と児童福祉施設の養護の実際を理解する。 4 児童福祉施設の援助者の役割を知る。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>現代の児童養護について、児童養護の体系、歴史、原理、人権問題など実際の児童養護施設現状と課題に理解を深め、児童養護施設の援助者について考える。</p>					
<p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、講義内容、テキスト、参考文献紹介 2 現代社会と児童福祉、児童養護の基本理解 3 権利主体としての児童(子どもの権利について) 4 社会的養護の歴史 5 児童養護の体系(施設、里親、グループホーム等) 6 社会的養護の制度 7 施設養護の特質 8 施設養護の基本原則 子どもの最善の利益 9 施設養護の実際 施設の日常生活、自立支援 ビデオ視聴 『児童養護施設』 10 施設養護の実際 治療的・支援的援助 ビデオ視聴 『医療型障害児入所施設』 11 社会的養護とソーシャルワーク(児童相談所、関係機関、家庭等) 12 社会的養護とソーシャルワーク(事例を通してロールプレイ) 13 児童福祉施設の援助者としての資質・倫理 14 社会的養護の目指す方向 ビデオ視聴 『ばっちゃん』 15 授業のまとめ・期末試験 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「社会的養護」 喜多一憲監修 堀場純矢編集 みらい</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験、授業態度、課題 60～69点を「可」、70～79点を「良」、80点以上を「優」とし、単位を認定する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
社会的養護Ⅱ		講義	密城吉夫
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年	必修・選択
15 回	30時間(2単位)	一部2年・二部3年	選択
〔 授業の目的・ねらい 〕			
1 社会的養護における原理・理念を理解する。 2 社会的養護の必要性を理解する。 3 現状の社会的養護の長所と問題点を考察した上で、保育士として目指す理想の在り方を模索する。			
〔 授業全体の内容の概要 〕			
社会的養護における意義と現代社会における現状、施策も含めた施設生活の在り方を理解する。さらに、保育士と			
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕			
コマ数			
1 オリエンテーション、講義内容、授業内容について 2 社会的養護の必要性 3 児童養護の変遷（児童養護の歴史から、現在の社会的養護の成り立ちまでを学習する） 4 社会的養護の施策 5 児童養護の種類と特徴（居住型養護、通所型養護、家庭型養護、児童養護の対象について） 6 居住型養護の課題、通所型養護の課題、家庭型養護の課題 7 児童養護の領域（乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、助産施設） 8 児童養護の領域（知的障がい児施設、自閉症児施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設、重症心身障がい児施設） 9 情緒障がい児短期治療施設、児童自立支援施設、児童厚生施設 10 児童福祉施設の管理と運営 11 生活支援と環境調整 12 福祉施設における専門性と援助技術 13 保育士の仕事と連携 14 保育士に求められるもの			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
テキストは使用しない。 以下に参考文献を記す。各自参考の事。 『養護原理（現代の保育学）』 小田 兼三（編集）、石井 勲（編集） 必要に応じて資料を配布。 資料用のファイルを各自で持参。		参加態度、試験を総合して判断する。 試験については、60点以上を合格点とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教職概論		授業の種類 講義	授業担当者 鈴木恵利子／武藤篤訓
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 一部2年・二部2年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>本授業では「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をふまえ、幼児教育の重要性を認識し、保育現場の求める保育者像について考えを深めていきます。保育の意義や役割、幼児教育の課題について、問題意識を深め、これから幼児教育に関わる保育者として自分自身を捉えなおしていくことを大きな柱としています。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>保育者のあるべき姿とは何か、その基本理念を把握することに重点を置き、保育の意義及び保育者の使命、保育の仕事と役割等について学び、自己の課題について問題意識を深め、自らの考え方、感じ方を問い直します。子どもの心の発達を学びながら子ども理解を深め、現在の家庭や教育の問題点を捉え、望ましい保育者について、現場での事例を基に考えていきたいと思えます。</p>			
<p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 教科のねらい・授業内容と計画 2 人間の発達から“子どもの心の育ち”を知る 胎生期・周産期 3 自己肯定感を育てる関わり 4 乳児期の発達課題 「基本的信頼感」を育てる 5 幼児期・児童期の発達課題 6 学童期・思春期・青年期の発達課題 7 子どもの社会性が育つみちすじ 8 事例をもとに、子どもを取り巻く社会や家庭環境を考える 9 事例をもとに 関わりの難しい子の理解と保護者対応を学ぶ 10 保育者のサービスと研修 11 社会の変化と幼児教育の課題 12 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を学ぶ 13 教職の意義と保育者に求められる資質能力・望ましい保育者像 14 保育者の使命と役割を考える 15 授業の振り返りとまとめ・テスト 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「子どもの心が見える本」 佐々木正美著 子育て協会 発行 毎回の配布資料 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>授業態度・提出物・試験</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達心理学 I		授業の種類 講 義		授業担当者 密城 吉夫	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年 一部1年・二部1年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 胎芽期から児童期までの発達を科学的な視点でとらえる。 2 発達の段階をたどる過程で、思考の変化や相互作用を児童期に至るまで学習する。 3 発達を時系列でとらえ、子どもの身体的機能と思考を理解する。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>子どもの発達には、人的環境や物的環境を通して、多様な相互作用の中で行われる。保育士は、子どもとの相互作用のみならず、保育者として関わる援助を通して、生涯にわたっての発育、成長も考慮しなければならない。発達心理学 I では、受精から誕生、その後の身体発達、精神機能(分化と統合の過程、自我の発達、社会意識)に触れ、発達の特徴や傾向を学んでいく。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、テキスト・講義内容の説明。胚期 2 胎芽期、胎児期 3 遺伝と環境 4 心理学の変遷 5 視覚の発達、視覚断崖 6 感覚間の協応、共鳴動作 7 原始反射とメカニズム 8 動物実験(刷り込み、条件づけ、学習性無力、愛着)、大きさの恒常性、形の恒常性 9 原始反射 10 自己認知 11 指さし行動(Joint Attention) 12 同化と調節、相互作用、感覚的知能の段階、前概念的思考の段階、直観的思考の段階(前半) 13 直観的思考の段階(後半) 14 具体的操作の段階、形式的操作の段階 15 振り返り、試験 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新 乳幼児発達心理学 繁多 進 監修 向田 久美子 石井 正子 編著 福村出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>参加態度、試験を総合して判断する。 試験については、60点以上を合格点とする。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達心理学Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 黒石 憲洋／牛久 香織
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部1年・二部1年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>生涯発達の観点を考慮に入れつつ、子どもの諸側面の発達に関する基礎概念・用語を学修する。また、発達に遅れや障がいのある子どもの特徴を学修した上で、具体的な子どもの事例を取り上げて検討することを通して、子どもへの接し方や対応の仕方を自ら考案ことができるようになることを目標とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>主な内容としては、①子どものさまざまな側面についての発達の概要、②発達の遅れや障がいのある子どもの特徴やその様子、③具体的な事例を通じた子どもの把握や介入のあり方について扱う。授業方法としては、講義、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション: 講義の概要、発達心理学Ⅱで学ぶこと 2 発達とは: 生涯を通じた変化、各発達段階における発達課題と危機 3 子どもの発達①: 精神分析的な理解 4 子どもの発達②: 認知発達とそのアセスメント 5 子どもの発達③: 感情とコミュニケーションの発達 6 子どもの発達④: 対人関係と社会性の発達 7 子どもの発達⑤: 道徳性の発達 8 子どもの発達⑥: 自己の発達と個の確立 9 子どもの発達⑦: パーソナリティの発達 10 発達の遅れ、障害のある子ども①: 発達障害の概要、知的障害 11 発達の遅れ、障害のある子ども②: 自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠陥・多動性症(ADHD) 12 発達の遅れ、障害のある子ども③: 限局性学習症(LD)、その他の発達障害 13 発達の遅れ、障害のある子ども④: 発達障害のある子どもと接する際のポイント 14 移行期の問題: 小1プロブレム 15 試験および全体のまとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>テキストは特に使用しない。 必要に応じて講義中に資料を配付する。 参考文献 杉山登志郎(2007). 発達障害の子どもたち 講談社</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>15回目の講義中に実施する試験において、合格点(100点満点中、60点以上)を満たせば、単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育心理学		授業の種類 演習		授業担当者 竹内 真悟／黒石 憲洋	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部1年・二部1年		必修・選択 必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>教育を考える上で必要となる心理学の基礎概念・用語について理解するとともに、子どもの発達や成長、学習やその個人差を見極めて支えていく上で必要となる考え方として、心理学的な理論や評価や介入の仕方について学習することを目標とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>主な内容としては、①学習についての歴史的な考え方、②学習を支える動機づけに関する理論と介入の考え方、③行動における個人差としてのパーソナリティに関する考え方、④教育における評価のあり方とその影響について扱う。授業方法としては、講義、アクティビティ、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション: 講義の概要、教育心理学で学ぶこと 2 教育とは: 教育と保育、教育と学習、遺伝と環境 3 学習理論①: 行動主義(古典的条件づけとオペラント条件づけ) 4 学習理論②: 認知主義 5 学習理論③: 状況主義 6 動機づけ理論①: 欲求理論、達成動機理論、原因帰属理論、目標理論 7 動機づけ理論②: 学習性無力感理論、自己効力理論 8 動機づけ理論③: 認知的評価理論、自己決定理論 9 パーソナリティ理論①: 類型論的理解 10 パーソナリティ理論②: 特性論的理解 11 パーソナリティ理論③: 愛着型とその発達 12 教育における評価①: 絶対評価、形成的評価、ルーブリックとポートフォリオ 13 教育における評価②: 教育における認知的バイアス 14 新しい学習の形態: 協同学習、アクティブラーニング 15 試験および全体のまとめ 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>テキストは特に使用しない。 必要に応じて講義中に資料を配付する。 参考文献 市川伸一(1995). 学習と教育の心理学 岩波書店 レイブ・ウェンガー(1993). 状況に埋め込まれた学習: 正統的周辺参加 産業図書 スティベック(1990). やる気のない子どもをどうすればよいか 二瓶社</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>15回目の講義中に実施する試験において、合格点(100点満点中、60点以上)を満たせば、単位を認定する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもの保健 I	授業の種類 講 義	授業担当者 遠藤 由美子・田嶋 順子
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（4単位）	配当学年 一部2年・二部3年
必修・選択 必 修		
〔 授業の目的・ねらい 〕 保育は、子どもの身体的・精神的発達の維持・増進を図る実践活動である。健康な子どもの健やかな成長のその実践活動の基盤に、医学分野である小児保健の知識が必要であることを理解する。また、母性保健も含まれること、子どもの健康は制度によって社会的に守られなければならないことを知る。子どもの幸せな人間としての成長に携わる保育の基本に小児保健があることを学ぶ。		
〔 授業全体の内容の概要 〕 保育における小児保健の位置づけを理解し、健康な子どもを中心に、成長とともに変化する身体と精神の発達を学ぶ。さらに、子どもが罹りやすい病気の対応と予防、先天的疾患、感染症、事故の予防と予防、対応について学び、個々の子どもの健康状態や保健上の問題を判断し適切に対応できる基本的知識を得る。また、小児保健に関する制度と小児保健の現状と課題について考える。		
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数 1 オリエンテーション 2 子どもの健康と保健の意義(生命の保持と母性・父性の育成、健康とは) 3 こどもの発育(発育の原則、新生児期の身体発育、乳児期の身体発育、学童期の身体発育、思春期の身体発育) 4 生理機能の発達①(呼吸器、循環器、免疫、消化器) 5 生理機能の発達②(尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能) 6 生理機能の発達③(睡眠、感覚、神経、精神、情緒、行動) 7 子どもの主な病気①病気の特徴(保育現場でよくある疾患) 8 子どもの主な病気②先天異常 9 子どもの主な病気③アレルギー疾患 10 子どもの主な病気④消化器の病気 11 子どもの主な病気⑤呼吸器系の病気・循環器系の病気・血液の病気・悪性腫瘍 12 子どもの主な病気⑥神経系の病気 13 子どもの主な病気⑦泌尿器系・生殖器系の病気・皮膚の病気・歯の病気 14 子どもの主な病気⑧耳・眼の病気・整形外科の病気・内分泌代謝の病気 15 前期まとめテスト 16 子どもの食と栄養①食育基本法・離乳食・幼児食 17 子どもの食と栄養②子どもの栄養での課題 18 子どもの精神保健①(環境と課題) 19子どもを取り巻く社会環境の問題点についてまとめてみよう。(ワーク) 20子どもを取り巻く社会環境の問題点についてまとめてみよう。(発表) 21発達障害①発達障害とは・ICFの理解 22 ②事例について考えてみよう 23環境と衛生管理・安全管理 24健康および安全の体制(母子保健対策) 25予防接種 ①予防接種法・種類・接種方法・禁忌 26予防接種 ②予防接種のスケジュールを立てよう 27先天性疾患①(調べ学習) 28 ②(調べ学習—まとめ—提出) 29 ③調べたことを話し合おう(ディベート) 30後期まとめ・テスト		
〔使用テキスト・参考文献〕 子どもの保健 I ななみ書房	〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験:授業参加態度(小テスト, 提出物)=3:2 その他学生のしおりに準ずる。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもの保健Ⅱ（小児保健実習）		授業の種類 演習（実習）	授業担当者 遠藤 由美子・田嶋 順子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（45時間）1単位	配当学年 一部2年・二部3年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>小児保健で学んだ健康な子どもの成長・発達を通して、観察し、養護する方法と、常に子どもの安全に留意した保育環境と事故防止の知識と技術を習得する。また、異常の早期発見、病気の予防とその対処法、救急時の処置についての知識と技術を習得し、保育の場において実践できる能力を身につける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>小児保健実習の必要性を理解し、健康状態の観察、小児の身体測定、生理機能の測定、精神・運動発達機能の評価と記録の方法を学ぶ。また、乳幼児の日常生活上の保育環境と養護の実際、異常時の看護・怪我や事故時の応急処置・心肺蘇生法の演習を行う。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康及び安全に係る保健系各作成と評価 保育計画の意義について 2 乳幼児の適切な対応—乳児の扱い方の演習—抱きかた おむつの当て方 おんぶの仕方 3 乳幼児の身体測定とその評価 身体計測法と計測時の一般的注意事項：体重・身長・胸囲・頭囲・大泉門の計測。 4 記録と評価 身体発育曲線に記入してみよう 5 乳幼児の生理機能の測定と観察 体温・呼吸・脈拍を測定し、記録と評価をする。 6 子どもの生活習慣と心身の健康（排泄・睡眠・感覚機能・精神・運動機能の観察） 7 子どもの発達援助と保健活動 発達に応じた援助方法 8 乳幼児の適切な対応—乳児の扱い方の演習—おむつ交換、衣着脱・身体の清潔：沐浴 9 食物アレルギーの対応 エピペンの使い方及びチャイルドマウス 10 乳幼児の適切な対応—乳児の扱い方の演習—ミルクの飲ませ方・薬の種類と飲ませ方・消毒の方法 11 乳幼児の事故と応急処置（てんかんの対応・包帯の巻きかた） 創傷、打撲、骨折・脱臼・捻挫、昆虫刺傷、動物咬傷、異物と窒息、誤飲、中毒、意識障害 12 乳幼児の看護（異常症状の把握の仕方とその手当て） 異常に気付いた時の処置：発熱、痙攣、咳、嘔吐、腹痛、下痢、鼻出血の手当て。 13 心肺蘇生法 AEDの使い方 14 歯磨き 仕上げみがきの方法 15 まとめ（振り返り）・テスト 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>保育者養成シリーズ 子どもの保健Ⅱ 林邦雄・谷田貝公昭監修 株式会社 一藝社</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>演習参加態度40% まとめテスト60% * その他、準備・片付け・忘れ物・提出物等全ての行動から総合的に判断する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもの食と栄養	授業の種類 演 習	授業担当者 齊藤 裕美	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部1年・二部3年	必修・選択 必 修
〔 授業の目的・ねらい 〕 1 健康な生活を基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3 食育の基本と内容について学び、食生活指導および食を通じた保護者への支援を考える。 4 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。			
〔 授業全体の内容の概要 〕 疾病の予防、心身の健全な体づくりのために子どもの頃からの食育が非常に重要である。保育者として必要な食と栄養の知識・調理技術の習得、さらに自身の食生活を振り返り、自ら望ましい食生活を実践し、保護者や子どもへ積極的に食生活の指導ができる専門性を養っていく。			
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数 1 子どもの心身の健康と食生活、現状と課題 2 炭水化物・脂質・たんぱく質 3 無機質・ビタミン・水・消化吸収 4 食事摂取基準・献立作成 5 乳児期の栄養・食生活・乳汁栄養・離乳 6 幼児期の栄養・食生活・食行動・食物アレルギー 7 妊娠時・授乳期の食事 8 調理の基本・食の安全・衛生管理 9 調乳実習 10 離乳食初期の献立・調理実習 11 離乳食中期の献立 12 離乳食初期の調理実習 13 離乳食後期の献立 14 離乳食後期の調理実習 15 幼児食の献立 16 幼児食の調理実習 17 幼児食の間食の工夫 18 幼児食の間食の調理実習 19 妊娠・授乳期の献立 20 妊娠・授乳期の調理実習 21 食育基本法・保育所保育指針・保護者への支援 22 食育課題の選定、文献調査 23 食育便りの指導案 24 食育便りの作成 25 食育便りの発表 26 食育活動の考察 27 学童期・思春期の食生活 28 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 29 子どもの食と栄養のまとめ 30 筆記試験と振り返り			
〔使用テキスト・参考文献〕 「最新子どもの食と栄養」 学建書院		〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験60% 提出物・授業および実習態度：40%	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 家庭支援論	授業の種類 講 義	授業担当者 原 麻美子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 一部2年・二部3年	必修・選択 必 修
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 子育てをめぐる様々な問題を見ながら、実際にどんな支援ができるのか、また保護者に寄り添うということや適切な支援とはどんなことなのか考え、行えるように学んでいく。</p>			
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕 1 家族とは何か、支援とは何か、幼稚園や保育園で関わるすべての子ども達が、子どもらしく生き生きと生活することができるよう、保育者として要求される支援の専門性を学ぶ。 2 どんな支援を必要としているのか、具体的な事例を通して学ぶ。</p>			
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数 1 家庭支援とは…家族、家庭って何？ 2 子育てをめぐる問題①(社会環境の変化) 3 子育てをめぐる問題②(意識の変化、困難の様々) 4 子育て家庭支援のあり方①(対象と援助) 5 " ②(相談、援助者の役割と基本的態度) 6 援助の実際①(保育所通園児保護者への支援) 7 " ②(保育所通園児以外の保護者への支援、父親への支援) 8 特別なニーズ①(育てにくい子) 9 " ②(育てにくい子 子供への対応の仕方) 10 " ③(虐待 DV) 11 " ④(ひとり親、ステップファミリー、異文化) 12 具体的な制度 13 政策動向 14 今後の支援のあり方、保育者としての役割 まとめ 15 授業の振り返り 試験</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕 実践 家庭支援論…ななみ書房		〔単位認定の方法及び基準〕 ノートの提出 試験 上記により総合的に評価	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育行政		授業の種類 講義	授業担当者 大野 要子／武藤 篤訓
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間(2単位)	配当学年 一部2年・二部2年	必修・選択 必修
〔 授業の目的・ねらい 〕 教育行政は、教育に関する法令を実現化する行為のことです。したがって、この講義は、法令が常にかかわってきます。教育基本法、保育所保育指針と幼稚園教育要領の内容がどの法令に規定されているのか、またその背景は何か、法令を手元におきながら追究していきます。そして、調査、探究活動を通し、受講者自身が教育行政について理解を深め、将来の展望がもてるようになることを目指しています。			
〔 授業全体の内容の概要 〕 まず、日本の教育基盤である教育基本法の改正の要点と本質について追究します。そして、幼稚園教育要領と保育所保育指針が、どのように改訂されたか、その背景も含めて把握します。さらに、幼児教育行政の課題について課題を設定し、調査、探求活動を行います。			
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数 1 ガイダンスー「教育行政」について考えよう 教育行政とは何か 2 教育法規と戦前・戦後の教育法と制度 3 日本国憲法の教育条項と学校教育、幼稚園教育 4 教育基本法改正までの背景と新旧の比較 5 改正後の教育基本法を読む 6 保育所保育指針の改定の背景 7 保育所保育指針の法規定 8 保育所保育指針の改正点とその内容 9 幼稚園教育要領改訂の背景 10 幼稚園教育要領の法規定 11 幼稚園教育要領の改正点とその内容 12 教育行政に関する研究 自己の課題設定 13 教育行政に関する研究 課題追究・まとめ 14 教育行政に関する研究 発表 15 まとめ・最終試験			
〔使用テキスト・参考文献〕 配布プリント(ファイル各自) 幼稚園教育要領解説 文部科学省 保育所保育指針解説書 厚生労働省		〔単位認定の方法及び基準〕 講義での活動や提出物とその内容(60%) 最終試験(40%) 60～69点「可」 70～79点「良」 80点以上「優」	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育課程総論		授業の種類 講義	授業担当者 渡辺 泉／大嶋 織江
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(2単位)	配当学年 一部1年・二部1年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 幼稚園教育のための教育課程、保育所保育のための保育課程、指導計画の基礎理論について理解することを目的とする。 保育の実際では「誰に」「いつ」「どこで」「何を」「どのように」すればよいかを保育・教育課程の特徴や課題を見出し、具体的な指導計画作成演習を通して、保育活動展開の方法を学習する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 教育課程・保育課程の基礎的基本的な理念や歴史的変遷、現代社会における保育の諸問題について論じる。 保育カリキュラムの編成原理、基本的な計画と具体的な計画である指導計画、また、計画と、実践活動や評価との関係も論じ、保育カリキュラムの全体構造の理解を図る。</p>			
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1 授業オリエンテーション「教育課程総論」導入 2 教育課程とは 指導計画はなぜ必要か 3 ささまざまな教育課程 4 幼稚園の教育課程とは 5 認定こども園の教育課程とは 6 幼稚園・認定こども園の生活と幼児理解 7 教育課程・保育課程、指導計画を考える上で共通に必要なこと 8 教育課程、指導計画を考える上で必要なこと 9 教育課程の編成から長期の指導計画へ 10 短期の指導計画の作成 11 教育課程を編成し、指導計画を作成する 12 作成した指導計画を発表し、教材研究をおこなう 13 指導計画の実践(模擬授業) 14 教育課程・指導計画のPDCAサイクル 15 振り返り・まとめ・試験</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』 随時、必要な資料を配布する</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 授業態度、提出物、定期試験で総合的に判断する</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育内容指導法Ⅰ		授業の種類 演習	授業担当者 和泉 禎子／渡辺 泉																																																
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部1年・二部3年	必修・選択 必修																																																
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児教育における指導法とは何か、指導と援助の基本的な違いについて理解させる。 2 幼児が園の生活でどのような主体性を発揮していくか、また発揮できるように保育者はどのように主体性を育てるのか、主体性を育てる指導法について学ばせる。 3 幼児が主体的に活動できる環境の意義を理解するとともに、その環境づくりにおける保育者の役割を理解させる。 4 科学的探究心や思考力・態度を育てることの理解を深め、より豊かな人間性を培っていくことを理解する。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児の発達の特徴、幼児の理解の原理、幼児教育指導法の歴史をふまえて、幼児1人ひとりに即した指導・援助するときの基礎知識と具体的指導の方法を実践事例や視聴覚教材を用いて授業（演習）を展開していく。 2 保育者中心の強すぎる指導ではなく、子どもたちの個性・自発性・主体性を尊重した指導・援助のあり方について具体的な事例を通して学習する。 3 対象児の発達段階に適した指導案作りや独創性のある遊びの教材研究を行う。 <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業計画</th> <th>各回テーマ</th> <th>内容・授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 保育とは何か 保育内容とは</td> <td>保育の基本とは ①保育内容とは ②領域の捉え方</td> <td>保育とは何か、具体的な実践例を用いて考える。 保育内容、領域の捉え方について資料を用いて考える。</td> </tr> <tr> <td>2 幼児教育における指導法とは何か</td> <td>指導の概念、指導と援助の基本的な違い、主体性を育てる指導とは</td> <td>指導の概念について、指導と援助の基本的な違いについて資料を用いて考える。指導法の諸原理、主体性を育てる指導法について解説する。</td> </tr> <tr> <td>3 世界の保育方法</td> <td>世界の幼児教育・保育方法から</td> <td>世界の保育方法について、視聴覚教材を通して学習する。森の幼稚園（デンマーク・ドイツ）他</td> </tr> <tr> <td>4 環境の変化</td> <td>幼児をとりまく環境の変化</td> <td>幼児をとりまく環境の変化について理解する。 幼児をとりまく環境の変化について、4つの視点（社会環境、自然環境、家庭環境、文化・情報環境）から問題点を考える。まとめ、発表、レポート提出。</td> </tr> <tr> <td>5 環境による保育（1）</td> <td>保育環境の構成のあり方</td> <td>環境構成のあり方について、具体的な資料、視聴覚教材を用いて理解させる。</td> </tr> <tr> <td>6 環境による保育（2）</td> <td>環境を通しての指導・援助 子ども1人ひとりに即した指導・援助とは</td> <td>環境を通しての指導・援助とは、子ども1人ひとりに即した指導・援助とはについて具体的な実践例を用いて考える。</td> </tr> <tr> <td>7 5領域（1）</td> <td>5領域の「ねらい」「内容」</td> <td>5領域の「ねらい」「内容」の取扱いについて理解する。 5領域の内、特に①「健康」②「環境」③「人間関係」の領域について理解する。</td> </tr> <tr> <td>8 5領域（2）</td> <td>「ねらい」「内容」の中心部分ポイント。 実践のヒント 指導のあり方</td> <td>①～③について「ねらい」「内容」の中心部分、ポイント、実践のヒントについて理解する。指導のあり方について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>9 指導計画と実践（1）</td> <td>指導計画の意義・必要性</td> <td>指導計画はなぜ必要なのか、指導計画とはについて理解する。</td> </tr> <tr> <td>10 指導計画と実践（2）</td> <td>保育の計画・作成と具体的な指導</td> <td>指導計画の作成と具体的な指導にあたって、具体例を用いて理解する。</td> </tr> <tr> <td>11 指導計画と実践（3）</td> <td>指導案の作成や模擬保育を体験（環境）</td> <td>保育者には具体的な実践的な資質能力と経験が必要になる。学生自身の直接体験を通じた学習を行うことで、より適切な指導・援助ができるような技術を習得させる。指導案の作成や模擬保育を体験し、実践的に教材研究を行う。まとめ、発表、レポート提出。 具体的な教材研究（環境の研究課題）は、以下の内容である。 1 自然に親しむ保育のための実践体験 (1)・自然動物園や子ども動物園、水族館他などを見学し、動物観察を行ったり直接触れりする機会を持ち、身近な動物に対する幼児の関わり方を理解する。 ・見学目的はその達成感を考慮して具体的な指導計画を立案する。 (2)・身近な小動物に触れりたり親しみをもち接し生命の尊さに気付く、愛護の態度を養う。 ・観察を行うことにより生態や成長過程を知る。 (3)・草花や野菜の栽培を実施し植物の発芽から開花・収穫までの成長過程の観察を行い命あるものへの関心や育てる大切さを体験させる。 ・花を採取し、色遊びや押し花でしおりの作成を実践したり、収穫物で調理をし食教育にも発展させる。 2 地域に関わる保育の実践体験 (1) 園外活動の効果が図れるように、園を中心とした地域環境地図の作成 (2) 地域の行事などを調べ「地域の半年ごよみ」を作成する。 (3) 四季の移り変わりに即した年間の指導計画を作成し、動物園・水族館・植物園・プラネタリウム等の施設を利用して動植物に直接触れりたり天体現象に関心を持ちたりする。 (4) 公共施設を利用することにより社会のルールを身につける態度を養う。 3 物にかかわる保育の実践体験 (1) 科学遊び（創造と工夫の遊び）；シャボン玉遊びの研究 ・シャボン玉液を研究する。 ・溶液の性質や変化に興味を持たせる。 ・安全性を配慮し丈夫さ、大きさ、色の美しさ等を研究し、遊び方を工夫させる。 保育者には感性の豊かさや創造性を強く求められると考えられるので、「環境」の指導については、感性、情操、創造性を育てることに努めたい。そのためにはできるだけ ①自然を観察したり、草花、生き物に触れる機会を多く持つように自覚させたい。 ②教材のマンネリ化に陥らないように教材の必要性を確認させたい。 ③研究課題等により研究的な態度を身につけさせたい。</td> </tr> <tr> <td>12 遊びによる保育</td> <td>遊びの重要性、遊びの分類、遊びの教育的意義 遊びを指導すること</td> <td>遊びの重要性・分類・教育的意義について理解する。 遊びを指導することの基本原則（楽しさの保障と拡大、自発性の尊重と主体性の育成、よい遊びへの指導）。遊びの種類と指導のあり方について（運動遊び・想像遊び・受容的・○○の遊び）とその指導について理解する。</td> </tr> <tr> <td>13 基本的な生活習慣とその指導</td> <td>基本的な生活習慣の育成の意義 育成の時期、指導法</td> <td>基本的な生活習慣の育成の意義、指導法について具体的な資料を用いて理解させる。</td> </tr> <tr> <td>14 幼児理解（1） 保育士の専門性と保育士の資質とは 保育士のあり方と役割（2）</td> <td>幼児理解の原理と方法 保育士に求められる専門性とは、保育士の資質とは、保育士のあり方と役割</td> <td>幼児理解の留意点、原理・方法について考える。 保育士の資質と専門性・役割を明確にし、保育者のあり方と役割について自ら考え、意見をまとめる。</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ・試験</td> <td>まとめ・試験</td> <td>まとめ・試験</td> </tr> </tbody> </table>				授業計画	各回テーマ	内容・授業方法	1 保育とは何か 保育内容とは	保育の基本とは ①保育内容とは ②領域の捉え方	保育とは何か、具体的な実践例を用いて考える。 保育内容、領域の捉え方について資料を用いて考える。	2 幼児教育における指導法とは何か	指導の概念、指導と援助の基本的な違い、主体性を育てる指導とは	指導の概念について、指導と援助の基本的な違いについて資料を用いて考える。指導法の諸原理、主体性を育てる指導法について解説する。	3 世界の保育方法	世界の幼児教育・保育方法から	世界の保育方法について、視聴覚教材を通して学習する。森の幼稚園（デンマーク・ドイツ）他	4 環境の変化	幼児をとりまく環境の変化	幼児をとりまく環境の変化について理解する。 幼児をとりまく環境の変化について、4つの視点（社会環境、自然環境、家庭環境、文化・情報環境）から問題点を考える。まとめ、発表、レポート提出。	5 環境による保育（1）	保育環境の構成のあり方	環境構成のあり方について、具体的な資料、視聴覚教材を用いて理解させる。	6 環境による保育（2）	環境を通しての指導・援助 子ども1人ひとりに即した指導・援助とは	環境を通しての指導・援助とは、子ども1人ひとりに即した指導・援助とはについて具体的な実践例を用いて考える。	7 5領域（1）	5領域の「ねらい」「内容」	5領域の「ねらい」「内容」の取扱いについて理解する。 5領域の内、特に①「健康」②「環境」③「人間関係」の領域について理解する。	8 5領域（2）	「ねらい」「内容」の中心部分ポイント。 実践のヒント 指導のあり方	①～③について「ねらい」「内容」の中心部分、ポイント、実践のヒントについて理解する。指導のあり方について学ぶ。	9 指導計画と実践（1）	指導計画の意義・必要性	指導計画はなぜ必要なのか、指導計画とはについて理解する。	10 指導計画と実践（2）	保育の計画・作成と具体的な指導	指導計画の作成と具体的な指導にあたって、具体例を用いて理解する。	11 指導計画と実践（3）	指導案の作成や模擬保育を体験（環境）	保育者には具体的な実践的な資質能力と経験が必要になる。学生自身の直接体験を通じた学習を行うことで、より適切な指導・援助ができるような技術を習得させる。指導案の作成や模擬保育を体験し、実践的に教材研究を行う。まとめ、発表、レポート提出。 具体的な教材研究（環境の研究課題）は、以下の内容である。 1 自然に親しむ保育のための実践体験 (1)・自然動物園や子ども動物園、水族館他などを見学し、動物観察を行ったり直接触れりする機会を持ち、身近な動物に対する幼児の関わり方を理解する。 ・見学目的はその達成感を考慮して具体的な指導計画を立案する。 (2)・身近な小動物に触れりたり親しみをもち接し生命の尊さに気付く、愛護の態度を養う。 ・観察を行うことにより生態や成長過程を知る。 (3)・草花や野菜の栽培を実施し植物の発芽から開花・収穫までの成長過程の観察を行い命あるものへの関心や育てる大切さを体験させる。 ・花を採取し、色遊びや押し花でしおりの作成を実践したり、収穫物で調理をし食教育にも発展させる。 2 地域に関わる保育の実践体験 (1) 園外活動の効果が図れるように、園を中心とした地域環境地図の作成 (2) 地域の行事などを調べ「地域の半年ごよみ」を作成する。 (3) 四季の移り変わりに即した年間の指導計画を作成し、動物園・水族館・植物園・プラネタリウム等の施設を利用して動植物に直接触れりたり天体現象に関心を持ちたりする。 (4) 公共施設を利用することにより社会のルールを身につける態度を養う。 3 物にかかわる保育の実践体験 (1) 科学遊び（創造と工夫の遊び）；シャボン玉遊びの研究 ・シャボン玉液を研究する。 ・溶液の性質や変化に興味を持たせる。 ・安全性を配慮し丈夫さ、大きさ、色の美しさ等を研究し、遊び方を工夫させる。 保育者には感性の豊かさや創造性を強く求められると考えられるので、「環境」の指導については、感性、情操、創造性を育てることに努めたい。そのためにはできるだけ ①自然を観察したり、草花、生き物に触れる機会を多く持つように自覚させたい。 ②教材のマンネリ化に陥らないように教材の必要性を確認させたい。 ③研究課題等により研究的な態度を身につけさせたい。	12 遊びによる保育	遊びの重要性、遊びの分類、遊びの教育的意義 遊びを指導すること	遊びの重要性・分類・教育的意義について理解する。 遊びを指導することの基本原則（楽しさの保障と拡大、自発性の尊重と主体性の育成、よい遊びへの指導）。遊びの種類と指導のあり方について（運動遊び・想像遊び・受容的・○○の遊び）とその指導について理解する。	13 基本的な生活習慣とその指導	基本的な生活習慣の育成の意義 育成の時期、指導法	基本的な生活習慣の育成の意義、指導法について具体的な資料を用いて理解させる。	14 幼児理解（1） 保育士の専門性と保育士の資質とは 保育士のあり方と役割（2）	幼児理解の原理と方法 保育士に求められる専門性とは、保育士の資質とは、保育士のあり方と役割	幼児理解の留意点、原理・方法について考える。 保育士の資質と専門性・役割を明確にし、保育者のあり方と役割について自ら考え、意見をまとめる。	15 まとめ・試験	まとめ・試験	まとめ・試験
授業計画	各回テーマ	内容・授業方法																																																	
1 保育とは何か 保育内容とは	保育の基本とは ①保育内容とは ②領域の捉え方	保育とは何か、具体的な実践例を用いて考える。 保育内容、領域の捉え方について資料を用いて考える。																																																	
2 幼児教育における指導法とは何か	指導の概念、指導と援助の基本的な違い、主体性を育てる指導とは	指導の概念について、指導と援助の基本的な違いについて資料を用いて考える。指導法の諸原理、主体性を育てる指導法について解説する。																																																	
3 世界の保育方法	世界の幼児教育・保育方法から	世界の保育方法について、視聴覚教材を通して学習する。森の幼稚園（デンマーク・ドイツ）他																																																	
4 環境の変化	幼児をとりまく環境の変化	幼児をとりまく環境の変化について理解する。 幼児をとりまく環境の変化について、4つの視点（社会環境、自然環境、家庭環境、文化・情報環境）から問題点を考える。まとめ、発表、レポート提出。																																																	
5 環境による保育（1）	保育環境の構成のあり方	環境構成のあり方について、具体的な資料、視聴覚教材を用いて理解させる。																																																	
6 環境による保育（2）	環境を通しての指導・援助 子ども1人ひとりに即した指導・援助とは	環境を通しての指導・援助とは、子ども1人ひとりに即した指導・援助とはについて具体的な実践例を用いて考える。																																																	
7 5領域（1）	5領域の「ねらい」「内容」	5領域の「ねらい」「内容」の取扱いについて理解する。 5領域の内、特に①「健康」②「環境」③「人間関係」の領域について理解する。																																																	
8 5領域（2）	「ねらい」「内容」の中心部分ポイント。 実践のヒント 指導のあり方	①～③について「ねらい」「内容」の中心部分、ポイント、実践のヒントについて理解する。指導のあり方について学ぶ。																																																	
9 指導計画と実践（1）	指導計画の意義・必要性	指導計画はなぜ必要なのか、指導計画とはについて理解する。																																																	
10 指導計画と実践（2）	保育の計画・作成と具体的な指導	指導計画の作成と具体的な指導にあたって、具体例を用いて理解する。																																																	
11 指導計画と実践（3）	指導案の作成や模擬保育を体験（環境）	保育者には具体的な実践的な資質能力と経験が必要になる。学生自身の直接体験を通じた学習を行うことで、より適切な指導・援助ができるような技術を習得させる。指導案の作成や模擬保育を体験し、実践的に教材研究を行う。まとめ、発表、レポート提出。 具体的な教材研究（環境の研究課題）は、以下の内容である。 1 自然に親しむ保育のための実践体験 (1)・自然動物園や子ども動物園、水族館他などを見学し、動物観察を行ったり直接触れりする機会を持ち、身近な動物に対する幼児の関わり方を理解する。 ・見学目的はその達成感を考慮して具体的な指導計画を立案する。 (2)・身近な小動物に触れりたり親しみをもち接し生命の尊さに気付く、愛護の態度を養う。 ・観察を行うことにより生態や成長過程を知る。 (3)・草花や野菜の栽培を実施し植物の発芽から開花・収穫までの成長過程の観察を行い命あるものへの関心や育てる大切さを体験させる。 ・花を採取し、色遊びや押し花でしおりの作成を実践したり、収穫物で調理をし食教育にも発展させる。 2 地域に関わる保育の実践体験 (1) 園外活動の効果が図れるように、園を中心とした地域環境地図の作成 (2) 地域の行事などを調べ「地域の半年ごよみ」を作成する。 (3) 四季の移り変わりに即した年間の指導計画を作成し、動物園・水族館・植物園・プラネタリウム等の施設を利用して動植物に直接触れりたり天体現象に関心を持ちたりする。 (4) 公共施設を利用することにより社会のルールを身につける態度を養う。 3 物にかかわる保育の実践体験 (1) 科学遊び（創造と工夫の遊び）；シャボン玉遊びの研究 ・シャボン玉液を研究する。 ・溶液の性質や変化に興味を持たせる。 ・安全性を配慮し丈夫さ、大きさ、色の美しさ等を研究し、遊び方を工夫させる。 保育者には感性の豊かさや創造性を強く求められると考えられるので、「環境」の指導については、感性、情操、創造性を育てることに努めたい。そのためにはできるだけ ①自然を観察したり、草花、生き物に触れる機会を多く持つように自覚させたい。 ②教材のマンネリ化に陥らないように教材の必要性を確認させたい。 ③研究課題等により研究的な態度を身につけさせたい。																																																	
12 遊びによる保育	遊びの重要性、遊びの分類、遊びの教育的意義 遊びを指導すること	遊びの重要性・分類・教育的意義について理解する。 遊びを指導することの基本原則（楽しさの保障と拡大、自発性の尊重と主体性の育成、よい遊びへの指導）。遊びの種類と指導のあり方について（運動遊び・想像遊び・受容的・○○の遊び）とその指導について理解する。																																																	
13 基本的な生活習慣とその指導	基本的な生活習慣の育成の意義 育成の時期、指導法	基本的な生活習慣の育成の意義、指導法について具体的な資料を用いて理解させる。																																																	
14 幼児理解（1） 保育士の専門性と保育士の資質とは 保育士のあり方と役割（2）	幼児理解の原理と方法 保育士に求められる専門性とは、保育士の資質とは、保育士のあり方と役割	幼児理解の留意点、原理・方法について考える。 保育士の資質と専門性・役割を明確にし、保育者のあり方と役割について自ら考え、意見をまとめる。																																																	
15 まとめ・試験	まとめ・試験	まとめ・試験																																																	
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「ラボムブックス幼稚園教育要領ハンドブック」 （2008年告示版）監修 無藤隆、学研教育出版社 ※「保育所保育指針ハンドブック（ポイント&実践サポート）」 監修 大場幸夫、学研教育出版社 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」 文部科学省、厚生労働省 フレーベル館 随時、資料を配付。</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>定期試験、提出物、総合的に評価する。</p>																																																	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育内容指導法Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 加藤 あゆみ	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部2年・二部3年		必修・選択 選択	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 乳幼児教育が総合的な指導方法によることを知り、保育者として、指導性だけでなく人間性や専門性を磨くことの大切さを知る。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針を、事例やビデオを通して理解する。また、指導計画の重要性を理解するように、子どもの遊びや生活を理解する。</p>					
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本の幼児教育の現状 2 外国の幼児教育の紹介と日本の幼児教育の基本 3 子どもの発達や経過、特性と発達の課題を理解する 4 幼児理解を深める 5 幼稚園教育要領、認定こども園のとらえ方と運用 6 子どもの行為の意味と保育者の援助のあり方 7 子どもの行為の意味と保育者の援助のあり方 8 総合的指導と保育のあり方(子どもの遊びに合わせた環境構成について) 9 総合的指導と保育のあり方(ねらいや保育者の援助の見直し) 10 教育課程と年間指導計画について 11 長期指導計画を元に短期指導計画を見直す 12 デイリープログラムを立案し、グループごとに模擬保育実践 13 模擬保育を元に、保育者の援助活動の振り返り 14 模擬保育からの振り返りを元に、グループごとに教材研究の見直し 15 グループごとに教材研究発表・振り返り 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 授業態度、試験、レポート</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 健康 I		授業の種類 演 習	授業担当者 鈴木 敦／大嶋 織江
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部2年・二部2年	必修・選択 必修
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児教育における『健康』のねらいと内容について理解する。 2 発達の道筋について理解し、具体的な保育方法について知る。 3 心身共に健康な子どもの姿・発達の実態に関して興味関心を持ち、自ら調べ考えることができる。 4 今日の課題(基本的生活習慣・食育・心身の健康・運動の充実)について理解し、説明できる。 <p>子どもの幸せな人間としての成長に携わる保育の基本に小児保健があることを学ぶ。</p> <p>幼児期における健康の意義と領域「健康」のねらいと内容について知り、子どもの体の発達や運動発達の実態について捉える。</p> <p>具体的には、幼児の教育・保育と諸法律の関係性(学校教育法他)、幼稚園教育要領や保育所保育指針における健康領域の考え方、幼児の健康と基本的生活習慣や食育との関わり、現場における安全・衛生管理について論じる。</p>			
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション「健康 I」導入 2 領域「健康」のとらえ方と目指すもの 3 幼児の発育・発達 幼児の生活習慣と健康 4 運動能力の発達と「遊びの大切さ」 5 幼児の健康維持・増進のための身体活動 6 保育における運動指導と留意点 7 健全な発育・発達測定と評価方法 安全管理と安全 8 領域「健康」と保育方法 9 領域「健康」と指導案の作成 10 領域「健康」と環境構成 11 領域「健康」と保育の実際 教材研究「体を使った遊び」 12 保育の実際 模擬授業「体を使った遊び」の実践 13 領域「健康」との指導上の留意事項 14 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育者の役割 13 全体のまとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>『保育内容 健康』春日晃章 松田繁樹 中野貴博編著 株式会社みらい</p> <p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省</p> <p>『保育所保育指針解説書』厚生労働省</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>その他、随時プリントを配付する。</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>提出物、定期試験、授業態度で総合的に判断する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 健康Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 加藤 あゆみ	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部2年・二部2年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領における「健康」のねらいと内容の理解を深める。 ・「健康」の意味を理解し、子どもの発達に沿った保育現場における環境構成を学ぶ。 ・子ども自らが健康で安全な生活を送れるように、保育者が指導・援助する方法を学ぶ。 					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>領域「健康」のねらいと内容を把握した上で、子どもが健康に過ごすためには、保育者がどのような環境を整えておくべきかを学ぶ。さらに、子どもの疾病や事故について理解し、その対処法や日頃の安全対策についても学んでいく。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 領域「健康」のねらいと内容 2 健康とは 3 乳幼児の発達Ⅰ～からだの発達～ 4 乳幼児の発達Ⅱ～心の発達～ 5 子どもの疾病・感染症予防について 6 乳幼児の事故と安全対策Ⅰ～事故とその対処法～ 7 乳幼児の事故と安全対策Ⅱ～環境の整備について～ 8 乳幼児の事故と安全対策Ⅲ～保護者・医療機関との連携～ 9 生命や健康の大切さに対する指導の仕方 10 子どもの健康に対する保育者の指導、指導案の作成 11 運動あそび「教材研究」 12 運動あそびⅠ～屋内での遊び～「模擬授業」 13 運動あそびⅡ～屋外での遊び～「模擬授業」 14 健康における現代的課題 15 まとめ・試験 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>定期試験、授業態度を総合的に判断する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係 I		授業の種類 演習形式		授業担当者 加藤あゆみ	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部・二部1年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容について説明できる。 ・乳児期のかかわりの重要性について、自分の言葉で説明できる。 ・目に見える子どもの行動や表情から心の動きを推測し、可視化できる。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>幼児期に育てたい豊かな人間関係とは何か、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領をもとに、子どもの発達段階に沿ったかかわりを考える。また、乳児期のかかわりの重要性について、親子関係を中心としながら多面的に理解できるよう授業を展開していく。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、保育内容「人間関係」とは 2 自己の経験を振り返るワークショップ 3 現代社会におけるかかわりの喪失 4 領域「人間関係」の基本的な理解 5 乳児の発達とかかわりの育ち 6 幼児の発達とかかわりの育ち 7 親子のかかわりを考える 8 多様な人とかかわりを考える 9 かかわりを見る視点 ～保育現場の映像を視聴して～ 10 けんかの中で育つ力 11 グループワークを通して集団遊びを考える 12 自分たちで考えた集団遊びを実践し、指導案を作成する 13 集団遊びの振り返りを行い、実習への課題を見出す 14 幼児教育の現代的課題と保育内容「人間関係」 15 まとめと試験 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>使用テキスト 『事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 参考文献 適宜、資料プリントを配布する。</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習課題の取り組み・成果 ・レポート・提出物 ・受講態度 ・リフレクションシートの提出 		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 加藤 あゆみ	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部2年・二部3年		必修・選択 選 択	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・人とかかわる力の大切さを理解し、保育実践に反映させることができるよう保育者としての資質を高める。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領や、保育所保育指針のねらいと内容について学ぶ。 ・実習の経験から課題を発見し、問題解決を行う。 					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、通年実習のシステムと園生活の1日の流れについて 2 事前訪問の受け方と実習の注意事項 3 幼稚園教育要領における「人間関係」、幼稚園教育の基本 4 幼稚園教育要領の目標とねらい 5 領域「人間関係」のねらいと内容 6 実習で起きた問題について 7 保育所保育指針における「人間関係」、保育所保育指針の理念 8 保育所保育指針のねらいと内容 9 現代におけるかかわりの喪失 10 けんかを通して育つ力と保育者の援助 11 協同的な学びを育む保育実践 12 保護者とのかかわりについて 13 保育者の連携について 14 子どもの人間関係を知るための方法 15 まとめ・試験 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「保育における人間関係」 保育者と研究者の連携を考える会編 ナカニシヤ出版 「これだけは知っておきたい 保育の禁句・保育の名句」 豊田 公夫／黎明書房</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>参加態度、定期試験</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 環境 I		授業の種類 演 習		授業担当者 新井 実	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部1年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>1 幼児の身近な環境の大切さを学び、考える。 2 幼児が意欲的にかかわる様々な環境(具体的には身の回りに起こる自然現象とその自然現象に対する安全への回避、自然への幼児の関わり方、日常使っている生活器具や玩具の仕組み、遊園地の乗り物の仕組みや安全な乗り方、地球環境と幼児教育、物の性質や数量)などについて学ぶ。 3 学習したことと実際の保育と結びつけるため、基礎的な演習問題を行う。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>幼児は、環境と能動的に関わることを通して生きる力を獲得していく。そのため、保育環境を整えることは大変重要なため、どのように構成していくのか考える。その環境の中で幼児が具体的にどのような遊びを展開し、どのような力を獲得していくのか、さらに保育者の援助はどうあるべきなのかなどについて、具体的な事例や写真をもとに考えていく。学生自身も環境のひとつとして立居振る舞いに気を付け、環境に鋭く反応できる保育者になることを目指す。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要の説明、自己紹介、自己PRの方法 2 きれいに写真を撮るコツ 3 遊園地の乗り物の安全 4 花の話と季節感 5 自然に親しむために・・・指導案作成 6 幼児と我が身の健康管理 7 おもちゃの仕組みと遊び方・・・教材研究をしよう 8 乗り物の観察に関して・・・模擬授業 9 幼児の為の雷と地震対策 10 地球環境保護のためのリサイクルとは 11 上手な調理機器の使い方 12 家庭内の事故とその対策 13 幼児の為の不思議な科学実験 14 重さや長さの単位の換算 15 まとめ（演習問題の返却） 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ノート提出 製作物 上記により総合的に評価</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 環境 I	授業の種類 演 習	授業担当者 岸本 圭子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 二部1年	必修・選択 必 修
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児にとっての環境の大切さを学ぶ 2 幼児が意欲的にかかわる環境づくりを学ぶ 3 学習したことと実際の保育とを結びつけるため、具体的イメージを持てるようにする。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>幼児は、環境と能動的に関わることを通して生きる力を獲得していく。そのため、保育環境を整えることは大変重要なため、どのように構成していくのか考える。その環境の中で幼児が具体的にどのような遊びを展開し、どのような力を獲得していくのか、さらに保育者の援助はどうあるべきなのかなどについて、具体的な事例を挙げる。</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境とは・・・(自己紹介ゲーム、オリエンテーション) 2 環境を考える(教育要領 保育指針に沿って) 3 人的環境とは 4 物理的環境①遊具について、教材研究・・・新聞紙 5 " ②自然について 6 物理的環境③保育環境の重要性 7 " ④遊具について、教材研究・・・折り紙 8 " ⑤教材研究身近なもの、教材研究発表と模擬授業 9 環境を整えるということ、その他の教材研究 10 その他の環境について、環境に配慮した指導案作成について 11 作ってみよう① 施設環境の教材研究 12 " ② 理想の施設環境作成 13 発表(作ったもの) 14 まとめ(今後の課題、環境の重要性) 15 授業の振り返り 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> 提出物 製作物 試験 上記により総合的に評価	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 環境Ⅱ	授業の種類 演習	授業担当者 新井実、岸本圭子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部2年・二部2年	必修・選択 選択
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児が環境からいきるためのさまざまな力をどのように獲得していくのかを考察する。 2 保育計画に基づく環境構成と子どもの学びについての考察 3 1、2に対する援助についての考察 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>幼児の「生きる力」をそだてる保育は、幼児が「環境」に意欲的にかかわることによって生まれる「遊び」を通して行われます。そして領域「環境」のねらいは、幼児がその遊びを通して気づいたり、発見したり、考えたり、工夫したり、創り出したことを自分の生活の中に取り入れていけるように育てることです。また幼児は、身近な環境や雰囲気からさまざまなことを自然に取り入れて発達していく存在であることを考慮し、より良い環境を創造することも保育者の大きな役割です。保育者も環境の一部、保育者を目指す人たちが子どもに真似られてもいい存在になれるように、学びつつ成長していきましょう。</p>			
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 領域「環境」の授業概要と領域「環境」に示されている保育内容について 2 環境と子どもの遊びについて「ビデオ、スライド」 3 「環境による保育」とは、「遊び」とは 4 乳幼児の発達と領域「環境」について 5 物、遊具へのかかわりと発達(教材研究) 6 自然と生物へのかかわりと発達 7 人、社会へのかかわりと発達 8 情報環境へのかかわりと数や文字への親しみ 9 遊びを通して発達する自我(しつけとの関係)、感性、想像力について 10 保育計画と保育環境(指導案作成) 11 音楽的表現遊びと環境 12 描画的表現遊びと環境 13 制作的表現遊びと環境 14 ごっこ遊び、劇遊びと環境 15 模擬授業の実践および今後の課題 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 『新・保育講座 保育内容「環境」』 柴崎正行・田中泰行 編 ミネルヴァ書房</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ペーパー試験</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 言葉Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 渡邊 晶	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部1年・二部1年		必修・選択 必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>5領域の1つである「言葉」という側面から子ども理解や保育方法について学ぶ。子どもの発達過程に即した子ども理解と共に、事例研究やグループワークを通し、考察力・実践力を習得する。</p>					
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>5領域の一つである「言葉」という側面から子ども理解や実際の保育方法について学びます。生後から小学校就学前までの子どもの発達過程にそくした子ども理解とともに、「子どもが言葉をどのように習得するか」について、事例研究やグループワークを通して学びます。この授業では、実際に幼稚園や保育所で行われている活動やあそび等をたくさん取り入れます。その中で、各年齢にふさわしい教材やカリキュラムをみんなで考えながら楽しく学び、実践力を習得します。</p>					
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション／領域「言葉」について 2 子どものことばと育ち 3 領域「言葉」とはなにか 4 ことばはどのように育つのか—言葉の発達① ～生後から2歳児 5 ことばはどのように育つのか—言葉の発達② ～3歳児から就学前 6 子どものことばと保育者 7 絵とことばの豊かな世界を楽しむ／紙芝居制作について(教材研究) 8 うたやふれあい遊びを楽しむ遊び 9 劇や物語を楽しむ児童文化財と内容(指導案作成) 10 想像やことばのリズム遊びを楽しむ 11 紙芝居発表会(模擬授業) 12 ごっこ遊びの世界から劇遊びへ① ～劇あそびの原点を探ってみよう 13 ごっこ遊びの世界から劇遊びへ② ～実際にごっこ遊びを考えてみよう 14 特別な配慮が必要な子どもとの関わり 15 定期試験／まとめ・総論 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>太田光洋編著 保育・教育ネオシリーズ20『保育内容・言葉』(同文書院、2006年) 「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>成績評価は授業態度20%、課題提出20%、試験60%とし、60点以上のものに単位を与える。課題の提出期限は厳守すること。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 言葉Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 大野 要子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部2年・二部2年		必修・選択 選択	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>乳幼児は生活の中で言葉を獲得していく。ただし、言葉の獲得はそれだけが独立してなされるものではない。乳幼児の体の発達はもちろん、情意面、認知・思考力、表象機能、自我や社会性などの発達が不可分の中で言葉に関する概念が構築されていくと考えられる。これらの領域相互の関連の中で乳幼児が言葉の獲得をする過程について深く考えるとともに、その過程における諸問題にも目を向け、教育者、保育者としての研鑽を積むことを目的としている。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 言葉のはたらき 2 乳幼児期の言葉の発達 3 言葉と環境 4 言葉をめぐる課題 					
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:授業の概要、ねらい、課題の説明 2 言葉のはたらき①:生活の中の言葉 3 言葉のはたらき②:人間と言葉(外言と内言) 4 乳幼児期の言葉の発達①:言葉の獲得(誕生から6歳まで) 5 乳幼児期の言葉の発達②:言葉の育ちと他の領域との関連 6 乳幼児期の言葉の発達③:児童文化財と保育 7 言葉と環境①:家庭環境や地域環境と言葉の発達 8 言葉と環境②:園生活における言葉の発達 9 言葉をめぐる課題①:言葉の遅れや障害について 10 言葉をめぐる課題②:日本語を母語としない子どもへの援助や対応 11 言葉をめぐる課題③:保育者としての支援(教材研究) 12 言葉をめぐる課題④:保育者としての支援(指導案作成) 13 言葉をめぐる課題⑤:保育者としての支援(模擬授業) 14 まとめ:学習を振り返り、言葉の発達について考える 15 課題をレポートにまとめ提出 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>講義内で紹介 「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>講義への参加態度(積極性などの態度、課題への取り組み方など)を総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 表現Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 鈴木恵利子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部1年		必修・選択 必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>表現とは心が開いてそこから出てくるものでそれを育ていくのが表現教育である。「子どもが安心して心を開き勇気や自信をもって表現する力」を育むためには、保育者は表現をどのように捉え、どのような受容の仕方や援助の方法が望ましいのかについて探求する。さらに、保育者を目指すところの、表現者としての自分を見つめることをも促したい。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針にある「表現」の内容を理解するとともに、子どもの内面の育ちを豊かに育むための環境や保育の在り方を実技・講義を通して考え、保育の実践につながるものとなるよう深める。また、「表現」とは何かについて押さえながら、グループ学習により、子どもの年齢や発達にあわせた表現活動の適性について実技体験を通して学ぶ。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 領域「表現」について・授業の内容と方法 2 自然を感じる心と感性 自然の中で表現あそび 3 表出から表現へ① 表出の意味とその環境を考える・講義と実技 4 表出から表現へ② 表出の喜びと表現の喜び・講義と実技 5 表現とは何か？豊かな表現と生活を考える 6 子ども的心を考える 生活の中で子どもの表現 7 「描きあrawし」の楽しさ 8 表現と感性 「あrawし」と「うけとめ」 9 心の表現と受け止める心をエピソードから学ぶ 10 新聞紙のあそび 教材研究から指導案作り 11 指導案をもとに模擬授業 12 総合的な表現活動 グループ活動 “お話づくり” 13 総合的な表現活動 作ったお話を、言葉、身体で表現する楽しさと 14 総合的な表現活動 伝え合う喜びと保育者の援助を考える 15 まとめ・テスト 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>授業者の配布資料 参考 大場牧夫著『表現原論』萌文書林、2008 保育所保育指針・幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験 毎回の授業に対する取り組み 課題・提出物など総合的に評価する</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 表現Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 中野小代子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 二部 2年		必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>人の存在に絡む表現の重要性を見据えながら、「子どもが心を開き勇気や自信をもって表現する力」を育むためには、保育者は表現をどのように捉え、どのような受容の仕方や援助の方法が望ましいのかについて探求する。さらに、保育者を目指すところの、表現者としての自分を見つめることをも促したい。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>教育要領にある「表現」の内容を理解するとともに、子どもの内面の育ちを豊かに育むための環境や保育の在り方を実技・講義を通して考え、保育の実践につながるものとなるよう深める。また、「表現」とは何かについて押さえながら、グループ学習により、子どもの年齢や発達にあわせた表現活動の適性について実技体験を通して学ぶ。</p>				
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション: 授業の内容と方法の説明(=前半はグループ学習・後半は講義) 2 演目決めやスケジュールを話し合う: 子どもの年齢や発達を考慮して選択する(=グループ学習) 3 指導について考える: 劇あそびや器楽合奏・歌の指導方法を考える(指導案作成)(グループ学習) 4 子どもの「動き」を考える: 表現の内容(=動きやせりふ)を考察する(教材研究)(グループ学習) 5 子どもの「気持ち」を考える: 「表現するとは」を考える・演目の完成(グループ学習) 6 発表資料作成: 各自のまとめた資料を発表しあい、グループとしてまとめる(グループ学習) 7 発表(前半)ーAグループ: 資料発表(=選択理由や演習の経過・問題点)と実技の発表(グループ学習) (=発表資料について質疑・応答) 8 発表(後半)ーBグループ: 資料発表(=選択理由や演習の経過・問題点)と実技の発表(グループ学習) (=発表資料について質疑・応答) 9 グループ学習のまとめ: 演習と表現領域のねらい・内容の関係を見る(講義) 10 表現とは何か?: 豊かな表現と生活を考える(講義) 11 子どもの心「情」を考える: 育むものは何か?(講義) 12 子どもの心「知」を考える: 育むもの何か?(講義) 13 子どもの心「意」を考える: 育むものは何か?(講義) 14 保育者の環境づくりや援助を考える(講義) 15 授業まとめ「表現」を振り返る・試験(講義) 				
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>随時、授業内で資料を配布する。 (必ずファイリングすることをお勧めします)</p> <p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」参考 『表現原論』大場牧夫著</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験 参加態度 課題への取り組み 提出物 以上を総合評価する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 表現Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 鈴木恵利子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部2年・二部2年		必修・選択 選 択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>表現活動での基礎的な学習を基にして、幼児の表現活動に必要な教材研究、材料体験、表現活動のねらい、表現技法の工夫など実技を通して習得し、更に幼児の保育に適切な指導方法などを研究する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>描き造るために必要な絵画や工作、彫塑などに関する知識や技能を習得する。</p>				
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 描画表現・描画材の種類と特質(クレヨン、クレパスの造形あそび) 2 描画表現・絵の具素材の特質(絵の具あそび) 3 教材研究①スタンピング 4 ②デカルコマニー 5 ③糸を使って 6 ④はじき絵 7 ⑤スクラッチ 8 ⑥クレパスあそび 9 ⑦マーブリング 10 お話づくり(日々の遊びから皆でイメージを広げる) 11 お話づくり(各自のイメージを共有し、話をまとめる) 12 お話作りから、絵本作りまで(製本) 13 教材研究をもとに、授業指導案を作成する。 14 指導案に基づき、模擬授業を行う 15 まとめ・提出 				
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>授業時に随時紹介する。 「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>毎回の授業の取り組み方</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 乳児保育 I		授業の種類 演 習		授業担当者 柳田 葉子	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部1年 二部2年		必修・選択 選 択	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 乳児期は、人間が発達していくためにもっとも基本となる時期である。保育士は、より良い保育を実践していくために、乳児期の発達や成長、そして一人ひとりの乳児を大切に育てるために、生活とあそび・成長発達を理解する。</p>					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕 DVDを視聴し、赤ちゃんの発達を学び、ベビー人形に触れて抱き方やおんぶの仕方、オムツの当て方などを体験する。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業についてのオリエンテーション 2 DVD「生命の始まり」小さな命の始まり 3 乳児保育の目的・赤ちゃんが育つ場所 4 新生児の頃 アタッチメント 5、乳児と保育者のかかわり 6、実技 赤ちゃんの抱き方・おむつ交換 7、6ヶ月頃までの赤ちゃんの様子 8、6ヶ月頃までの発達（基本的信頼感） 9 実技 6ヶ月頃の抱き方・おむつ交換 10 1歳までの発達『自律性』 11 1歳までの発達『遊び』 12 実技 赤ちゃん人形でおんぶで学ぶ 13 保護者と保育者 14 保護者と保育者(お便りづくり) 15 振り返り・テスト 16 後期授業のオリエンテーション 17 DVD視聴『世界の赤ちゃん』歩くまでの成長の記録 18 2歳児の発達 19 2歳児の発達『遊び』 20 グループワーク『絵本』 21 3歳児・4歳児・5歳児の発達 22 生活と遊びの環境 23 乳児に多い病気 24、乳児の多い事故 25 非常災害の備え 26 保育の計画『良い保育を考える』 27 『良い保育を考える』をグループごとに発表 28 赤ちゃん人形の抱き方・おむつのあて方『振り返り』 29 乳児保育の課題と 子育て支援センターを学ぶ 30 一年間のまとめ テスト 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 保育所保育指針 乳児保育(大学図書出版)</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 提出書類・作品の評価と試験 授業態度で評価する</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 乳児保育Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 柳田 葉子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部2年・二部3年	必修・選択 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>1 乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育の歴史と理論、地域・家庭の生活や子育ての実態と保育所の果たす役割を学習し、広い視野から乳児保育を捉える。</p> <p>2 乳児保育の方法・形態、記録と指導計画、指導案の立案、具体的事例の検討などを通じ、乳児保育における実践のあり方をより深く学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>乳児保育の意義と保育所の果たす役割を正しく認識させる。また、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚させ、乳児理解にとどまらず家庭、地域との連携を取りながら実践する力の萌芽をも期待する。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳児の発達と保育 2 乳児保育の育つ場所 3 乳児保育の計画・記録・評価 計画、記録、評価の関係、保育の記録の意味 4 0歳児の指導計画 5 1歳児の指導計画 6 2歳児の指導計画 7 保育形態と環境構成 保育形態と環境構成の実際 8 乳児保育児の生活と遊び 9 育ちが気になる 気になるとはどういうことか 10 育ちが気になる乳児へのかかわり方 11 保育における連携 12 乳児保育と子育て支援の実際 13 乳児保育と子育て支援の実際(ロールプレイ) 14 自由課題(グループごとに) 15 授業のまとめ・試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「乳児保育 一人が大切に育てられるために」 吉本 和子著 エーデル研究所</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>授業態度、提出物、定期試験を相互的に判断する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害児保育		授業の種類 演習		授業担当者 大場京子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 二部1年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>「障害」そのものを把握、理解し、障害児保育を構築していく。 障害を福祉、医療、発達の視点から学び、個々の子どもの成長を促すコミュニケーションの方法、関わり方、障害児保育の制度と変遷などを学び、障害児保育を理解、実践できる、基礎的な知識を身につける。</p> <p>障害を福祉の視点から把握し、障害そのものを理解する。 障害のある子ども一人ひとりを大切に、その成長を促す視点を知る 仲間集団の中で触れ合いながら成長するために必要な保育の知識、見方、対応について、視覚教材、事例を参考に障害の実態に触れながら、自ら考え、深く理解し、学んでいく。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション 障害とは 2 障害の理解 3 子どもの育ち 子どもはどのような存在か 4 子どもと集団 5 知的障害の理解 DVD視聴 6 知的障害児の保育 7 自閉症を知る 8 自閉症の理解 事例を用いて DVD視聴 9 自閉症児の保育 10 障害児保育と問題 11 障害児の受け入れ 12 障害幼児の受け入れ 健常児の保護者の理解 13 障害児の受け入れ 保育事例を使って 14 障害児の受け入れ 保育者の理解 15 前期授業振り返り 試験 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 障害児保育テキスト 教育出版</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 課題採点、期末試験採点、授業態度を合算して単位認定される。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害児保育		授業の種類 演習	授業担当者 大場 京子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 二部2年	必修・選択 必修
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>「障害」そのものを把握、理解し、障害児保育を構築していく。 障害を福祉、医療、発達の視点から学び、個々の子どもの成長を促すコミュニケーションの方法、関わり方、保育の方法を学び、障害児保育を理解、実践できる、知識を身につける。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>障害のある子ども一人ひとりを大切に、その成長を促す視点を知る。 仲間集団の中で触れ合いながら成長するために必要な保育の知識、見方、対応について、視覚教材、事例を参考に障害の実態に触れながら、自ら考え、深く理解し、課題を作成し学んでいく。 それぞれの障害の実際と特徴を理解し、それを踏まえた保育実践ができる方法を学ぶ。</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期の復習 事例課題のまとめ 2 子育て支援 家庭支援 3 子育て支援 関係機関 4 関係機関との連携 5 就学と特別支援教育 6 それぞれの障害の理解 視覚障害 7 それぞれの障害の理解 視覚障害 援助事例を使って 8 聴覚障害の理解 DVD「聴覚障害児の保育訓練」 9 肢体不自由児の理解 DVD「特別支援学校における子どもの様子」 10 視覚支援 構造化 11 視覚支援 環境を整える 12 障害児の保育 支援計画 13 支援計画 事例に基づく支援の方法 14 ケース検討と総合的理解 15 後期の振り返り 試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 障害児保育テキスト 教育出版		〔単位認定の方法及び基準〕 課題採点、期末試験採点、授業態度を合算して単位認定される。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害児保育	授業の種類 演習	授業担当者 土屋 陽美
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部1年
必修・選択 必修		
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自らが障がいをもどのように捉えているか、自己の内面を見つめ、障がいの概念を構築する。 2 障がい児保育を支える理念について学び、障がい児及びその保育について理解を深める。 3 さまざまな障がいのある子どもの保育の実際と個別支援、他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育について実践できる力を育む。 4 障がいのある子どもの養育者への支援や関係機関との連携について理解する。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>障がいについて、自分がどのような思考を持っているかに気づき、障がいのある子どもを保育するために必要な思考を獲得できるようにする。ひとり一人の障がいに合わせた保育ができるように、事例を使い、グループディスカッションやペアミーティングによって子どもの見方について討議を重ね、実践力を身に付けられるようにしていく。視聴覚教材を用いて、あらゆる障がい像への理解を深め、障がい児への具体的な対応ができるように授業を進めていく。</p>		
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障がいとは何か 2 障がいのある子どもの保育 3 障がい児保育の形態 4 障がいのある子どもと保育者 5 障がいのある子どもを知る手立て 6 知的障がいの子どもの特性 7 知的障がいの子どもの支援と関わり方 8 事例、VTRを通して知的障がいの子どもの理解する 9 ダウン症の子どもの特性 10 ダウン症の子どもの支援と関わり方 11 肢体不自由(脳性麻痺)の子どもの特性 12 肢体不自由(脳性麻痺)の子どもの支援と関わり方 13 視覚障がいの子どもの特性と理解 14 聴覚障がいの子どもの特性と理解 15 言語障がいの子どもの特性と理解 16 発達障がいとは 17 自閉スペクトラム症の子どもの特性 18 自閉スペクトラム症の子どもの支援と関わり方 19 事例、疑似体験を通して自閉スペクトラム症の子どもの理解する 20 注意欠如多動症の子どもの特性 21 注意欠如多動症の子どもの支援と関わり方 22 学習症の子どもの特性 23 学習症の子どもの支援と関わり方 24 障がいのある子どもの養育者を理解する 25 障がいのある子どもの養育者との連携 26 関係機関との連携 27 小学校への接続 28 第四の発達障がい(児童虐待と発達障がい) 29 障がいのある子どもの遊びを通じた支援 30 障がいのある子どもの保育・支援のまとめ 試験 		
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> 幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト 教育出版	<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> 期末試験、小レポート、授業態度を総合して判断する。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会的養護内容	授業の種類 演 習	授業担当者 密城 吉夫	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部2年・二部2年	必修・選択 必 修
〔 授業の目的・ねらい 〕 1 社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景などを理解する。 2 社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割について理解する。 3 児童福祉施設などにおける養護の実際を理解する。			
〔 授業全体の内容の概要 〕 1 社会的養護を必要とする要保護児童(者)についての法的措置やこれに関わる職員の実際を理解する。 2 居住型施設や通所型施設における保育士の役割について、現状の課題を例にあげながら考察する。 3 日本の社会福祉の成り立ちや外国の社会福祉の歴史にも触れながら、制度としての社会的養護の必要性を考える。			
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕 コマ数 1 オリエンテーション、授業内容の説明、措置、児童相談所の現場 2 措置後の事例 3 社会保険 4 公的扶助 社会手当 5 児童養護施設を卒園した児童の現状 6 社会保障と養護内容の関係 7 少子化社会における社会の変化と対応 8 児童手当の変遷と父子家庭 9 児童自立支援施設の現状 10 養護における先駆的な役割を果たした人物を振り返る 11 社会福祉の法体系 12 自閉症児トアスペルガー症候群の対応 13 LD(学習障害)とADHD(注意欠如多動性障害)への対応 14 授業のまとめ 15 振り返り、試験			
〔使用テキスト・参考文献〕 テキストは使用しない。 以下に参考文献を記す。各自参考の事。 保育者のための社会福祉 小林 育子〔著〕 必要に応じて資料を配布。 資料用のファイルを各自で持参。		〔単位認定の方法及び基準〕 参加態度、試験を総合して判断する。 試験については、60点以上を合格点とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育相談支援		授業の種類 演習		授業担当者 森谷 恭子／原 麻美子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部2年・二部3年		必修・選択 必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>保育相談支援の意義や基本について学び、保育士の専門性を生かした支援とは何かを考えることを目的とする。また、保育現場や児童福祉施設での支援の実際を通して、保育士として保護者を支援するために必要な知識や技術を習得する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>保育相談の意義と原則を学び、保護者の支援を行うための基礎を論じる。具体的な事例を取り入れ、応答方法、相談面接の方法など理論に基づいた実際の援助方法を体験することで、更に理解を深め、技術の習得を目指し全体構造を捉える。保護者への相談支援は、保育者の業務であり、その専門性を生かして子育て支援の役割が、特に重要なものあることを踏まえ、保育に活用され応用される相談支援の内容と方法、援助技術の習得を目的について論じる。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「保育相談支援」導入 保育と保護者支援 2 保育の専門性と保育相談支援 3 保育相談支援における保育者の倫理と展開過程 4 子育て家庭の現状 DVD「育ち育てる子育ての時間」 5 子どもの最善の利益と保育相談支援 DVD「一乳幼児揺さぶられ症候群を起こさないために」 6 保護者との信頼関係の構築 7 保護者の養育力向上 8 地域資源の活用と関係機関との連携・協力 9 保育相談支援の計画・記録・評価 10 保育所の特性を生かした保護者への支援 11 特別な支援を必要とする保護者への支援 12 問題・課題のある保護者への支援 13 保育所における保育相談支援 14 児童養護施設における保育相談支援 15 全体のまとめと試験 これからの保育に向けて 自分の強みを生かす 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>『演習-保育と保護者への支援-保育相談支援-』 小原敏郎・橋本好市・三浦主博 株式会社みらい 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 随時、必要な資料を配布する</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>授業態度、提出物、定期試験を相互的に判断する</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 児童文化		授業の種類 講義・演習・実技形式	授業担当者 加藤あゆみ
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 二部2年	必修・選択 選択
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童文化」の概念を説明できる。 ・学習内容と児童文化の社会背景を関連づけて説明できる。 ・子どもの文化にかかわる「保育者」の役割について具体的に述べることができる。 ・児童文化財の作り方や演じ方を習得し、実際の保育現場を想定した指導案が作成できる。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>「児童文化」及び「児童文化財」の教育的意義について学習する。幼児期に体験した、「児童文化財」や「遊び」、メディアや人とのかかわりなどの「生活文化環境」を振り返り、児童文化と子どもの発達に関連性を考える。また、様々な情報機器や教材を活用しながら、児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサート、素話など）の遊び方や演じ方を習得し、実際の保育現場における活用法と保育者の援助について考えていく。以上の学びを通して、保育現場で実際に活用する際の指導案が立案できるようになる。</p>			
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、児童文化とは何か 2 児童文化の歴史(世界の児童文化・日本の児童文化) 3 伝承文化を考える① 現代における子どもの生活 4 伝承文化を考える② 年中行事の意味と保育現場の年中行事 5 テレビ・インターネットと子どもの生活 6 児童文化財の種類と保育における活用法 7 児童文化演習① 絵本・紙芝居・素話 8 児童文化演習② 玩具の歴史と遊び 9 児童文化演習③ 影絵 10 パネルシアターの種類と演じ方 11 パネルシアター製作 12 パネルシアター発表会 13 児童文化財を用いた指導案の作成 14 文化の伝承と創造にかかわる保育者の役割 15 まとめと試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>使用テキスト 『ことばと表現力を育む児童文化』 川勝泰介・生駒幸子・浅岡泰央(著) 芳文書林(2013)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習課題の取り組み・成果 ・レポート・提出物 ・受講態度 ・リフレクションシートの提出 	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育相談論		授業の種類 演習	授業担当者 竹居田幸仁／竹内真悟／宮原裕美
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 二部2年・一部2年	必修・選択 必修
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>教育相談の技術は、教育現場に心理学やカウンセリング技法の考え方を取り入れる中で発展してきました。</p> <p>本演習では、カウンセリングの基礎的な技術を背景として、子どもの問題を理解するためのまなざしや、保護者の悩みに共感し、寄り添うための考え方を学びます。また、専門職として現場に立ち、子ども達と関わるためには、保育者としての自己理解が欠かせません。保育現場を取り巻く様々な問題を通して、学生一人ひとりが自分自身について理解を深め、自信を持って子どもと関われるようになることをねらいとします。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>前期は、保育現場における教育相談のあり方について、子ども理解の方法や相談のあり方、事例検討のやり方など、基本的な枠組みを学びます。後期は、子どもの示す様々な症状や問題について学び、子どもを取り巻く状況や保護者、保育者自身の問題を含めて、理解を深めます。</p>			
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期オリエンテーション:教育相談とは 2 幼稚園・保育園における相談活動:カウンセラーと保育者の違い 3 相談場面の枠組み:相談におけるリスク、枠組みの必要性 4 関係機関との連携 5 子ども理解の方法:行動観察、面接法、検査、医学的診断 6 様々なアセスメント技法1:投影法 7 様々なアセスメント技法2:知能検査 8 生育歴と家族関係の理解 9 カウンセリングの基礎と技術 10 コミュニケーションのあり方:自己開示とアサーティブな表現 11 関係がこじれるとき:感情の転移・逆転移 12 子どものSOSと相談のあり方 13 大人のSOSと相談のあり方 14 事例検討の基礎:事例検討の目的、インシデント・プロセス法 15 試験対策と試験 16 後期オリエンテーション:様々な問題と事例 17 心の問題辞典を作ろう1:分担の発表と説明 18 心の問題辞典を作ろう2:調べ学習と辞典製作 19 心の問題辞典を作ろう3:〇×クイズと発表 20 子ども理解の視点1:器質的問題、発達的問題、心理的問題の違い 21 子ども理解の視点2:自我の発達と防衛機制 22 子ども理解の視点3:発達課題と症状 23 子ども理解の視点4:ストレスとコーピング 24 子どもを取り巻く環境1:虐待について 25 子どもを取り巻く環境2:外傷体験について 26 子どもを取り巻く環境3:保護者の困り感 27 子どもを取り巻く環境4:保育者のメンタルヘルスケア 28 問題行動へのアプローチ事例 29 家族システムへのアプローチ事例 30 試験対策と試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>テキストは用いません。 資料は授業で配布します。 参考文献 子どものこころ百科 東山紘久編 創元社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①参加態度②課題提出状況③試験によって総合的に評価します。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実地研究		授業の種類 演習		授業担当者 実習指導部	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部1年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>1 子どもたちとかかわる 2 保育者と子どもたちがふれあう姿を見て学ぶ</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>取得すべき必修学科である保育所実習Ⅰ（施設実習含む）、保育所実習Ⅱの事前準備として位置付けている科目である。4月から5月まで事前指導を受け、6月から10月までの隔週1日、保育所の現場で子どもと直接関わることで、子どもを知り、保育者の仕事を知り、将来の保育者像概念の獲得を学ぶ授業である。又、園行事への参加を通じ、子どもには発達過程がある事を学ぶ。この演習を通じて、今後の必修実習をよりスムーズに、より効果的に実践できることを期待する。尚、学外で行われる行事参加も授業に含めるものとする。</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <p>1 保育実地研究の概要 2 実習生の心構え、実習の目的・意義 3 保育実地研究の目的、口語文・文語文の違いについて、身上書について 4 附属園の保育士による講義 5 身上書・出勤簿について、実習初日に行う自己紹介について 6 附属園にてオリエンテーション 7 オリエンテーションの振り返り、実習初日に向けて</p> <p>8 実習1回目：園の1日の流れを感じる ①園の生活に慣れる 9 実習1回目：園の1日の流れを感じる ②園での使用している環境や言葉を知る 10 実習1回目：園の1日の流れを感じる ③園全体の一日の流れをつかむ 11 実習2回目：園の子どもの姿を知る ①子どもの表現する姿 12 実習2回目：園の子どもの姿を知る ②子どもが発した言葉 13 実習2回目：園の子どもの姿を知る ③子どもの同士のかかわり 14 実習3回目：園の子どもたちと積極的にかかわる ①子どもに自分からどのようにかかわったのか（実態） 15 実習3回目：園の子どもたちと積極的にかかわる ②子どもにかかわる時に配慮したきっかけ（配慮点） 16 実習3回目：園の子どもたちと積極的にかかわる ③実際に子どもにかかわってみて気づいたこと（振り返り） 17 実習4回目：園での子どもの生活を知る ①登園～自由遊びの姿 18 実習4回目：園での子どもの生活を知る ②主活動の姿 19 実習4回目：園での子どもの生活を知る ③給食～午睡～降園 20 実習5回目：園の環境を知る ①保育所の特徴的な環境について 21 実習5回目：園の環境を知る ②子どもの発達に合わせた環境について 22 実習5回目：園の環境を知る ③子ども一人一人に合わせた応答的な環境 23 実習6回目：保育者の子どもとの接し方を学ぶ ①先生方の動きや姿 24 実習6回目：保育者の子どもとの接し方を学ぶ ②先生と子どものかかわり 25 実習6回目：保育者の子どもとの接し方を学ぶ ③先生の配慮点 26 園の行事を知る ①行事の意味・ねらい 27 園の行事を知る ②実施に向けての準備 28 園の行事を知る ③当日の子どもの姿 29 園の行事を知る ④先生方の援助 30 振り返り（記録をとることの意味、記録をとることを通しての気づき、振り返り）</p>					
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕		
<p>「幼稚園・保育所・認定こども園 実習パーフェクトガイド」 小櫃 智子他 わかば社</p>			<p>毎回の授業に対する取り組み 課題・提出物など総合的に評価する 試験</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習 I		授業の種類 実習	授業担当者 加藤あゆみ・岸本圭子・ 蠣崎尚美・武藤篤訓
授業の回数 22日間	時間数（単位数） 180時間(4単位)	配当学年 1年次	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>1、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所や児童福祉施設等において観察・参加実習を行う。 ・保育所での実習を通じて、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。 ・児童福祉施設等での実習を通じて、施設保育士としての確かな知識を修得する。他職員との連携や生活環境の整備について実践を通して学ぶ。 <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 以下の内容について、保育所、児童福祉施設等でそれぞれおよそ11日間の実習を行う。 教員が 訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所、施設の生活と一日の流れ (2) 保育所、施設の役割と機能 2. 利用者児の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 利用者児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 保育内容、養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 利用者児の心身状態に応じた対応 (3) 利用者児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士と役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「保育の基本用語」長島和代編 わかば社 「施設実習ガイド」田中和則監修 加藤洋子・一瀬早百合・ 飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房</p> <p>参考書 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習 I		授業の種類 実習	授業担当者 加藤あゆみ・岸本圭子・ 蠣崎尚美・武藤篤訓
授業の回数 22日間	時間数（単位数） 180時間(4単位)	配当学年 2年次・3年次	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>1、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所や児童福祉施設等において観察・参加実習を行う。 ・保育所での実習を通じて、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。 ・児童福祉施設等での実習を通じて、施設保育士としての確かな知識を修得する。他職員との連携や生活環境の整備について実践を通して学ぶ。 <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 以下の内容について、保育所、児童福祉施設等でそれぞれおよそ11日間の実習を行う。 教員が 訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所、施設の生活と一日の流れ (2) 保育所、施設の役割と機能 2. 利用者児の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 利用者児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 保育内容、養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 利用者児の心身状態に応じた対応 (3) 利用者児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士と役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「保育の基本用語」長島和代編 わかば社 「施設実習ガイド」田中和則監修 加藤洋子・一瀬早百合・ 飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房</p> <p>参考書 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導 I	授業の種類 演 習	授業担当者 柳田 葉子／岸本 圭子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部1年・二部2年	必修・選択 必 修
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解するとともに、既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。また、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、現代社会に求められる保育士の養成をめざす。</p>			
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕 保育所での学外実習を実施するために必要な基本的事項について学ぶ。保育所の役割や現状についての知識を深めて保育所保育について理解するとともに、実習生として実習を行う上での留意点を認識する。</p>			
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(教科の目標、授業への取り組み)保育所実習の事前指導 2 実習とは何か・目的・形態・方法 3 保育所保育実習について保育所とは何か保育所の目的と特徴 4 保育所の一日の流れと保育内容の理解 5 子どもの発達と保育、発達を理解する 6 オリエンテーションについて 7 実習課題について 8 実習日誌の書き方(実習課題の立て方、園の概要の書き方) 9 実習日誌の書き方(一日の流れの書き方) 10 保育技術を習得 ペープサート作り 11 " 12 作品発表 13 " 巡回カルテ 14 実習テーマの作成、保育所実習を前にして 15 実習心構えの確認、御礼状の書き方、実習直前確認指導 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度、提出物、定期試験を相互的に判断する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導 I		授業の種類 演 習		授業担当者 蠣崎 尚美・武藤 篤訓	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部1年・二部3年		必修・選択 必 修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実習の目的を明確にし、効果的に実習が行われるために必要な事柄を身につけ、保育者としての資質を高める。 ・社会人として必要な素養を培い、実習を通して人として大きく成長できる素地を養う。 <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各実習の意義や目的、心得、反省点などを具体的に取り上げ、学習を進める。 ・よい保育者、社会人として必要な生活指導を行い自覚を促す。 					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業についてのオリエンテーション 2 施設実習とは…目標・心構え。実習の心構えのDVD視聴 3 施設実習の課題の持ち方 4 車椅子・白杖体験 5 感染症の予防、細菌検査説明 6 実習計画書作成 7 乳児院の実習内容と日誌の書き方 8 児童養護施設の実習内容と日誌の書き方 9 母子生活支援施設の実習内容と日誌の書き方 10 児童発達支援センターの実習内容と日誌の書き方 11 障害者支援施設の実習内容と日誌の書き方 12 実習の振り返り方、自己評価について 13 礼状の書き方、実習を終えての書き方 14 実習報告会について 15 心構えの確認、身だしなみのチェック、実習直前確認テスト 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「施設実習ガイド」 田中和則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>授業態度・レポート提出</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習Ⅱ		授業の種類 実習	授業担当者 岸本圭子・加藤あゆみ
授業の回数 11日間	時間数（単位数） 90時間(2単位)	配当学年 2年次	必修・選択 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において実習を行う。 ・保育課程に基づく指導計画を作成し、責任実習を行う。責任実習終了後は省察・評価を行い、子どもの実態を踏まえた指導計画のありかたを学ぶ。 ・保育所での実習を通じて乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。 ・保育所での実習を通じて、保育士の援助の意図や環境構成について学ぶ。 ・他職員との連携や保育所における保護者支援について実践を通して学ぶ。 <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 以下の内容について、保育所でおおよそ11日間の実習を行う。 教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所の役割と機能 2. 乳幼児の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳幼児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 保育内容、養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 乳幼児の心身状態に応じた対応 (3) 乳幼児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士と役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子　わかば社</p> <p>参考書 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習Ⅱ		授業の種類 実習	授業担当者 柳田葉子・加藤あゆみ
授業の回数 11日間	時間数（単位数） 90時間(2単位)	配当学年 3年次	必修・選択 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において実習を行う。 ・保育課程に基づく指導計画を作成し、責任実習を行う。責任実習終了後は省察・評価を行い、子どもの実態を踏まえた指導計画のありかたを学ぶ。 ・保育所での実習を通じて乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。 ・保育所での実習を通じて、保育士の援助の意図や環境構成について学ぶ。 ・他職員との連携や保育所における保護者支援について実践を通して学ぶ。 <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 以下の内容について、保育所でおおよそ11日間の実習を行う。 教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所の役割と機能 2. 乳幼児の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳幼児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 保育内容、養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 乳幼児の心身状態に応じた対応 (3) 乳幼児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士と役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子　わかば社</p> <p>参考書 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 柳田 葉子・岸本 圭子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部2年・二部3年	必修・選択 選 択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>保育所における実習。保育実習Ⅰにおいて学んだことを基礎として、実際に主体的に保育所の保育を実践する。保育士の責務について理解を深め、必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態に触れて、子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解力、判断力や支援能力、カウンセリング力を養う。子どもが抱えている子ども自身や家庭の課題を理解し、対応方法を学ぶ。子どもの最善の利益と保育士の職業倫理について学ぶ。指導保育士の助言の下、自ら指導計画を立案、実践する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>保育所保育実習に向け、実習の目的を明らかにし、目標、課題を持って取り組めるように準備する。保育所の役割、保育士の仕事等を知り、多様な保育ニーズに対応できる保育者としての心構えが持てるように学習を進める。又、子どもと共に生活し遊ぶ中で、子どもの心を理解し、関わり方、援助の仕方を知ることが出来るように、保育観察のポイント・記録のとり方を学ぶ。実習を振り返り今後の自己課題を認識していく。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 実習課題について(保育実習1を振り返って) 2 実習課題について(保育実習1を振り返って) 3 実習Ⅱについて(教科の目標、授業への取り組み) 4 日誌の書き方(気づきの確認) 5 日誌の書き方(気づきの確認) 6 日誌の書き方(考察について) 7 日誌の書き方(考察について) 8 オリエンテーションについて 9 指導案について 10 立案、主活動について 11 〃 12 〃 13 技術の習得(ペープサート作り) 14 〃 15 実習直前の心構えについて。御礼状の書き方の確認、実習直前確認指導 			
〔使用テキスト・参考文献〕 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 保育所保育指針		〔単位認定の方法及び基準〕 授業態度、提出物	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 蠣崎 尚美	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年 一部2年・二部3年		必修・選択 選択	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>1、保育実習Ⅰや既習教科で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅲでの実践に活かすことができる。</p> <p>2、保育実習の体験を整理し、総括と自己評価を通して、以後の学習課題を明確にすることができる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>・児童福祉施設等(保育所以外)において円滑な充実した実習を行うために、保育について総合的に学びながら、事前準備として必要な知識・技術・態度の修得を図り、事後の実習体験の振り返り・整理反省により保育実践力を培うことをめざす。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <p>1 保育実習Ⅲの目的・意義を理解する。</p> <p>2 保育活動の研究① 絵本の読み聞かせ 0・1・2歳児編 映像から学ぶ</p> <p>3 保育活動の研究② 絵本の読み聞かせ 3・4・5歳児編 映像から学ぶ</p> <p>4 保育活動の研究② 発達につまづきがある子どもの療育について 映像から学ぶ</p> <p>5 保育と子どもたち、保育者の現状について学ぶ 児童館の先生の話聴いて学ぶ</p> <p>6 児童福祉施設での指導案作成演習①児童館・乳児院・発達支援センター等グループ分けと書き方説明</p> <p>7 児童福祉施設での指導案作成演習②指導案作成・発表に向けてのグループ討議・準備</p> <p>8 児童福祉施設での指導案作成演習③グループ発表</p> <p>9 児童福祉施設での指導案作成演習④発表の総括</p> <p>10 実習直前指導ガイダンス 実習中の事務連絡の方法等も確認する。</p> <p>11 反省会① 種別ごとに実習内容・感想・反省・課題を発表する。</p> <p>12 反省会② 発表から担当教員が助言を行う。</p> <p>13 実習総括 これまでの学内実習すべて振り返り、今後の課題を明確にする。</p> <p>14 評価票面接① 自己評価から実習の反省を行い、今後の課題を明確にする。</p> <p>15 評価票面接② 実習施設からの評価票に基づいて、実習の反省を行い、今後の課題を明確にする。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 「社会的養護(第4版)」小池由佳・山縣文治編著 ミネルヴァ書房			[単位認定の方法及び基準] 保育実習Ⅰ(保育所・施設)を修了していること。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育実習 I		授業の種類 実習		授業担当者 鈴木恵利子・岸本圭子	
授業の回数 22日間	時間数（単位数） 180時間(4単位)	配当学年 2年次		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>1、幼稚園・認定子ども園の役割や機能を具体的に理解する。 2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5、幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>・幼稚園教諭免許取得のための実習として、幼稚園や認定子ども園において観察・参加実習を行う。 ・幼稚園での実習を通じて、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の機能および教諭の職務について実践的に学ぶ。 ・教育現場での実践を通じて、教員としての資質能力、実践的指導力を体得する責任実習を行う。</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数 以下の内容について、幼稚園および認定子ども園でそれぞれおよそ22日間の実習を行う。 教員が 訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園・認定子ども園の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園・認定子ども園の生活と一日の流れ (2) 幼稚園・認定子ども園の役割と機能 2. 園児の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 園児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 教育内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 園児の心身状態に応じた対応 (3) 園児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての教諭の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教諭の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 教諭の役割と職業倫理 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「実習の手引き」 聖ヶ丘教育福祉専門学校 編</p> <p>参考書 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育実習 I		授業の種類 実習		授業担当者 加藤あゆみ・岸本圭子	
授業の回数 22日間	時間数（単位数） 180時間(4単位)	配当学年 2年次		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>1、幼稚園・認定子ども園の役割や機能を具体的に理解する。 2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5、幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>・幼稚園教諭免許取得のための実習として、幼稚園や認定子ども園において観察・参加実習を行う。 ・幼稚園での実習を通じて、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の機能および教諭の職務について実践的に学ぶ。 ・教育現場での実践を通じて、教員としての資質能力、実践的指導力を体得する責任実習を行う。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数 以下の内容について、幼稚園および認定子ども園でそれぞれおよそ22日間の実習を行う。 教員が 訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園・認定子ども園の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園・認定子ども園の生活と一日の流れ (2) 幼稚園・認定子ども園の役割と機能 2. 園児の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 園児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 教育内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 園児の心身状態に応じた対応 (3) 園児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての教諭の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教諭の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 教諭の役割と職業倫理 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「実習の手引き」 聖ヶ丘教育福祉専門学校 編 参考書 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%</p>		

授 業 概 要

<p>授業のタイトル（科目名）</p> <p>実習指導(事前・事後)</p>	<p>授業の種類</p> <p>演習</p>	<p>授業担当者</p> <p>鈴木 恵利子・加藤 あゆみ</p>	
<p>授業の回数</p> <p>15回</p>	<p>時間数（単位数）</p> <p>30時間(1単位)</p>	<p>配当学年</p> <p>一部2年・二部2年</p>	<p>必修・選択</p> <p>必修</p>
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>教育実習は幼児教育のあり方を具体的な体験を通して学ぶべきものである。実習をより効果的に行うためには、どのように実習に望めばよいのか、実習で学ぶべきポイントは何か、などについて事前に理解し、必要な知識を持って望むことが求められる。又、実習は保育者として成長する機会でもある。つまり、本授業は、実習の重要性を深く理解するための事前授業準備である。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>1 実習の基本的理解 2 幼稚園教育の理解と保育の方法</p> <p>3 幼稚園教育の実践的課題を学ぶ 4 保育者に望まれる資質と実習生の心得</p>			
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <p>1 観察実習の事後指導(振り返りながら、教育実習に向けて目的を持つ)</p> <p>2 幼稚園の一日の流れ(VTRを見ながら幼稚園の一日の流れを把握しながらレポートに書く)</p> <p>3 実習の手引き解説(教育実習の目的・ねらい)</p> <p>4 実習の手引き解説(実習の目的やねらいを達成するために実習生として、何を心掛けるべきか)</p> <p>5 身上書の書き方(実習をさせていただくという気持ちで記入する)</p> <p>6 オリエンテーションを受けるに当たり(実習生としての心構え)</p> <p>7 実習日誌の書き方①(「本日の実習課題」の立て方について)</p> <p>8 実習日誌の書き方②(園の概要の書き方、注意すること)</p> <p>9 実習日誌の書き方③(「一日の流れ」…子どもの活動・保育者の援助の流れについて)</p> <p>10 実習日誌の書き方④(「一日の流れ」…気づきや考察の考え方)</p> <p>11 指導案の作成①(部分実習と責任実習の違い、内容の考え方)</p> <p>12 指導案の作成②(ねらいや環境構成の考え方)</p> <p>13 指導案の作成③(実際に日案の立案をする)</p> <p>14 指導案の作成④(保育技術の向上)</p> <p>15 実習直前の指導(実習生としての心構えの確認)</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習生徒の日頃のふるまい ・実習態度・授業態度・提出物・理解力 	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習	授業担当者 鈴木 恵利子
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部2年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育者として身につけたい課題（年間テーマ）を追求する。 2 好ましい人間関係を築く資質や能力・態度を育成する。 3 さまざまな見学や体験を通し、保育者としての資質向上に努める。 			
<ol style="list-style-type: none"> 1 少人数制による利点を生かし、メンバー同士のコミュニケーションを深めながら、グループ活動の中で、専門的な知識や技能を深めるための研究を行う。 2 校内での演習や活動だけでなく学外での活動を通し、協調性、積極性を身につけ、保育者としての資質を高めていく。 3 スポーツ大会「2コマ」、合宿「2コマ」、なでしこ祭「2コマ」分の出席とする。 			
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 顔合わせ。オリエンテーション。各委員を決める。 2 仲間づくり 校外学習・春のお弁当作り 3 合宿計画ほか研究テーマ・年間の流れについて 4 研究テーマについて討議 5 保育・施設実習日誌返却 評価と反省、今後の課題点 6 スポーツ大会準備 7 スポーツ大会参加（当日準備と実践） 8 スポーツ大会参加（実践と片付け） 9 保育所実習振り返り・次の実習に向けて課題点 10 研究テーマについて学習（活動計画の作成） 11 研究テーマについて学習（役割分担） 12 研究テーマについて学習（役割ごとに分かれ討議を深める） 13 研究テーマについて学習（討議を深める） 14 教育実習に向けて 意見交換 15 合宿計画企画・立案 16 合宿（計画確認と実践） 17 合宿（実践と事後評価） 18 教育実習を終えて 反省と発表 各自の課題をまとめる 19 研究テーマを視野に入れて発表に向けて討議 20 なでしこ祭に向けて（研究テーマを視野に入れて計画） 21 なでしこ祭に向けて（テーマに合わせ、準備） 22 なでしこ祭に向けて（テーマに合わせ、準備・練習） 23 なでしこ祭への参加（当日準備と実践） 24 なでしこ祭への参加（実践と片付け） 25 なでしこ祭反省会 26 卒業アルバムページ制作 27 研究テーマまとめ（各自のまとめ） 28 研究テーマ発表 29 研究テーマ発表を受けて討議 30 振り返りとまとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>自然の工作1・2 遊びガイド 『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>・授業への取り組み方、レポート、発表、制作等で総合的に評価する。 ・60点「可」・70点「良」・80点「優」とし、単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 岸本 圭子	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部2年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>1 好ましい人間関係を築くため、人間としてまた保育者としての立居振る舞いを身に付ける。 2 年間テーマにそって各担当者が考え、振り返りを行うことによって保育者としての資質や能力、態度を学び合う。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>1 小規模な集団の中で、人間関係を良好にするために各々の関わり方や態度、言葉遣いなど、相手を気遣うことができるようにしていく。 2 各担当考えた内容に沿って遊びや活動をしていく中で、自分の課題や仲間の良い点など学び合う。 3 活動を通して、写真や周りのつぶやきなど紙面に残る振り返りを行うことで、活動の展開や流れ、見通し、そして書くことに慣れる。</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 顔合わせ オリエンテーション 各役員決め 2 研究課題の検討・年間スケジュール決め 3 附属保育園 訪問概要決め 4 附属保育園 訪問準備 5 附属保育園 訪問 6 スポーツ大会 準備と実践 7 スポーツ大会 実践と片付け 8 附属園訪問 振り返り 9 保育所実習日誌返却 評価と反省 今後の課題点 10 合宿 概要決め 保育実践1 11 合宿 内容決め 保育実践2 12 附属幼稚園 訪問準備 13 附属幼稚園 訪問 14 附属園訪問 振り返り 保育実践3 15 合宿 詳細決め 保育実践4 16 合宿 計画確認と実践 17 合宿 実践と事後評価 18 合宿 振り返り 19 なでしこ祭企画 20 なでしこ祭製作 21 なでしこ祭見直し 22 なでしこ祭前日準備 23 なでしこ祭 当日準備と実践 24 なでしこ祭 実践と片付け 25 なでしこ祭振り返り 保育実践5 26 卒アル準備 保育実践6 27 実習体験談発表 28 発表 内容調査 保育実践7 29 発表 内容準備 30 まとめ 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>大豆生田啓友 『保育が見えるおたよりづくりガイド』（赤ちゃんとママ社 2013） 厚生労働省 『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>授業への取り組み方 発表 製作 上記により総合的に評価</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 亀田 良克	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部二年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>1 ディベートを通し、資料収集、意見の表出方法を学ぶ。卒業後の研究会等参加に向けての基礎的な技術獲得を目指す。</p> <p>2 キャリア教育を通し、保育者としての心構えや専門的資質を高める。</p> <p>3 自分史の作成をすることで、自己を客観的に観察する眼と文章力を培う。</p>					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>少人数制による活動の利点を生かし、メンバー同士の関係及びコミュニケーションを深化させるとともに、将来の進路や不安、悩み等に適切に対応していくことで、より充実した学生生活を送れるようにする。グループ活動の中で、協調性や積極性を身に付けられるよう支援し、組織の一員として求められるであろう技術や態度の習得を目指すことをその主な目的とする。スポーツ大会、合宿、文化祭への参加を各「2コマ」分の出席とする。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実践演習オリエンテーション（顔合わせ、各委員決め、年間の流れ） 2 年間予定の計画立案 3 年間テーマ決めのための話し合い 4 年間テーマに対する各担当部分決めの話し合い 5 スポーツ大会へ向けての話し合い（種目及び応援合戦内容決め） 6 保育・施設実習の評価返却（課題点の把握、達成方法の考察を行う） 7 履修カルテ清書ならびに個人面接（学生生活、家庭環境を中心に） 8 スポーツ大会参加（当日準備と実践） 9 スポーツ大会参加（実践と片付け） 10 文化祭の出展内容に関する話し合い 11 合宿場所の選定及びその周辺地域に関する学びを深める 12 合宿計画の企画・立案 13 文化祭での出展内容に関する企画・計画立案 14 体力作りを目的とする室内運動の実践 15 合宿参加（計画確認と実践） 16 合宿参加（実践と事後評価） 17 教育実習へ向けての準備活動 18 履修カルテ清書ならびに個人面接（進路関連を中心に） 19 文化祭へ向けての準備（調理実習） 20 文化祭へ向けての準備（製作及び装飾） 21 文化祭へ向けての準備（当日の流れの確認及び担当者決め） 22 文化祭への参加（当日準備と実践） 23 文化祭への参加（実践と片付け） 24 文化祭の振り返り 25 年間テーマ発表会に向けての準備（資料収集） 26 年間テーマ発表会に向けての準備（資料の分析） 27 年間テーマ発表会に向けての準備（発表用資料作成） 28 年間テーマ発表会に向けての準備（リハーサル） 29 年間テーマ発表会への参加 30 年間テーマ発表会の振り返りと省察 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>寺崎昌男著「大学教育の可能性－教養教育・評価・実践－」東信堂 2002</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>・授業態度やディベートへの取り組み、課題内容により判定する。</p> <p>・80点以上“優”70点以上“良”60点以上“可”として単位を認定する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 蠣崎 尚美	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部2年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育者として身に付けたい課題を追求する。 2 集団内における自分の位置づけを把握し、人間関係を築く資質や能力、態度を育成する。 3 学生研究発表会に向かい、研究を形に残すことで努力・達成の感覚を味わう。 4 子育て支援センターでクリスマス会を計画、立案、実践する。 					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>少人数による活動を通し、メンバー同士のコミュニケーションをはかり、関係を深める。実習や進路などの話や将来に対する不安や悩みにも適切に対応できるような状況を目指す。 自律的に集団が機能していくよう場を構成しながら、学内外行事への参加に向けて活動するとともに、一年間の成果を形にするための研究を進めてゆく。 スポーツ大会「2コマ」、合宿「2コマ」、なでしこ祭「2コマ」分の出席とする。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（各委員決め、年間の流れ） 2 ミーティング：研究課題の検討・年間スケジュールの構築 3 ミーティング：年間研究テーマ決め・実習および就職に向けての個人面接① 4 ミーティング：年間研究テーマについてディスカッション 5 行事：『身体表現』（スポーツ大会への参加）① 当日準備と実践 6 行事：『身体表現』（スポーツ大会への参加）② 実践と片付け 7 ミーティング：研究課題の再確認および決定・調査・年間スケジュールの概要再確認および決定 8 ミーティング：『合宿』に向けての計画立案 9 研究：課題に向けての調査（調査手順の確立） 10 研究：課題に向けての調査（研究方法の確立） 11 研究：課題に向けての調査（文書化しデータの処理を行う） 12 研究：課題に向けての調査（文書化する） 13 研究：課題に向けての調査（成果をまとめる）・実習および就職に向けての個人面接② 14 活動：『合宿』への準備（研究内容の整理） 15 活動：『合宿』への準備（研究内容の補足） 16 行事：『合宿』への参加（宿泊し親睦を深め、研究を進める）① 計画確認と実践 17 行事：『合宿』への参加（宿泊し親睦を深め、研究を進める）② 実践と事後評価 18 研究：課題に向けての調査（掲示資料の作成） 19 研究：課題に向けての調査（成果のまとめ） 20 活動：『表現』準備（『なでしこ祭』に向けて参加内容を考える）① 21 活動：『表現』準備（『なでしこ祭』に向けて参加内容をまとめる）② 22 活動：『表現』準備（『なでしこ祭』に向けて具体的な準備を行う） 23 行事：『表現』参加（『なでしこ祭』への参加）① 当日準備と実践 24 行事：『表現』参加（『なでしこ祭』への参加）② 実践と片付け 25 ミーティング：『表現』ふりかえり（『なでしこ祭』ふりかえり②）・クリスマス会内容を考える 26 活動：卒業アルバム製作（写真の整理・配置）①・クリスマス会準備① 27 活動：卒業アルバム製作（写真の整理・配置・提出）②・クリスマス会具体的な準備を行う② 28 研究：子育て支援センターでのクリスマス会開催 29 研究：全国保育士養成協議会関東ブロック学生研究発表会準備 30 研究：全国保育士養成協議会関東ブロック学生研究発表会にて研究発表及び振り返り 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>必要に応じ資料を配布。参考文献：『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>・参加態度 ・研究課題 上記により総合的に評価を行う。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 小林 根	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部2年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生が自らテーマを決め、年間を通して、テーマに沿った学習を深め、展示、発表の機会を持つ。 2 就職や進路を意識しながら、保育士になるための心構えや専門的資質を高める。 3 演習や合宿を通し、普段の授業では学ぶことのできない「体験の機会」とする。 					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>少人数制による活動の利点を生かし、メンバー同士の関係及びコミュニケーションを深くし、進路を含む将来的な話や不安や悩みといったことにも適切に対応できる状況を目指す。 グループ活動の中で、協調性や役割分担、積極性を身に付けられるようにし、保育者としてのベースとなる技術や態度に関しての習得を目指すこととする。スポーツ大会、合宿、文化祭への参加を各「2コマ」分の出席とする。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習とは。名簿確認。係り分担選出。人物アンケート。 2 施設実習について。スポーツ大会に向けての話し合い。 3 自己が実習をする施設内容を調べる。スポーツ大会。合宿について。 4 スポーツ大会参加。（身体能力増強を目指す） 当日準備と実践 5 スポーツ大会参加。（身体能力増強を目指す） 実践と片付け 6 自己が実習をする施設内容を調べる。車椅子体験。 7 自己が実習をする施設内容を調べる。白杖アイマスク体験。 8 自己が調べた実習施設内容の発表。冊子制作。 9 一年次保育実習のノートの返却と面接。 10 実習を終えて。 11 実習前との比較・感想・発表。 12 合宿計画。（一部教育実習に向けて、責任実習立案） 13 なでしこ祭話し合い。（一部教育実習冊子作成） 14 合宿。面接（将来について、推薦文）。 15 合宿。課外活動。 16 教育実習の感想。後期総合演習に向けて。 17 なでしこ祭に向けて、展示・発表のテーマ内容を検討する 18 なでしこ祭に向けて、展示・発表の役割分担を決める 19 なでしこ祭に向けて、展示・発表の作製 前半 20 なでしこ祭に向けて、展示・発表の作製 後半 21 なでしこ祭に向けて、展示・発表の必要物品の確認と購入 22 なでしこ祭に向けて、展示・発表のリハーサル 23 なでしこ祭（当日） ステージ発表ないし展示。 当日準備と実践 24 なでしこ祭（当日） ステージ発表ないし展示。 実践と片付け 25 反省会 26 卒業アルバムページ制作。 27 施設実習返却 28 評価を基に個人面談。 29 各自のテーマ、レポートのまとめ。 30 教育実習返却、評価を基に個人面談。 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 必要に応じて資料を配布する。 厚生労働省 『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ・授業態度や演習への取り組み、課題内容により判定する。 ・80点以上“優”70点以上“良”60点以上“可”として単位を認定する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 密城 吉夫	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 二部 3年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生自らが課題を設定し、課題に取り組む力を養う。 2 小規模な集団の中で、学生間の連帯感を深め、助け合う姿勢を身につける。 3 行事（スポーツ大会、合宿、なでしこ祭）については、各担当者が中心となり、自主性を養う。 					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生が一人1つずつ手作りの人形を制作。その後、全員で台本を作成する。最終的には、手作りの人形を用いて台本に基づいた人形劇を実践する。 2 行事（スポーツ大会、合宿、なでしこ祭）については、スポーツ大会「2コマ」、合宿「2コマ」、なでしこ祭「2コマ」分の出席とする。 					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 手作り人形の制作ビデオを視聴 3 スポーツ大会での役割分担 4 スポーツ大会 当日準備と実践 5 スポーツ大会 実践と片付け 6 年間計画の確認と立案 7 手作り人形制作に関する資材の購入を検討 購入時の役割分担 8 人形劇のテーマと‘あらすじ’を検討 9 制作の資材、保管方法の確認 10 制作の手順と設計図の作成 11 首くだ、腕くだの作成 12 胴体の作成 13 組み立て 14 合宿に向けての立案 役割分担 計画表作成 15 合宿1日目 計画確認と実践 16 合宿2日目 実践と事後評価 17 合宿を振り返っての反省、今後の課題を確認 18 背景の作成 19 音響効果と演出の確認 20 台本の確認 21 発表に向けてのリハーサル 22 なでしこ祭1日目 当日準備と実践 23 なでしこ祭2日目 実践と片付け 24 発表時のビデオ視聴 25 発表時の問題点を話し合う 26 発表時の問題点をレポートにまとめる 27 発表時の問題点を各自発表する 28 年間活動の記録、写真を持ち寄り、活動全体の反省を行う 29 卒業アルバム製作 30 まとめ 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 必要に応じて資料を配布する。 以下に参考文献を記す。各自参考の事。 『かんたん人形劇 雑貨屋劇場がやってきた』 すずき出版 黒須和清／著 『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 学習に取り組む姿勢 を観点の基準とし、総合的に評価を行う。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 齊藤 裕美	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 一部2年		必修・選択 必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 良好な人間関係およびコミュニケーション能力を身に付ける。 2 保育者に必要な「自ら考えて行動する力」を養う。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究テーマを設定しその課題に取り組み、知識と経験を積み重ねる。 2 配布資料や媒体作成を通して、表現力を磨く。 3 「食と栄養」の理解と知識を深め、実践的能力を高める。 <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習オリエンテーション(役員決め、研究テーマ設定について) 2 研究テーマの検討・計画 3 研究計画、スポーツ大会準備 4 スポーツ大会参加 当日準備と実践 5 スポーツ大会参加 実践と片付け 6 乳児の食事について 7 幼児の食事について 8 合宿計画・立案 9 幼児の間食について 10 食物アレルギーの基礎知識 11 食物アレルギー対応(食品表示の見方) 12 文献調査(レシピ検索) 13 調理実習(食物アレルギー対応の基礎) 14 調理実習(食物アレルギー対応の応用) 15 合宿参加 計画確認と実践 16 合宿参加 実践と事後評価 17 課題発表(卵アレルギー対応) 18 課題発表(小麦アレルギー対応) 19 課題発表(乳アレルギー対応) 20 なでしこ祭の試作(調理実習) 21 なでしこ祭の装飾計画 22 なでしこ祭の調理計画 22 なでしこ祭の打ち合わせ・準備 24 なでしこ祭 当日準備と実践 25 なでしこ祭 実践と片付け 26 なでしこ祭・研究課題の振り返り・まとめ 27 報告会・資料作成 28 報告会・パワーポイント作成 29 報告会・発表練習 30 1年の振り返り・クリスマス会 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>必要に応じて資料配布 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型 認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>参加態度、課題 上記により総合的に評価</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 竹内 真悟	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部2年		必修・選択 必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 質問紙作成・調査・発表を通じて、仮説構築・仮説検証のプロセスと、論理的思考能力を養う。 2 グループ討議を通して批判的視点を養う。 3 様々な行事における活動を通して、協調性を身に着ける。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>あらゆる専門職にとって、想像力を働かせ、その結果を客観的に吟味し、文章にまとめる技術は必要なものである。本総合演習では、グループ討議、調査研究を通して、その技術を身に着けることを期待する。スポーツ大会「2コマ」、合宿「2コマ」、なでしこ祭「2コマ」分の出席とする。</p> <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介・委員決め 2 年間計画の立案 3 スポーツ大会準備 4 ゼミ合宿場所決定 5 スポーツ大会参加（当日準備と実践） 6 スポーツ大会参加（実践と片付け） 7 研究課題決定 8 先行研究調査 9 先行研究発表 10 実習振り返り 11 調査計画 12 質問紙作成 13 質問紙配布準備 14 質問紙回収 15 質問紙集計 16 質問紙分析 17 合宿（計画確認と実践） 18 合宿（実践と事後評価） 19 教育実習振り返り 20 調査ディスカッション 21 調査まとめ 22 なでしこ祭出店計画 23 なでしこ祭出店準備 24 研究発表準備 25 なでしこ祭参加（当日準備と実践） 26 なでしこ祭参加（実践と片付け） 27 なでしこ祭・調査報告反省 28 研究課題のまとめ 29 卒業アルバム作成 30 まとめ 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>参加態度 レポート提出 によって評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習	授業の種類 演 習	授業担当者 加藤あゆみ	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部2年	必修・選択 必 修
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <p>1 保育者として身に付けたい課題（年間研究テーマ）を追求する。 2 好ましい人間関係を築く資質や能力・態度を育成する。 3 卒業年次に履修する総合演習（通年）は、10人程度の少人数クラスを編成し、担当教師を中心として専門知識や技術をより一層深めるための研究を進めていく。</p> <p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>1 テーマを決めて、研究内容や方法に合わせて調査及び発表を行う。 2 校内演習の外に校外合宿を通し、クラスの結束を高め、交友関係の喜びを味わう。 3 スポーツ大会「2コマ」、合宿「2コマ」、なでしこ祭「2コマ」分の出席とする。</p> <p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <p>1.役割決め、研究テーマについて 2.年間スケジュール確認、教材研究①:変身カードで自己紹介 3.教材研究②:紙コップを使ったおもちゃづくり 4.教材研究③:新聞紙を使ったおもちゃづくり 5.教材研究④:牛乳パックを使ったおもちゃづくり 6.図書室を利用する ～お気に入りの絵本・紙芝居選び～ 7.スポーツ大会 当日準備と実践 8.スポーツ大会 実践と片付け 9.責任実習に向けて ～絵本・紙芝居読み聞かせ～ 10.実習報告、オススメ絵本POP製作 11.季節の壁面製作を考える 12.子どもの作品を活かした保育環境作り 13.パワーポイントの使い方を学ぶ 14.なでしこ祭、グットトイレサーチに向けて 15.パワーポイントの使い方を学ぶ 16.ゼミ合宿(または課外活動) 計画確認と実践 17.ゼミ合宿(または課外活動) 実践と事後評価 18.ブラックライブパネルシアターの演じ方 19.子ども向け創作ダンスの検討 20.なでしこ祭準備 21.なでしこ祭 当日準備と実践 22.なでしこ祭 実践と片付け 23.なでしこ祭振り返り、グット・トイレサーチ レポート準備 24.施設実習報告会(2B全員参加) 25.グット・トイレサーチ調査報告会 26.研究発表とは何か 27.プレゼン資料作成 28.プレゼンリハーサル 29.教育実践演習にて卒業研究発表 30.学生研究発表会(聴講)</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 必要に応じ資料を配布。 厚生労働省 『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ・参加態度 ・研究課題 上記により総合的に評価を行う。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 柳田 葉子	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年・時期 二部3年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小規模なグループにおける自主性および主体性を養い、能動的な役割行動を身につける。 2. 集団内における自分の位置づけを把握し、自分なりの在り方や振る舞いを発見する。 3. 自律的に設定された研究目標に向かい、それを形に残すことで努力・達成の感覚を味わう。 					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>小集団としてのまとまり(担当教員も含め)が生まれるよう簡単なレクリエーションを実施する。続き、それぞれが集団における役割を取得できるようミーティングを行ってゆく。教員の関わりはあえて最小限にとどめ、自律的に集団が機能していくよう場を構成しながら、学内行事への参加(『身体表現』『合宿』『表現』などへの出席をそれぞれ授業回数として計測・加算する)に向けて活動するとともに、一年間の成果を形にするための研究を進めてゆく。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:プロフィール・役割分担決定 2 研究課題の検討・年間スケジュール検討 3 活動・面接:『身体表現』に向けての準備・練習 4 施設実習へ向けての準備(車椅子・白杖体験) 5 行事:『身体表現』(スポーツ大会への参加) 当日準備と実践 6 行事:『身体表現』(スポーツ大会への参加) 実践と片付け 7 研究課題の再確認および決定・調査・年間スケジュールの概要再確認および決定 8 ミーティング:『合宿』に向けての計画立案 9 研究:課題に向けての調査(調査手順の確立) 10 研究:課題に向けての調査(研究方法の確立) 11 研究:課題に向けての調査(文書化) 12 研究:課題に向けての調査(データの処理) 13 研究:課題に向けての調査(成果をまとめる) 14 活動:『合宿』への準備(研究内容の整理) 15 活動:『合宿』への準備(研究内容の補足) 16 行事:『合宿』への参加(宿泊し親睦を深め、研究を進める) 計画確認と実践 17 行事:『合宿』への参加(宿泊し親睦を深め、研究を進める) 実践と事後評価 18 研究:課題に向けての調査(成果のまとめ) 19 研究:課題に向けての調査(掲示資料の作成) 20 活動:『表現』準備(『なでしこ祭』に向けて参加内容を考える) 21 活動:『表現』準備(『なでしこ祭』に向けて参加内容をまとめる) 22 活動:『表現』準備(『なでしこ祭』に向けて具体的な準備を行う) 23 行事:『表現』参加(『なでしこ祭』への参加) 当日準備と実践 24 行事:『表現』参加(『なでしこ祭』への参加) 実践と片付け 25 ミーティング:『表現』(『なでしこ祭』)ふりかえり 26 活動:卒業アルバム製作(写真の整理・配置) 27 活動:卒業アルバム製作(写真の整理・配置・提出) 28 研究:まとめ(研究内容をふりかえり、冊子を作る) 29 研究:まとめ(研究内容のふりかえり、冊子作成・配布) 30 ミーティング:一年間の保育実践演習成果の確認・ふりかえり 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 必要に応じ資料を配布 厚生労働省 『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型 認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ・参加態度 ・研究課題 上記により総合的に評価を行う</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 羽田 顕佑	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年・時期 一部2年		必修・選択 必修	
<p>〔 授業の目的・ねらい 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者として身に付けたい課題(年間研究テーマ)を追求する。 2. 好ましい人間関係を築く資質や能力・態度を育成する。 3. 保育に関する専門知識や技術をより深め、研究に取り組む姿勢を養う。 					
<p>〔 授業全体の内容の概要 〕</p> <p>学生の関心に応じて「造形物制作」「舞台発表」のいずれかを全体の協同的活動として設定し、研究テーマの追求と照応して具体的内容をメンバーで協議して決定する。個々の役割を果たすと共に仲間と協力しながら課題達成・成果発表に向かうことで、自己の研鑽および協同的素養の獲得を目指す。また、課題図書①の輪読・まとめを併行して進めることで理論と実践相互の向上をはかり、個々の学びをより高次のものとする。</p> <p>なお、スポーツ大会、合宿、なでしこ祭をそれぞれ2コマ分として扱う。</p>					
<p>〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、自己紹介、係分担、研究テーマ検討 2 年間計画設定／研究テーマ決定／活動内容構築① 3 活動内容構築②／合宿内容検討① 4 スポーツ大会の準備／合宿内容検討② 5 1年次実習の評価返却・2年次実習に向けての面談 6 スポーツ大会への参加 当日準備と実践 7 スポーツ大会への参加 実践と片付け 8 課題図書①の紹介・輪読 9 課題図書①輪読／活動必要資材確認 10 必要資材調達 11 制作物および発表の準備①企画書作成をもとに内容を具体的にする 12 制作物および発表の準備② 13 課題図書①各自の読み込み箇所まとめ発表／合宿内容の確認 14 合宿 1日目 計画確認と実践 15 合宿 2日目 実践と事後評価 16 制作物および発表の準備④試作・練習／役割の確認 17 制作物および発表の準備⑤資材調達、基礎作り 18 制作物および発表の準備⑥本制作 19 制作物および発表の準備⑥実験、課題検討 20 制作物および発表の準備⑦手直し、仕上げ 21 なでしこ祭への参加 1日目 当日準備と実践 22 なでしこ祭への参加 2日目 実践と片付け 23 なでしこ祭の振り返り／課題図書②検討 24 施設実習報告会(一部1年生向け) 25 活動報告の準備①発表形式および役割決定 26 活動報告の準備②報告内容まとめ 27 活動報告の準備③発表練習 28 卒業アルバム製作(写真の整理・配置・提出) 29 課題図書②まとめ発表 30 一年間の保育実践演習成果の確認・振り返り 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>以下を課題図書として設定する予定です。</p> <p>『ありのままを生きる－障害と子どもの世界』 浜田寿美男、岩波書店、1970</p> <p>『保育所保育指針』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加態度 ・研究課題 ・各係活動の取り組み <p>上記により総合的に評価を行う</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習	授業担当者 渡辺 潤一
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部2年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育者として身につけたい課題（年間研究テーマ）を追求する。 2 好ましい人間関係を築く資質や能力・態度を育成する。 3 なんでも話し合えるホームルームとしての機能を充実させる。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 卒業年次に履修する総合演習（通年）は、10人程度の少人数クラスを編成し、担当教師を中心として専門知識や技術をより一層深めるための研究を進めていく。 2 レクリエーション指導法に関する専門的技術を習得し保育現場で応用する。 3 スポーツ大会「2コマ」、合宿「2コマ」、なでしこ祭「2コマ」分の出席とする。 <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習授業オリエンテーション 2 おりがみ①（正方基本形からつくられる伝承作品の習得） 3 おりがみ②（風船基本形からつくられる伝承作品の習得） 4 スポーツ大会参加（当日準備と実践） 5 スポーツ大会参加（実践と片付け） 6 手あそび、手合わせの指導法について 7 保育所実習の評価について（含：面接） 8 おりがみ③（5月の作品） 9 介護福祉領域におけるレクリエーション活動の視点と実際 10 わらべあそびの紹介とその指導法①について 11 おりがみ④（6月の作品） 12 合宿計画①（立案の立て方について学ぶ） 13 合宿計画②（具体的なプログラムの話し合い） 14 合宿（計画確認と実践） 15 合宿（実践と事後評価） 16 おりがみ⑤（おりがみあそび） 17 おりがみ⑥（鶴の基本形、にそうぶねの基本形から作られる伝承作品の習得） 18 おりがみ⑦（ざぶとんの基本形からつくられる伝承作品の習得） 19 グループレク指導法について 20 施設実習の事後指導及び評価について 21 なでしこ祭事前準備①（パンフレット作成のための話し合い） 22 なでしこ祭事前準備②（創作活動） 23 なでしこ祭参加（当日準備と実践） 24 なでしこ祭参加（実践と片付け） 25 教育実習の事後指導及び評価 26 卒業課題についての説明 27 フォークダンス及び幼児向けのレクリエーション指導法について 28 おりがみ⑧（よく飛ぶかみヒコーキの折り方について） 29 おりがみ⑨（12ヶ月のおりがみについてのまとめ） 30 卒業課題提出及び製本作業 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 その他、必要に応じて資料を配布する。</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>日頃の授業態度及び、課題により評価する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 黒石 憲洋	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間(2単位)	配当学年 二部3年		必修・選択 必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特定の研究テーマを設定してアカデミックに追究するプロセスを修得する。 2 グループで共通の目標を立てて協同的に課題解決を図る技能を修得する。 3 研究の成果を他者と共有できる形にまとめて公表するプレゼンテーション技能を修得する。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育者としての実践に役に立つ研究テーマを設定して自主的に追求する。 2 グループとして課題に取り組み、役割分担や協同を通して問題を解決する。 3 スポーツ大会や合宿、文化祭などに積極的に関与して行事の運営について体験する。 <p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:顔合わせ、科目の目的・ねらいの確認、役割分担の決定 2 研究テーマについての検討、研究課題の策定 3 課題の分析、年間計画の策定 4 スポーツ大会への参加① 当日準備と実践 5 スポーツ大会への参加② 実践と片付け 6 研究方法の検討 7 研究方法の決定 8 必要資料の検討、資料の収集開始 9 保育実習I 評価を踏まえての個人指導 10 収集した資料の整理、追加する資料の検討 11 施設実習の振り返り 12 合宿計画の策定 13 合宿計画詳細の決定・共有 14 収集した資料の再整理 15 資料の分析 16 資料のまとめ 17 合宿参加① 計画確認と実践 18 合宿参加② 実践と事後評価 19 合宿の成果まとめ 20 文化祭企画の検討 21 文化祭企画の立案 22 文化祭企画の事前準備① 具体的計画の策定 23 文化祭企画の事前準備② リハーサル 24 文化祭企画の事前準備③ 具体的計画の修正 25 文化祭企画の事前準備④ 装飾製作 26 保育実習II 評価を踏まえての個人指導 27 文化祭参加① 当日準備と実践 28 文化祭参加② 実践と片付け 29 文化祭の成果まとめ、プレゼンテーション用資料作成 30 授業内プレゼンテーションの実施 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>テキストは特に使用しない。 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 その他、必要な資料については、適宜指示する。</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>グループ活動への貢献(50点)、研究の成果物(50点)の100点満点により評価をおこなう。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教職実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 加藤あゆみ／他6名	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年 一部2年・二部3年		必修・選択 必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが本授業の目標である。</p>					
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①これまでの教職課程の履修履歴を把握し、それを踏まえて現場で生かすことができる指導を行うことにより、不足している知識や技能等を補う。 ②「使命感や責任感、教育的愛情」「社会性や対人関係能力」「園児理解や集団作り」「教科・保育内容等の指導力」という4つの観点をもとに、保育者としての必要な資質を身につけていく。 ③現場で生かすことのできる知識や技能等を身につけるために、ロールプレイング、事例研究、フィールドワーク、模擬授業、グループ討論等の方法を適宜適用する。</p>					
<p>〔授業計画と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス・履修カルテ作成(教務部) 2 教育実習実習送り出し(山下) 3 就職指導:就職先希望調査、内定後の手続きなど(亀田) 4 教育実習振り返り①:グループ・ポスターづくり(実習部) 5 教育実習振り返り②:グループ・ポスター発表(実習部) 6 教養講座:年金の仕組み(外部講師) 7 軍手人形作り(鈴木・山下) 8 軍手人形発表(鈴木・山下) 9 震災と保育:命を守ることについて(蠣崎) 10 手作りおもちゃワークショップ～身近な素材で楽器をつくる～(加藤) 11 絵本の読み読みの理論と演習(森谷) 12 発達と伝承あそび、わらべうた(岸本) 13 粘土を用いた造形活動と経験的感覚(羽田) 14 簡易伴奏と弾き歌い(誠・今村) 15 園内の人間関係と自己の役割(井上) 16 パネルシアター(外部講師) 17 食育について(齊藤) 18 進路講座:生命保険実学講座(外部講師) 19 子どもの理解と支援、集団作りについて(外部講師) 20 進路講座:労働法規の基礎知識(外部講師) 21 保護者への対応の具体的演習(竹内) 22 ストレス・マネジメント(小林) 23 体育実技:球技大会運営の実際(潤一) 24 からだを使った様々な遊び(柳田) 25 研究成果発表準備①:発表資料作成(各担当教員) 26 研究成果発表準備②:リハーサル(各担当教員) 27 研究成果発表①:趣旨説明および発表実施(各担当教員) 28 研究成果発表②:発表実施および成果評価(各担当教員) 29 幼児の五感(密城) 30 授業のまとめと振り返り(教務部) 					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 その他、授業中に随時案内する。</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>参加態度及び講義での活動、提出物、提出物の内容を総合し評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育士科講座 I		授業の種類 演 習		授業担当者 和泉 禎子	
授業の回数 15回		時間数（単位数） 30時間(1単位)		配当学年 一部1年	
				必修・選択 必 修	
〔 授業の目的・ねらい 〕					
1 乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割について学ぶ。 2 保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 4 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。 5 家庭保育と集団保育(保育所・乳児院)の特徴について学び、各々の果たす役割と保育士としての役割を理解する。					
〔 授業全体の内容の概要 〕					
1 児童福祉施設における3歳未満児の保育を行うにあたって、乳児保育の概念と意義を把握する。 2 乳児保育を担当する保育士の資質と専門性とは何か、新しい保育士のあり方について考える。 3 乳児を取りまく現代の社会情勢の変化の中で、多様化する保育ニーズに対応する保育所の特性を明確にし、保育者としての職業観を養う。					
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕					
コマ数					
授業計画		各回テーマ		内容・授業方法	
1 保育士科講座 I を学ぶにあたって		授業(演習)ねらいと進め方・赤ちゃんとのふれあい体験(観察)		ねらいと授業の進め方の説明。実践例を通して、乳児の観察記録の書き方を説明する。乳児の行動を観察し、レポートにまとめる。後日、提出。	
2 乳児について		乳児理解 人間として育つ意味		視聴覚教材を通して、乳児への理解を深める。視聴後、感想文提出。人間として育つ意味を考える。	
3 生命の誕生(1)		生命の誕生の神秘性		具体的な資料・視聴覚教材をもとに、生命の誕生の神秘性を理解する。	
4 生命の誕生(2)		障害児の原因となり得る事項		具体的な資料・視聴覚教材を通して、障害児の原因となり得る事項について理解する。	
5 赤ちゃんの発達と母子関係		ゼロ歳時代の重要な意味 母子関係の重要性と心の絆の形成		ゼロ歳時代の重要な意味を考える。新生児にとっての母親の意味を理解させる。母親の養育行動は母性本能か否かについて考える。母性行動の変容。子どもとのかかわりとリズムについて理解する。	
6 養育の放棄・拒否		ネグレクト・PTSD		具体的な資料、視聴覚教材を通して考える。	
7 乳児保育とアタッチメント		アタッチメントの対象者の広がり、ゼロ歳児保育の充実の必要性		母子関係からアタッチメントのネットワークへ。複数の大人との間のアタッチメントの絆の形成。アタッチメントから考える乳児保育の実践の在り方を知る。ゼロ歳児保育の充実の必要性について考える。	
8 乳児保育とは		乳児保育の理念と役割、歴史的変遷、普及と制度		乳児保育の理念と役割。普及と制度について理解する。歴史的変遷について学ぶ。	
9 乳児保育の意義と必要性		乳児保育の意義と重要性 乳児保育への期待		乳児保育の意義と重要性について社会的背景から考える。乳児保育の果たす役割について理解する。	
10 乳児保育の特質(1)		家庭保育・保育所の保育		家庭保育、集団保育の特徴について考える。保育所の役割、現状と課題について考える。	

11 乳児保育の特質(2)	乳児院の保育 児童家庭支援センター	乳児院における保育の特徴(プラス面、マイナス面)について考える。乳児院の現状と課題について理解する。保護者支援、地域に向けた子育て支援事業の果たす役割について理解する。
12 乳児保育の特質(3)	家庭的保育事業	家庭的保育事業について理解する。
13 保育の計画及び評価	保育の計画の考え方。保育課程と指導計画の関係。指導計画の作成上、特に留意する事項。自己評価	指導計画の作成のポイント。発達段階と個別の計画作成、月案作成(0、1、2歳)、デイリープログラム作成について具体例を用いて理解させる。作成上留意すべき事項、自己評価について理解する。
14 家庭、他機関地域との連携	家庭と連絡、協力 他機関、地域社会との連携	家庭との連携の具体的方法や地域の保育センターとしての役割を理解させる。
15 今後の課題 まとめ 試験	保育士の資質と専門性 新しい保育士のあり方 まとめと試験	保育者の資質と専門性について理解する。新しい保育士のあり方について考える。 まとめと試験
[使用テキスト・参考文] 「保育所保育指針ハンドブック」(ポイント&実践サポート) 監修 大場幸夫、学研教育出版 「保育所保育指針解説書」フレーベル館 随時、資料を配付。		[単位認定の方法] 定期試験、提出物、授業態度、出席状況以上、4つの観点から総合的に評価する。

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育士科講座Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 和泉 禎子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間(1単位)	配当学年 一部2年	必修・選択 選 択
〔 授業の目的・ねらい 〕			
<p>1 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。</p> <p>2 乳児保育についての専門的な知識と基礎的な保育技術の習得を図り、実践力を養うことを目的とする。</p> <p>3 各グループごとに研究テーマを決める。進め方等の計画書を作成し、研究を進め、発表を行う。</p>			
〔 授業全体の内容の概要 〕			
<p>1 最近の学生は、兄弟・姉妹数が減少し、乳児に触れ合う機会が少ないので、赤ちゃんと遊ぶ機会を持つ。</p> <p>2 保育士として必要な知識・技術の基本や指導・援助のポイントについて具体的な保育事例や視聴覚教材を通して、より深く理解できるように、乳児の姿をイメージできるように授業(演習)を展開していく。</p> <p>3 子育ての喜びを共有していける感性豊かな意欲的な保育士を育てていきたいと考える。</p>			
〔 授業計画と各回テーマ・内容・授業方法 〕			
コマ数			
授業計画	各回テーマ	内容・授業方法	
1 保育士科講座Ⅱを学ぶにあたって	ねらいと授業の進め方、赤ちゃんとふれあい体験(乳児と遊ぶ)	ねらいと授業の進め方の説明。乳児と一緒に遊び、乳児の行動を注意深く観察する。実践例を通して実践記録の書き方の説明。実践したこと、感じたことをレポートにまとめる。後日、提出。	
2 研究	各グループごとの研究	多様な保育ニーズの中から課題を選んで、グループごとに内容や問題点を考える。テーマを決め、計画書を作成し研究に取り組む。レポートにまとめ、後日、研究発表する。	
3 乳児保育の発達と保育(1)	乳児の発達の概要 脳の発達と反射	発達の概要について具体的な資料、視聴覚教材を通して理解させる。	
4 乳児保育の発達と保育(2)	3歳未満児の発育・発達と保育(0歳児・1歳児)	3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える。3歳未満児の生活と遊びについて理解する。(視聴覚教材。資料)	
5 乳児保育の発達と保育(3)	3歳未満児の発育・発達と保育(2歳児)	3歳未満児の発育・発達について学び、3歳未満児の生活と遊びについて理解する。視聴覚教材、資料を通して理解させる。	
6 乳児の世話の実際(1)	乳児とのふれあいの基本を学ぶ、着脱の介助のあり方、着脱の自立、沐浴・清拭のしかた	だっこの仕方、おんぶの仕方を学ぶ。衣服の着せ方、脱がせ方、着替えの配慮のポイントを学ぶ。沐浴・清拭の方法を学ぶ(沐浴・清拭のポイントと注意点)。(視聴覚教材・資料)	
7 乳児の世話の実際(2)	おむつの替え方と排泄の自立、乳児の排泄への対応	おむつ換えのポイントと注意点、トイレトレーニングのポイントを学ぶ。具体的な資料、視聴覚教材を通して理解する。	
8 乳児の世話の実際(3)	授乳の仕方と準備・調乳の方法・授乳のしかた	調乳のポイントと注意点、授乳のポイントと注意点について、具体的な資料、視聴覚教材を通して理解する。	
9 乳児の世話の実際(4)	離乳食の基礎知識、離乳について、乳児栄養の特徴。歯の健康	離乳食の基礎知識について理解する。離乳のポイントと注意点、離乳食の介助のポイントと注意点について理解する。乳児栄養の特徴について理解する。歯の健康について理解する。	
10 乳児の世話の実際(5)	赤ちゃん体操・ベビーマッサージ	赤ちゃん体操のやり方と順序について理解する。スキンシップを促すベビーマッサージの仕方を学ぶ。具体的な資料と視聴覚教材を通して理解する。	
11 乳児の健康と安全(1)	子どもの健康支援・健康・観察、環境及び衛生管理並びに安全管理・外気浴・乳児期からの食育	健康観察のチェックポイント。乳幼児突然死症候群・揺さぶられっ子症候群の特徴と注意について理解する。外気浴の進め方、食中毒について。乳児の食育の意義、乳児の発達と食育。保育所における食育。	

12 乳児の健康と安全 (2)	アレルギー、与薬について、 乳児の不慮の事故	食物アレルギーの子どもへの対応。薬の扱いと与薬時の 注意点について学ぶ。保育所における事故、年齢別事故 内容等について理解する。具体的な資料と視聴覚教材を 通して理解する。
13 連絡帳	連絡帳の意義と役割 記入例と保護者とのかかわり	連絡帳の意義と役割、書き方のポイントと保護者とのかか わり 事例を通して理解する。
14 研究発表	研究発表	研究したことを発表する。レポート提出
15 まとめ、試験	まとめ 試験	まとめと試験
[使用テキスト・参考文] 「保育所保育指針ハンドブック」(ポイント&実践サ ポート) 監修 大場幸夫、学研教育出版 「保育所保育指針解説書」フレーベル館 随時、資料を配布。		[単位認定の方法] 定期試験、提出物、授業態度、出席状況 以上、4つの観点から総合的に評価する。